

平成19年度

男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査

報 告 書

平成19年4月調査
勝 浦 市

は し が き

勝浦市では、勝浦市総合計画に基づき、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」を目指し、『勝浦市男女共同参画計画』の策定を行う予定です。

本調査は、勝浦市における家庭生活、男女の役割と平等意識、職業、少子・高齢化などの様々な面について市民の意識等を把握し、『勝浦市男女共同参画計画』を策定するための基礎資料とするために実施したものです。

終わりに、この調査の実施に当たり、ご協力いただきました皆様方に、厚くお礼申し上げます。

平成 19 年 7 月

勝浦市長 藤 平 輝 夫

目 次

調 査 の 概 要	1
1 調査の趣旨	1
2 調査内容	1
3 調査設計	1
4 回収結果	1
5 報告書の見方	2
1. 回答者のプロフィール	3
（1）性別	3
（2）年齢構成	3
（3）世帯構成	3
（4）世帯構成	4
（5）子どもの有無	5
（6）職業構成	5
2. 男女の平等意識	9
（1）男女の平等意識	9
（2）平等になるために重要なこと	17
（3）「男は仕事、女は家庭」の考え方	19
3. 家庭生活	20
（1）家事等の役割分担	20
（2）理想的な家事等の役割分担	22
（3）家庭生活について	24
4. 少子・高齢化	36
（1）出生率低下の原因	36
（2）老後についての不安感	38
（3）介護が必要になった時の対応	40
5. 教育	42
子どもの教育における男女平等の意識	42
6. 人権	48
女性の人権が侵害されていると感じること	48
7. 用語の周知度	50
用語の周知度	50
8. 職業	52
（1）職場での性による差別	52
（2）有給休暇、育児・介護休業の取りやすさ	57
（3）働いていない理由	58
（4）将来就業の希望について	60
（5）働いている理由、働きたい理由	64
（6）管理職の登用についての考え方	66
（7）女性の就業状態（理想、現実、次世代）	68
（8）年収調整について	72
（9）女性の収入に対する考え方	74
9. 仕事と家庭生活の両立	75
仕事と家庭生活の両立のために必要な環境整備	75
10. ポジティブ・アクション	79
（1）ポジティブ・アクションの取組みについての考え方	79

(2) 数値目標の設定についての考え方.....	80
(3) 様々な職業分野への女性の参画について.....	82
1 1. 社会活動などへの参画.....	83
(1) 政策・方針決定にかかわる役職・公職への女性の進出についての考え方.....	83
(2) 地域活動への参画状況、参画意向.....	85
1 2. 自由記述.....	87
男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査.....	93

調査の概要

調査の概要

1 調査の趣旨

この調査は、本市における男女共同参画施策計画を策定する上での基礎資料を得るために実施し、本市の男女共同参画の意識、実態について把握し、その問題点を解析し、課題を明確にすることを目的としている。

2 調査内容

- (1) 男女平等意識
- (2) 家庭生活
- (3) 少子・高齢化
- (4) 教育
- (5) 人権
- (6) 用語の周知度
- (7) 職業
- (8) 仕事と家庭生活の両立
- (9) ポジティブ・アクション
- (10) 社会活動などへの参加・参画
- (11) 属性

3 調査設計

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| (1) 調査地域 | 勝浦市全域 |
| (2) 調査対象 | 勝浦市に住民登録のある満 20 歳以上の男女 |
| (3) 標本数 | 1,000 人 |
| (4) 標本抽出法 | 住民基本台帳に基づく無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送により調査票、返信用封筒を配布し、郵送により回収 |
| (6) 調査期間 | 平成 19 年 4 月 27 日から 5 月 31 日 |

4 回収結果

- | | |
|----------|------------------|
| (1) 回収通数 | 386 通 (38.6%) |
| | 女性 226 通 (22.6%) |
| | 男性 153 通 (15.3%) |
| | 性別不明 7 通 (9.0%) |

5 報告書の見方

本報告書を読む際の留意点

- (1) 結果はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、合計が100%にならないことや、個々の比率の合計とその小計の数値が一致しないことがある。
- (2) 回答比率は、各設問の回答者総数を100%として算出した。
- (3) 標本誤差は、回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、層化二段無作為抽出法による場合の誤差（信頼度95%）は次の式によって得られる。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(P-1)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数
 (サンプル数)
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

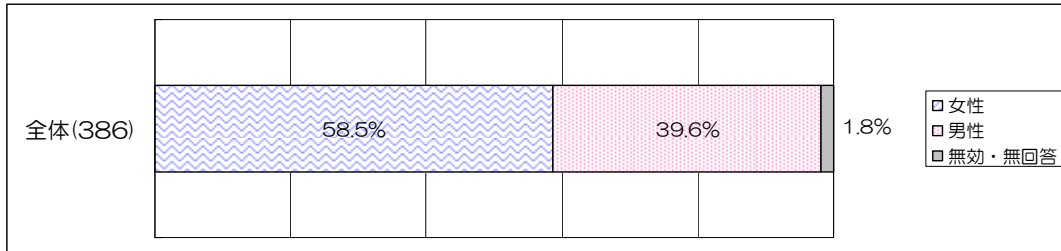
回答比率(P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
500	±2.59%	±3.46%	±3.96%	±4.24%	±4.32%
400	±2.91%	±3.88%	±4.44%	±4.75%	±4.85%
386	±2.96%	±3.95%	±4.52%	±4.84%	±4.94%
300	±3.37%	±4.49%	±5.14%	±5.50%	±5.61%
200	±4.14%	±5.51%	±6.32%	±6.75%	±6.89%

例えば、「ある設問の回答者数が386人であり、その設問中の選択肢の回答比率が40%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±4.84%以内(35.16%～44.84%)である」とみることができる。

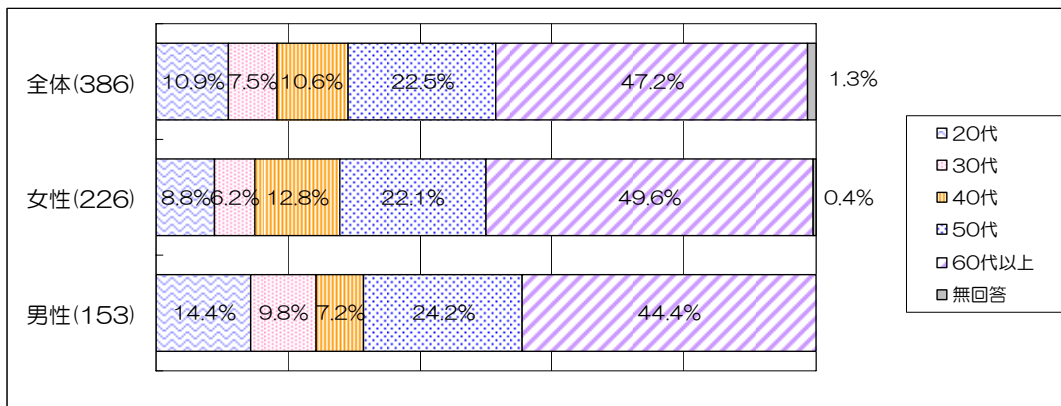
調査の結果

1. 回答者のプロフィール

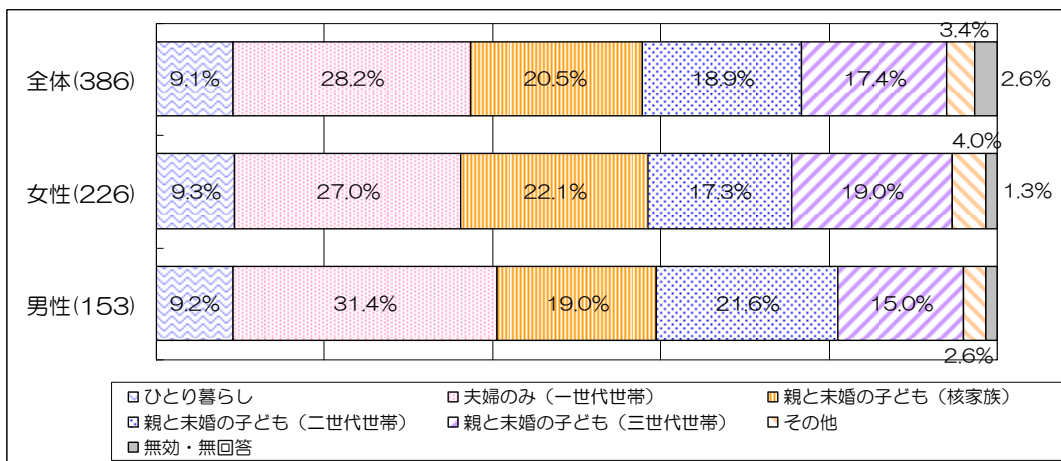
(1) 性別

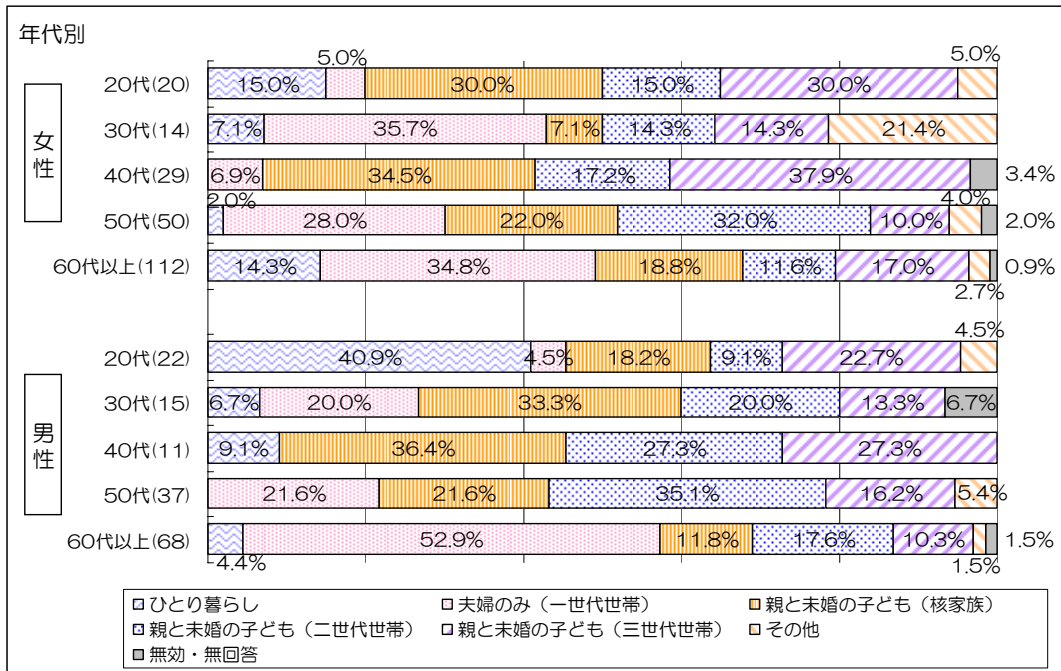


(2) 年齢構成

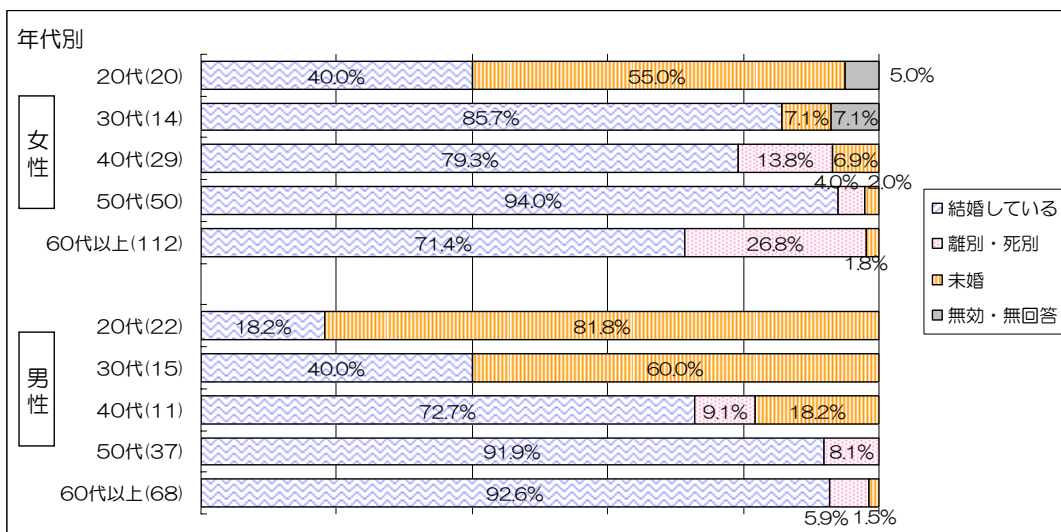
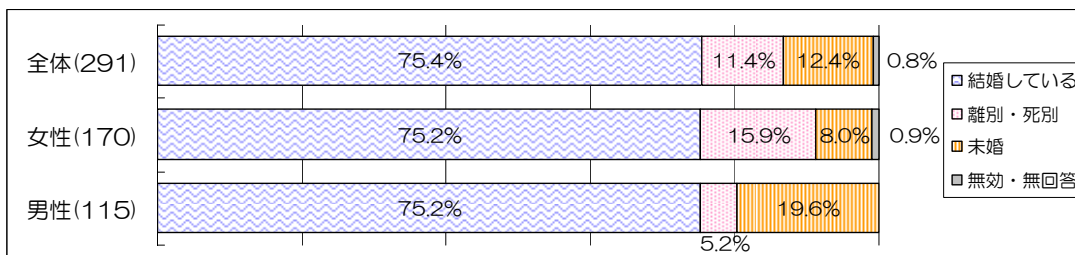


(3) 世帯構成

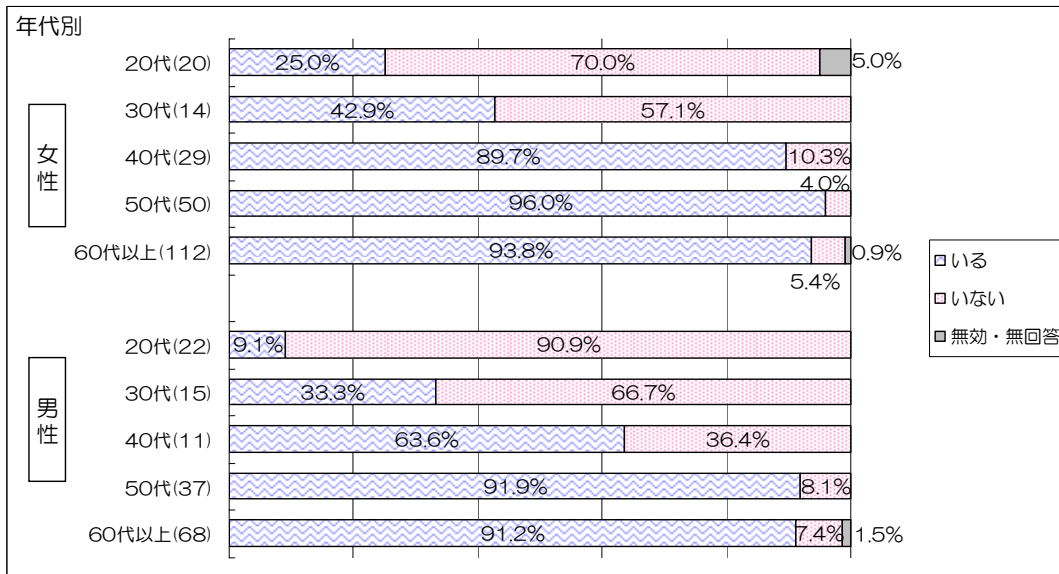
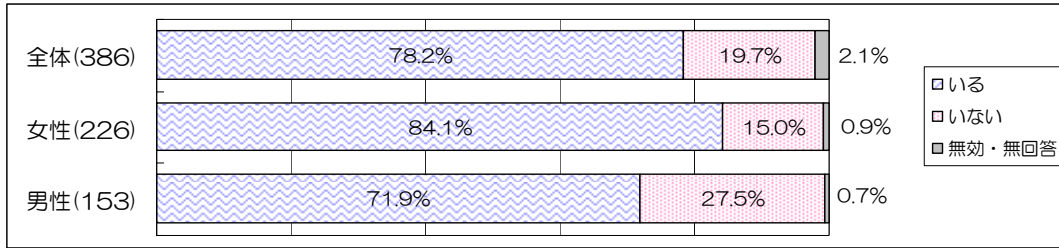




(4) 世帯構成

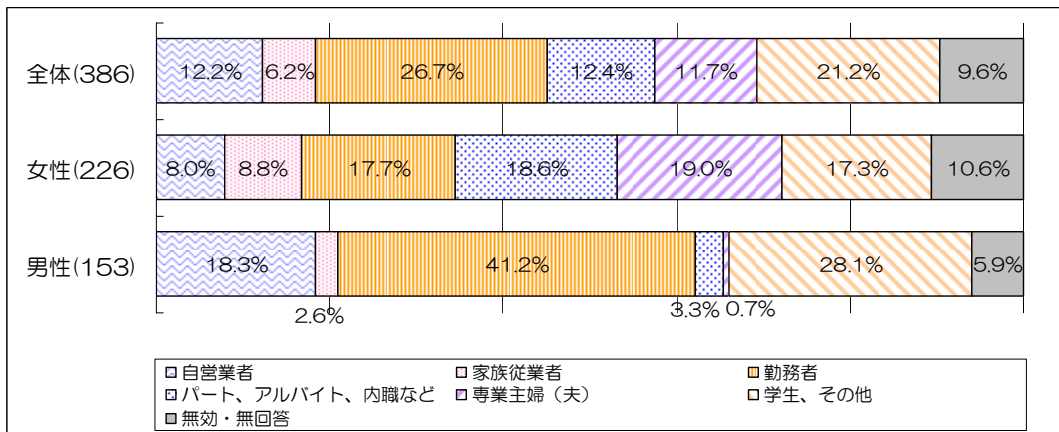


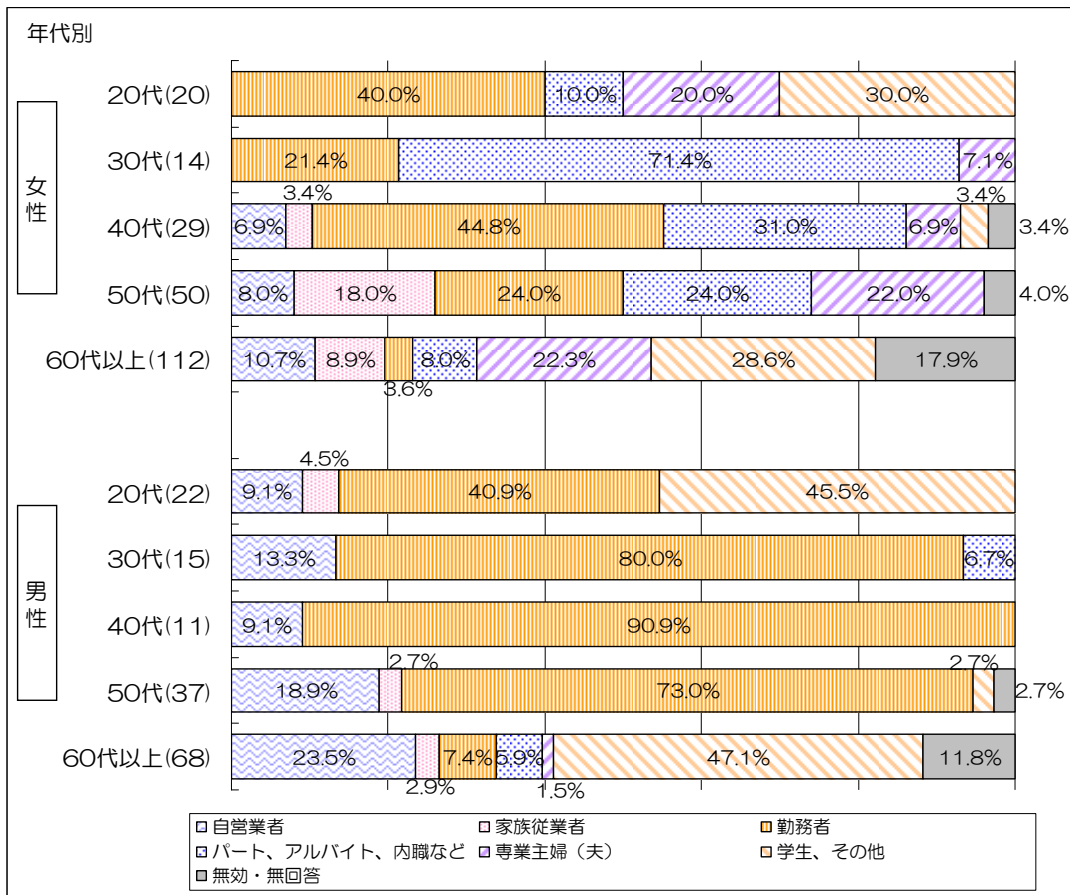
(5) 子どもの有無



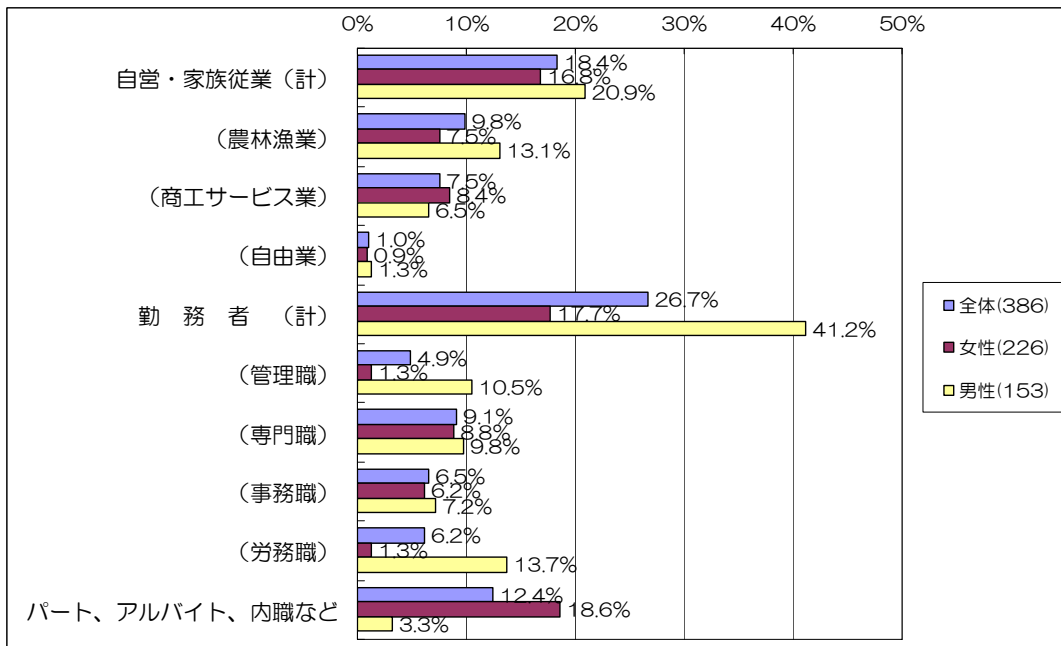
(6) 職業構成

①本人の職業

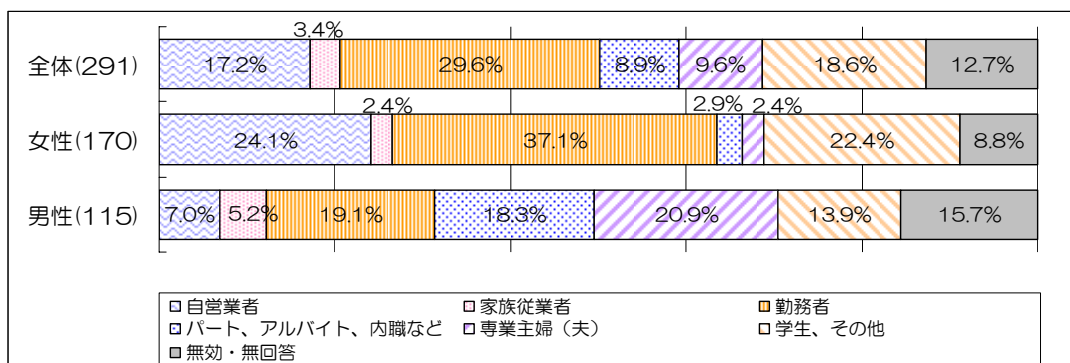




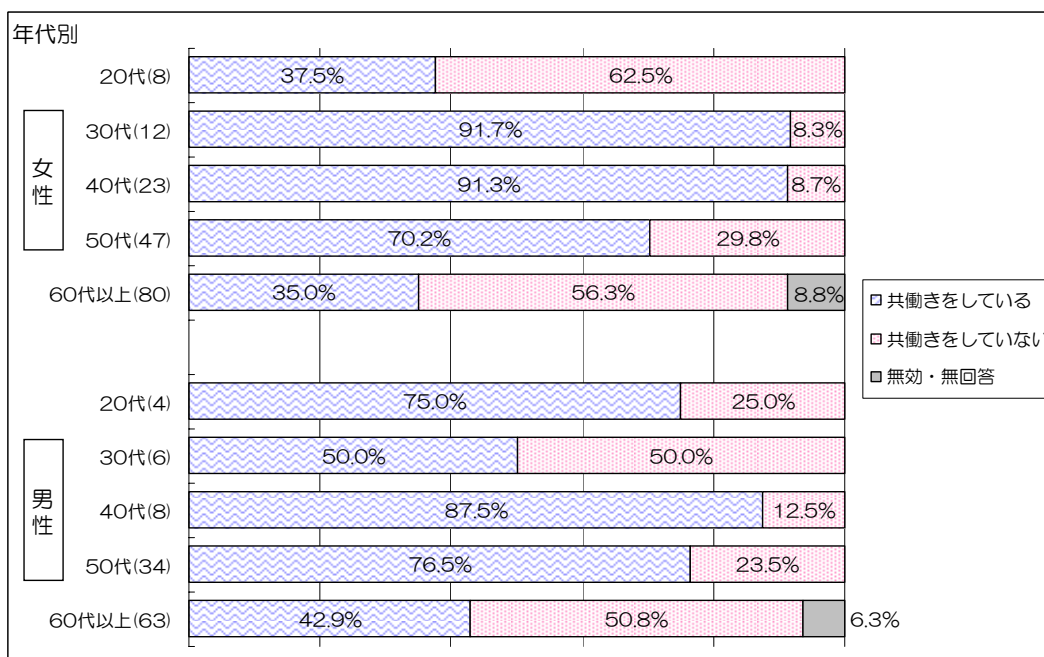
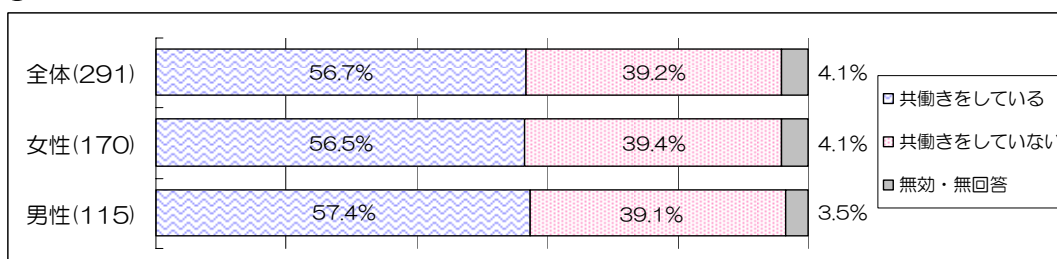
②職種

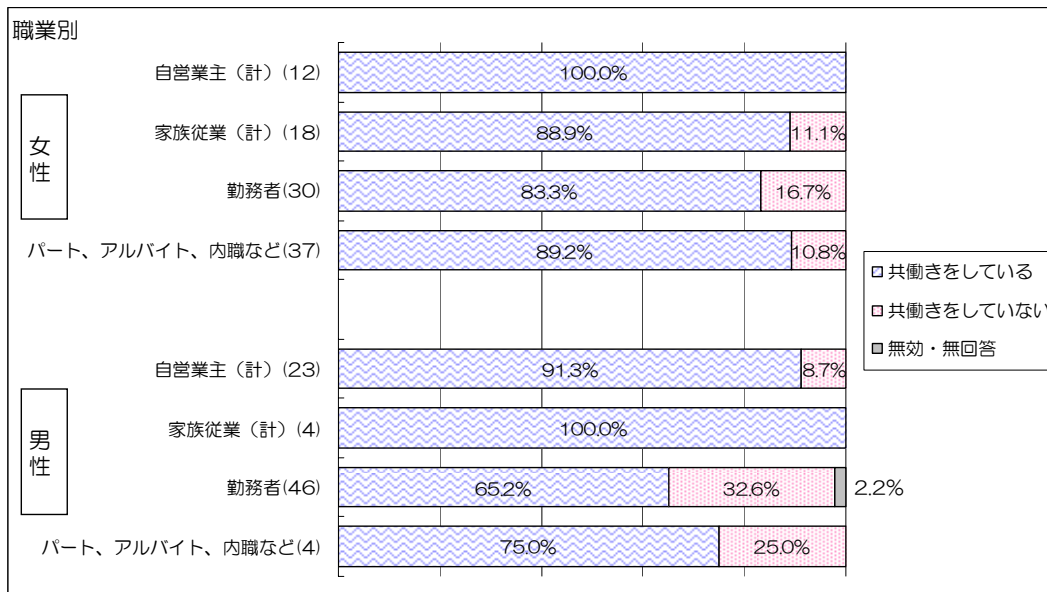


③配偶者の職業



③共働き状況

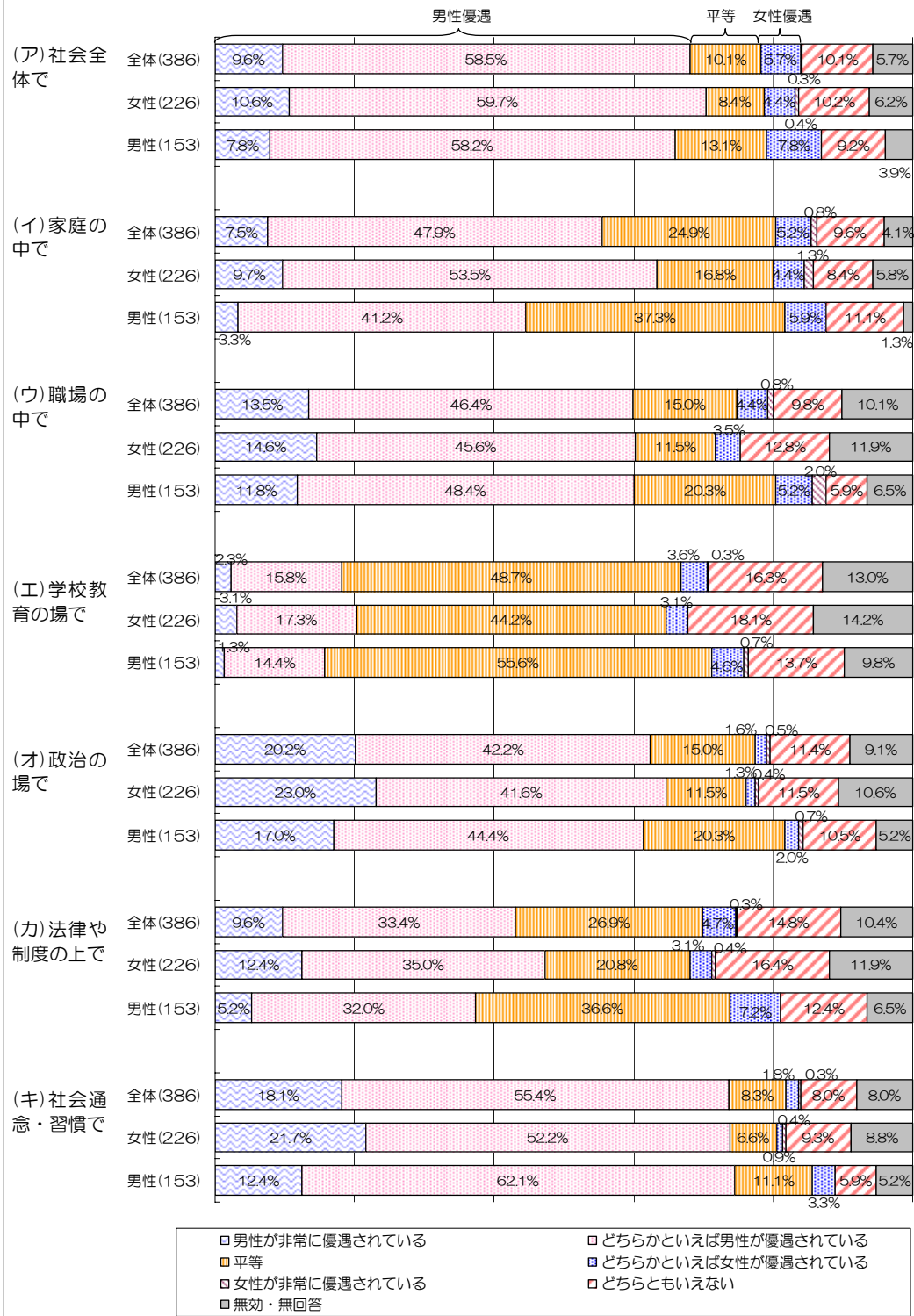




2. 男女の平等意識

(1) 男女の平等意識

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次の(ア)～(キ)のそれぞれについてあなたの考えに近いものを選んでください。(〇はそれぞれに1つ)

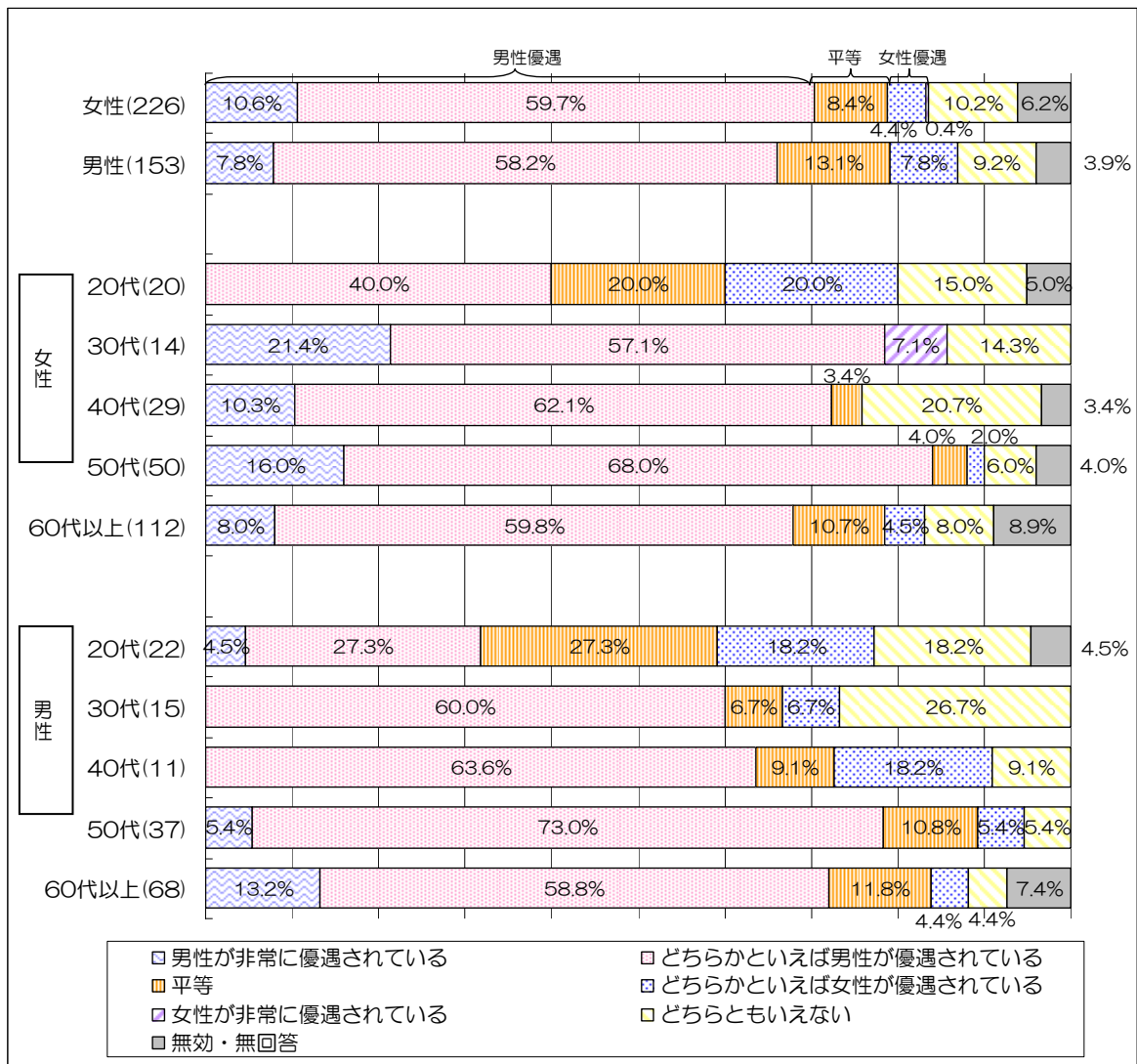


「社会全体で」、「家庭のなかで」、「職場のなかで」、「学校教育の場で」、「政治の場で」、「法律や制度の上で」、「社会通念・慣習で」の7分野について、男女の地位が平等になっているかどうかの設問であるが、「学校教育の場で」を除くすべての分野で男性優遇の回答割合が高い。

(ア) 社会全体で

女性の70.3%、男性の66.0%が『男性優遇』と回答しており、男女ともに不平等と感じる割合が高くなっている。

年代別では、全体的に『男性優遇』の割合が高く、女性の50代(84.0%)、男性の50代(78.4%)が最も高くなっている。

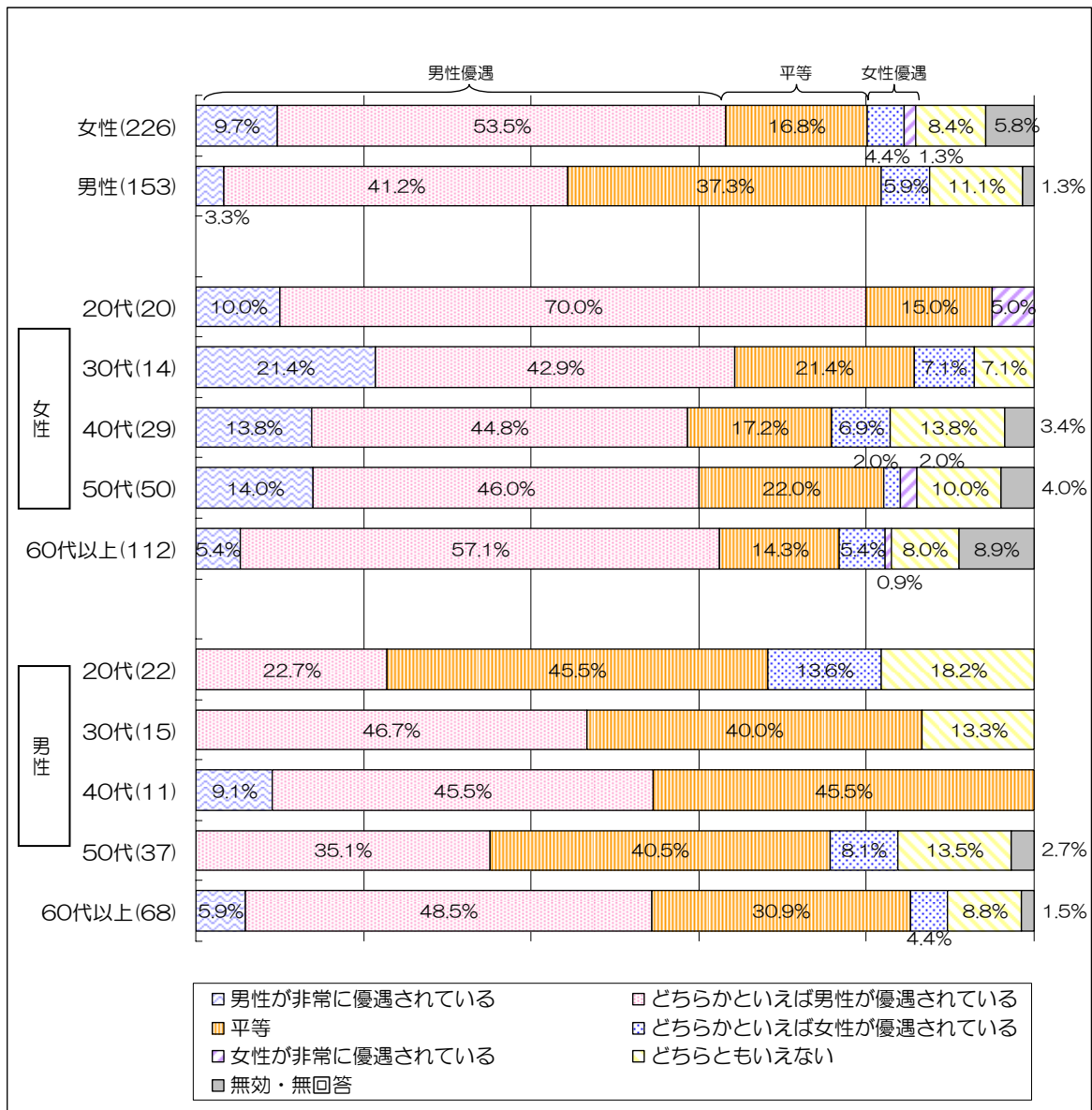


(イ) 家庭の中で

男女ともに『男性優遇』(女性 63.2%、男性 44.5%) が『平等』(女性 16.8%、男性 37.3%) の割合を上回っているが、女性よりも男性のほうが平等と感じている割合が高くなっている。

年代別には、20代の女性で『男性優遇』と回答した割合が 80.0%であるのに対し、男性の20代では 22.7%と 57.3ポイントの差が開いている。

また、男性の20代と50代のみ『男性優遇』(22.7%、35.1%) よりも『平等』(45.5%、40.5%) と回答している割合が高くなっている。

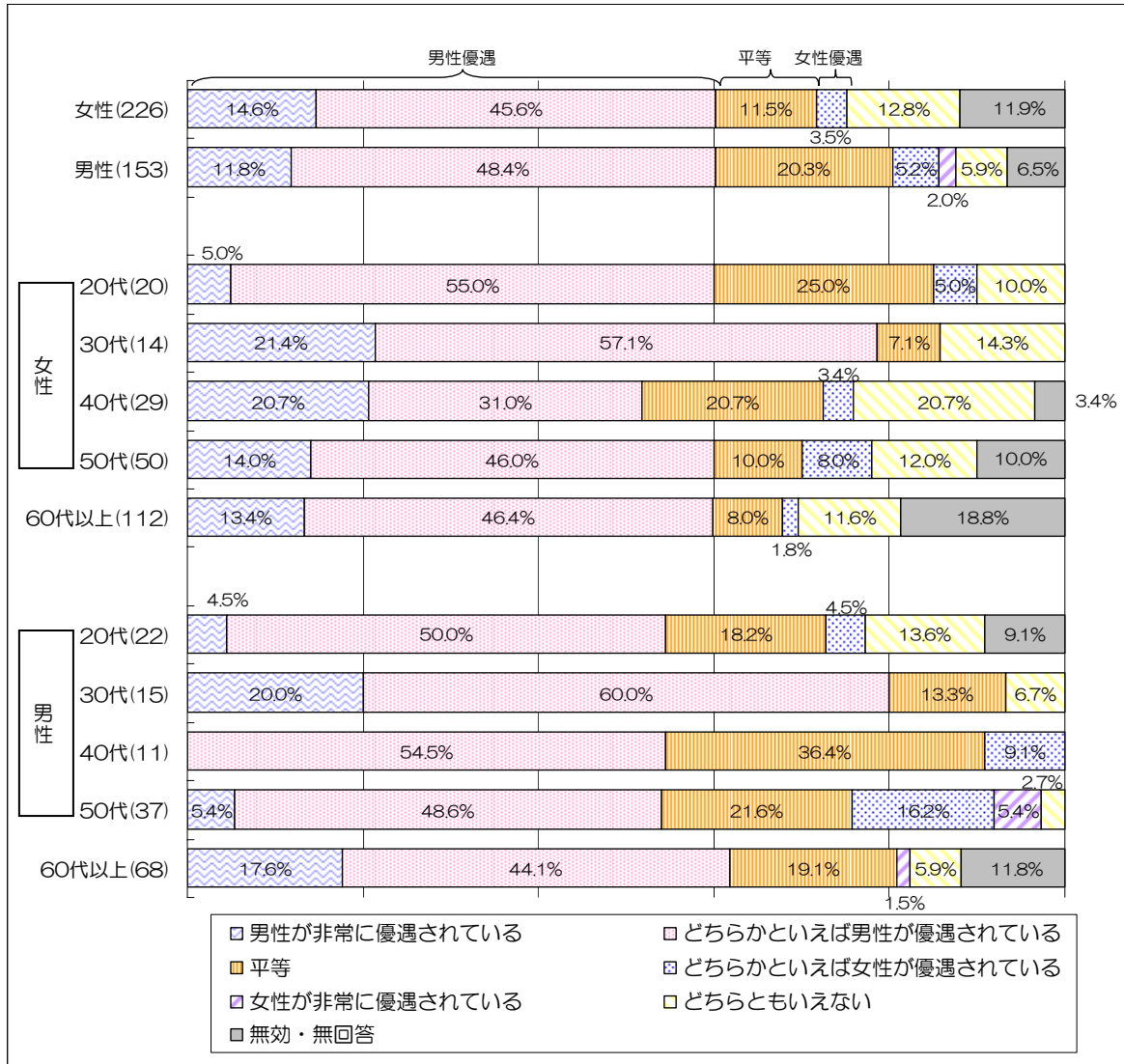


(ウ) 職場の中で

女性の60.2%、男性の60.2%が『男性優遇』と回答し、男女ともに、不平等と感じている割合が高くなっている。

年代別には、すべての年代で半数以上が『男性優遇』と回答している。

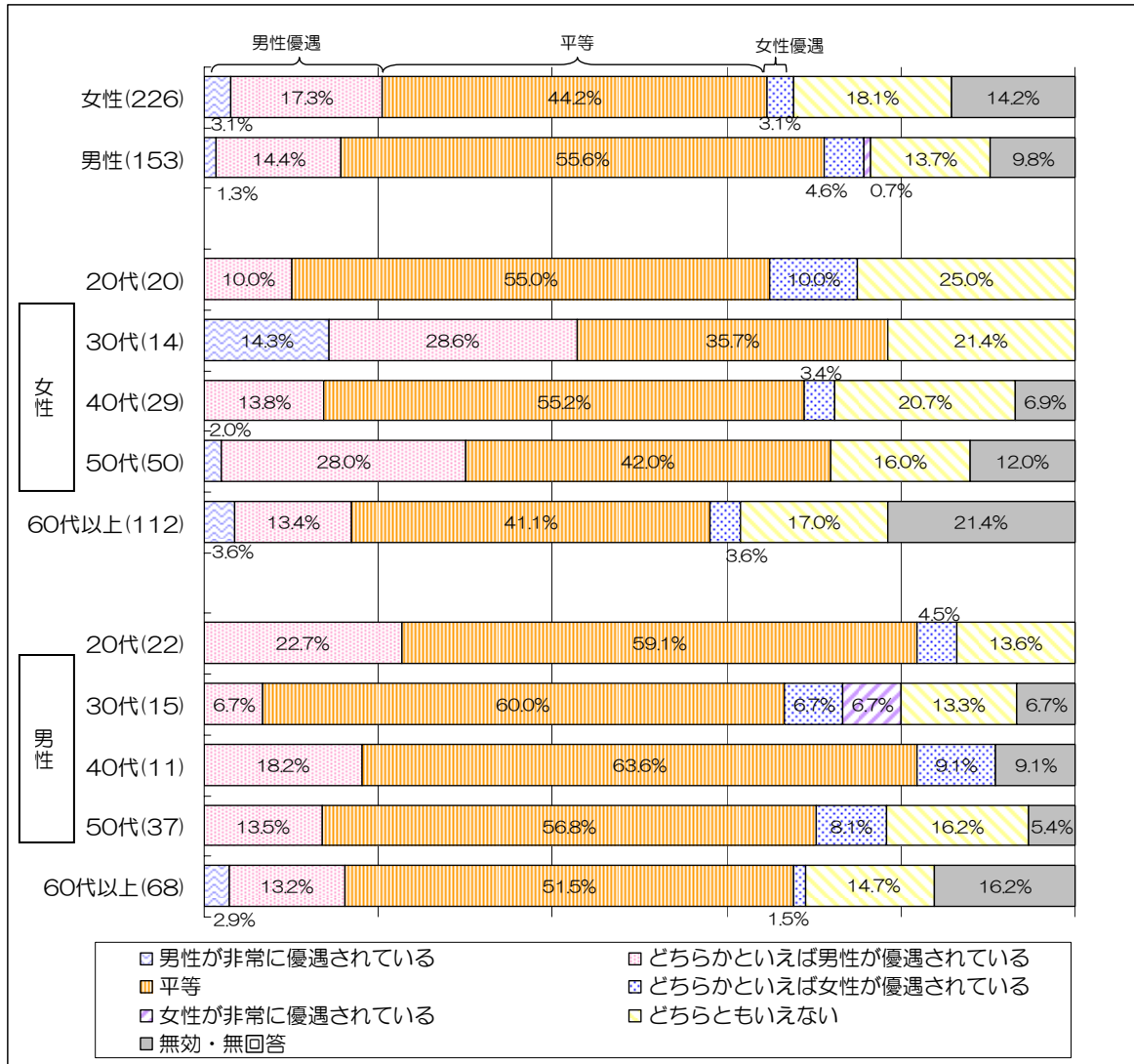
また、『平等』と感じている割合については、女性の20代(25.0%)と40代(20.7%)が他の年代よりも回答割合が高く、男性では40代(36.4%)と50代(21.6%)が高い回答割合となっている。



(エ) 学校教育の場で

男女ともに『平等』(女性 44.2%、男性 55.6%) と回答している割合が『男性優遇』(女性 20.4%、男性 15.7%) と回答している割合が高く、『平等』に関しては、女性よりも男性のほうが 11.4 ポイント高くなっている。

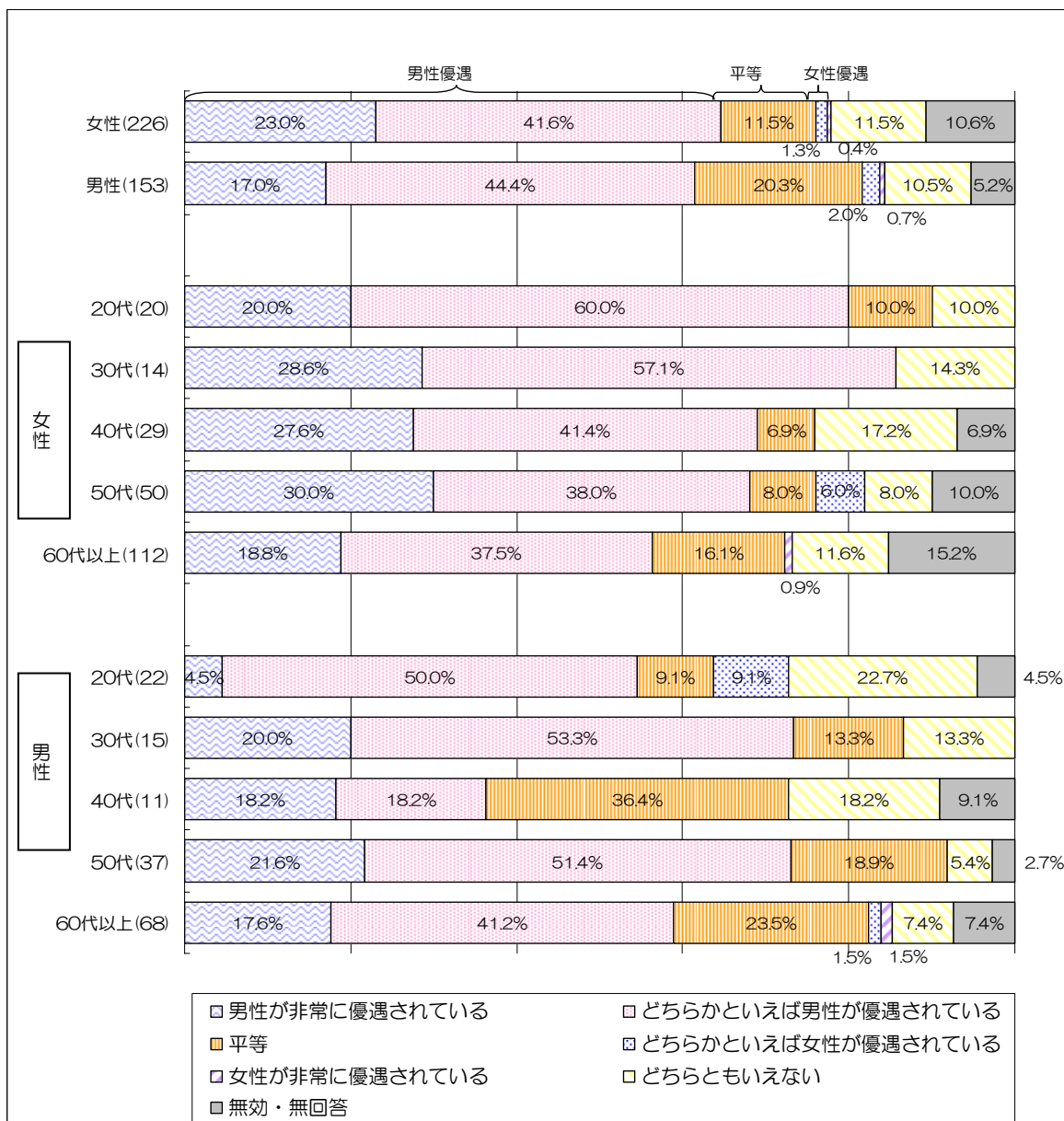
年代別には、女性の 30 代のみ『平等』(35.7%) よりも『男性優遇』(42.9%) と回答している割合が 7.2 ポイント高くなっている。



(オ) 政治の場で

男女ともに、『男性優遇』(女性 64.6%、男性 61.4%)が『平等』(女性 11.5%、男性 20.3%)と回答した割合が高くなっており、『平等』に関しては、男性のほうが女性よりも 8.8 ポイント高くなっている。

年代別には、20代及び30代女性の80%以上が『男性優遇』と回答している一方、男性の40代では、『男性優遇』及び『平等』と回答した割合がともに36.4%となっている。

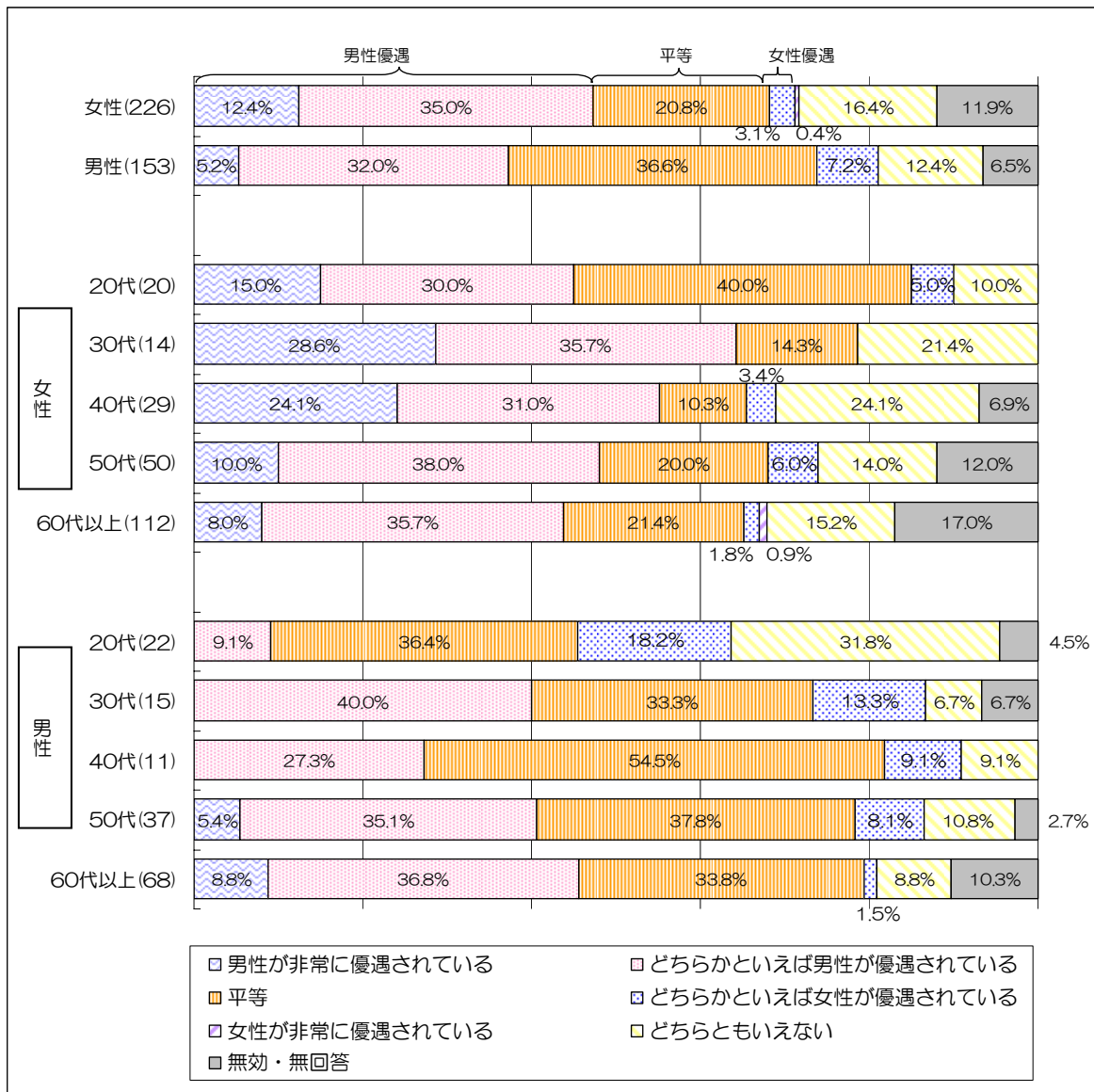


(カ) 法律や制度の上で

男性よりも女性のほうが『男性優遇』（女性 47.4%、男性 37.2%）と感じている割合が高く、女性よりも男性のほうが『平等』（女性 20.8%、男性 36.6%）と感じている割合が高くなっている。

年代別には、20代では女性の45.0%が『男性優遇』と回答し、男性では9.1%が『男性優遇』、18.2%が『女性優遇』と回答している。

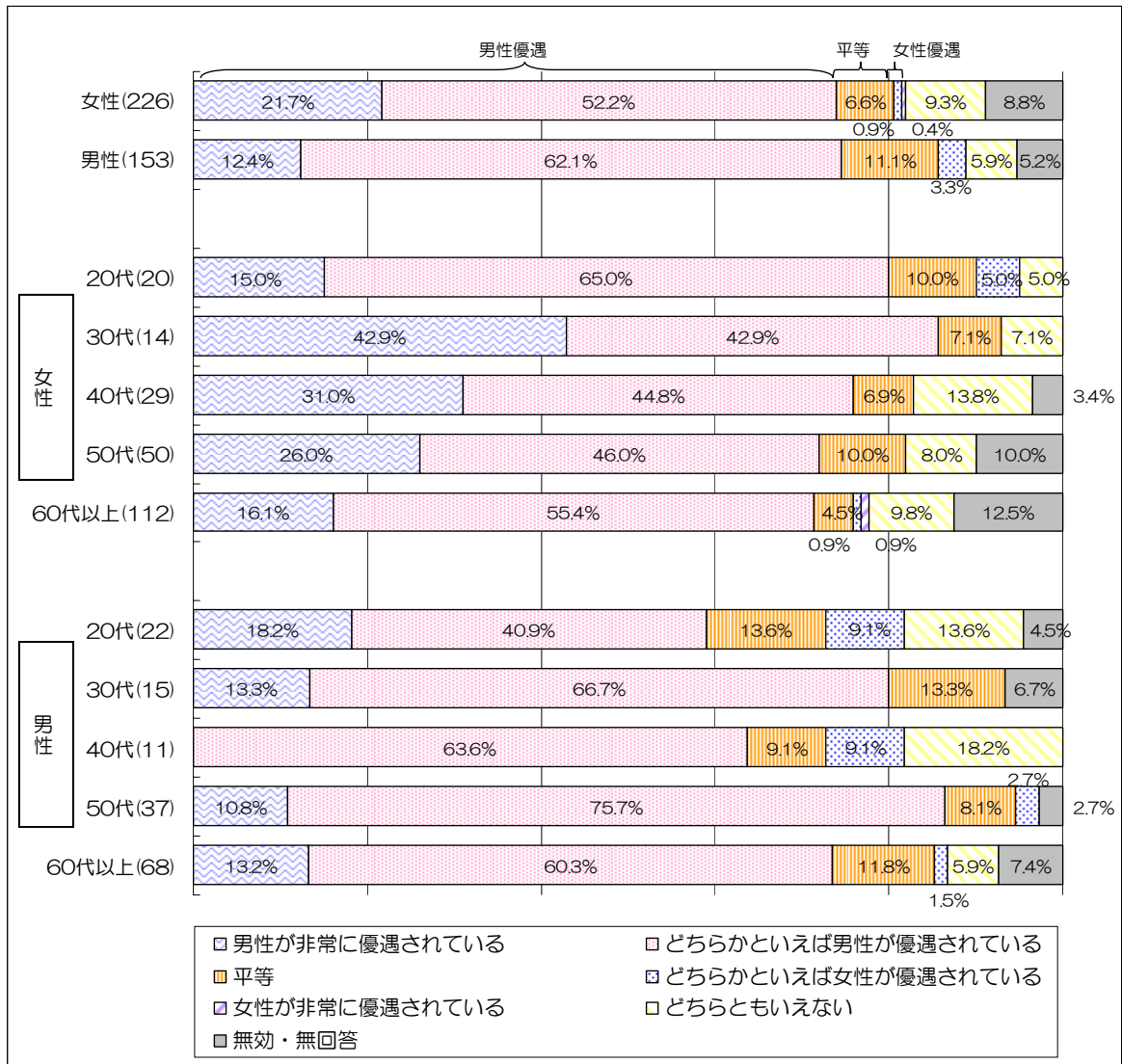
また、40代女性の55.1%が『男性優遇』、10.3%が『平等』と回答している一方、40代男性では27.3%が『男性優遇』、54.3%が『平等』と回答している。



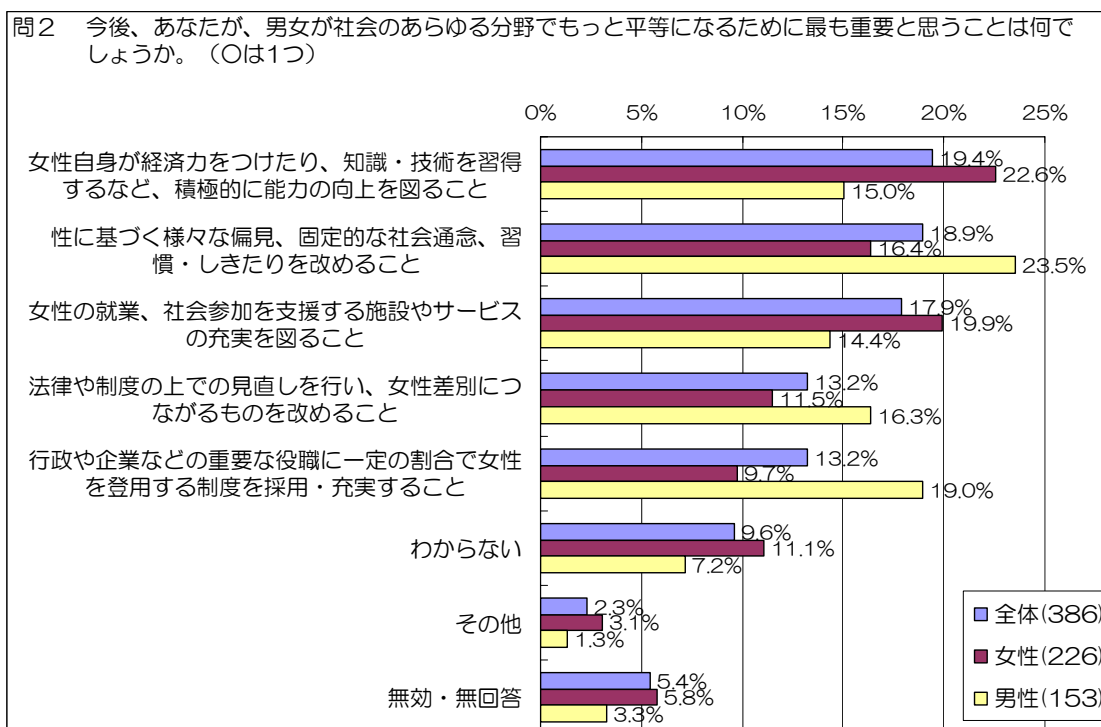
(キ) 社会通念・慣習で

女性の73.9%、男性の74.5%が『男性優遇』と回答している。

年代別に見ても、すべての年代で『男性優遇』と回答している割合が高く、中でも『男性が非常に優遇されている』と回答している割合が女性の30代(42.9%)及び40代(31.0%)で高くなっている。

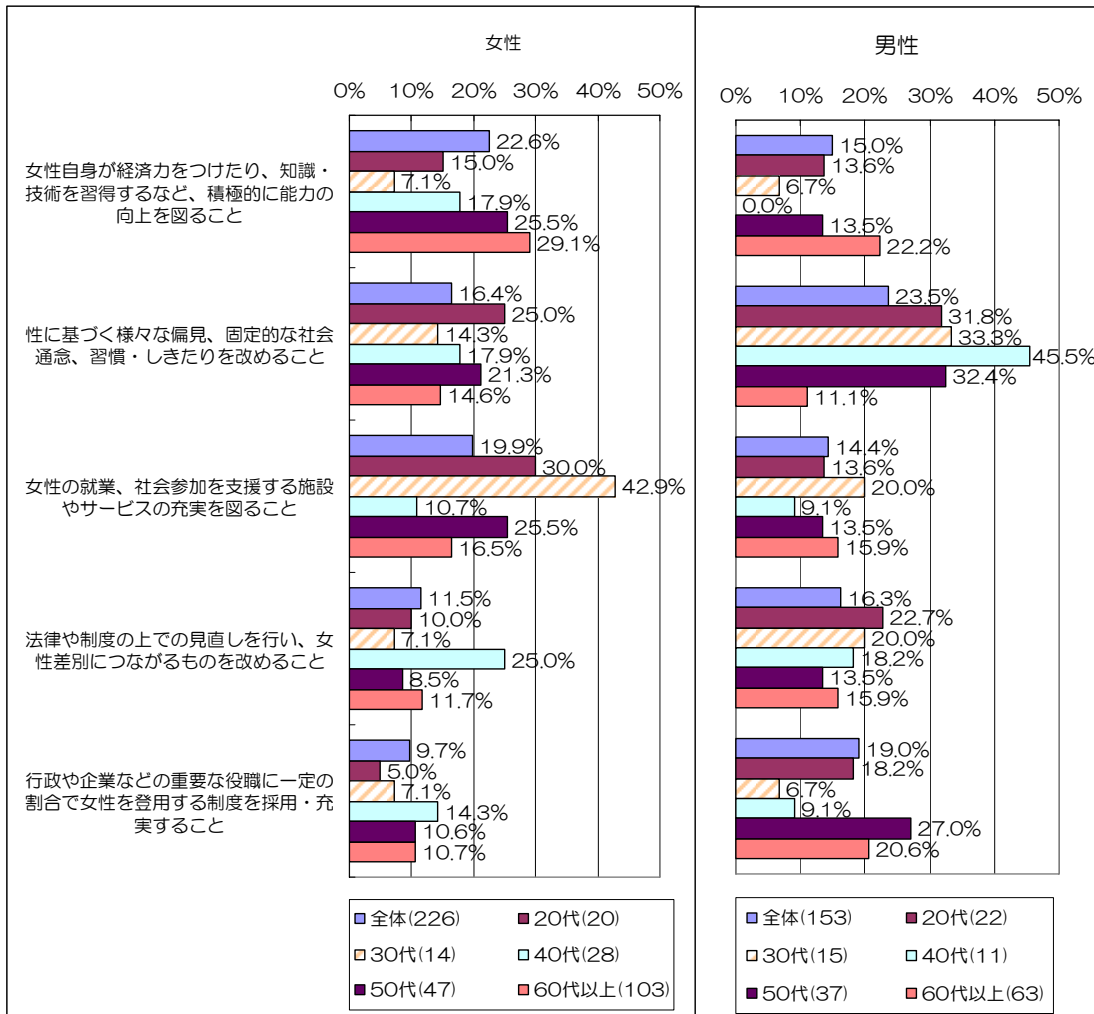


(2) 平等になるために重要なこと



男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために何が最も重要であるかについて聞いたところ、女性は『女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること』(22.6%)と回答している割合が最も高く、次いで、『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』(19.9%)、『性に基づく様々な偏見、固定的な社会通念、習慣・しきたりを改めること』(16.4%)となっている。

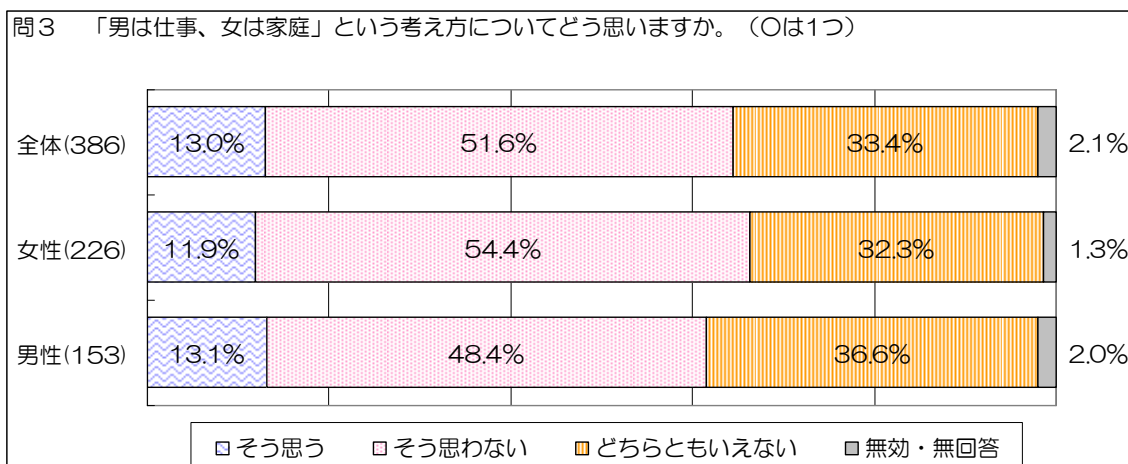
男性は、『性に基づく様々な偏見、固定的な社会通念、習慣・しきたりを改めること』(23.5%)が最も高く、次いで、『行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること』(19.0%)、『法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること』(16.3%)となっている。



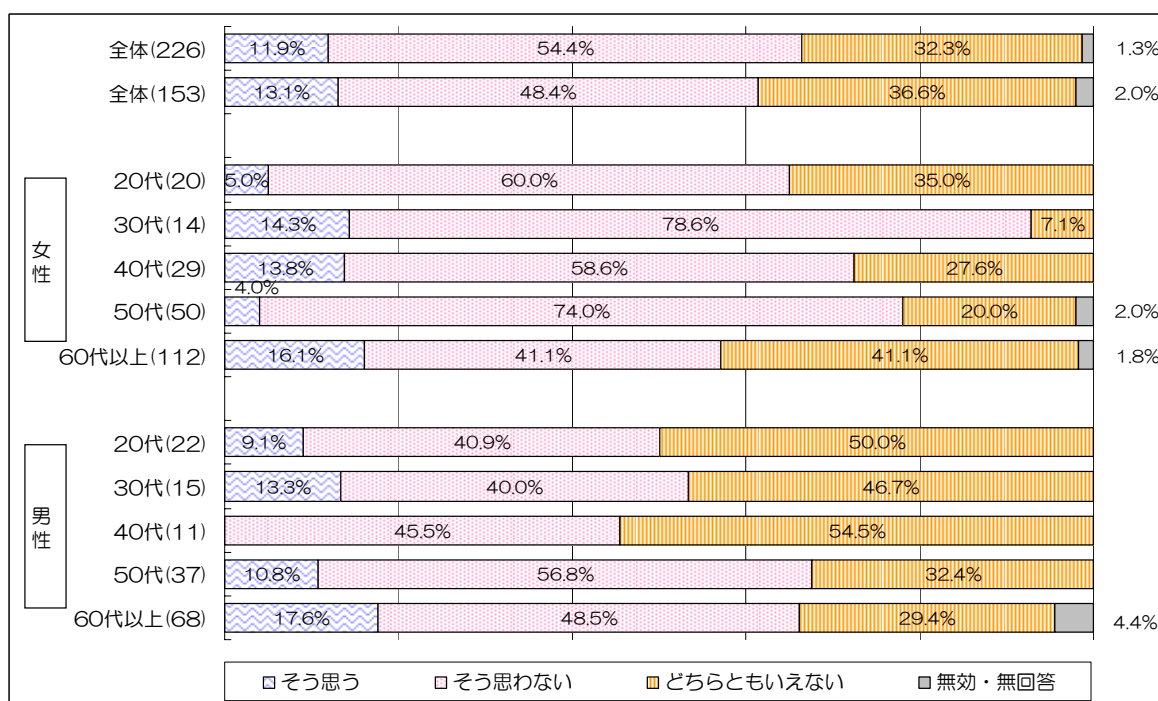
年代別に見れば、女性の20代（30.0%）及び30代（42.9%）で『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』と回答している割合が高く、男性では、50代以下で『性に基づく様々な偏見、固定的な社会通念、習慣・しきたりを改めること』と回答している割合が高くなっている。

また、男女とも60代以上では『女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること』の回答割合が高くなっている。

(3) 「男は仕事、女は家庭」の考え方



「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識については、男女ともに『そう思わない』(女性 54.4%、男性 48.4%) と回答している割合が高くなっている。

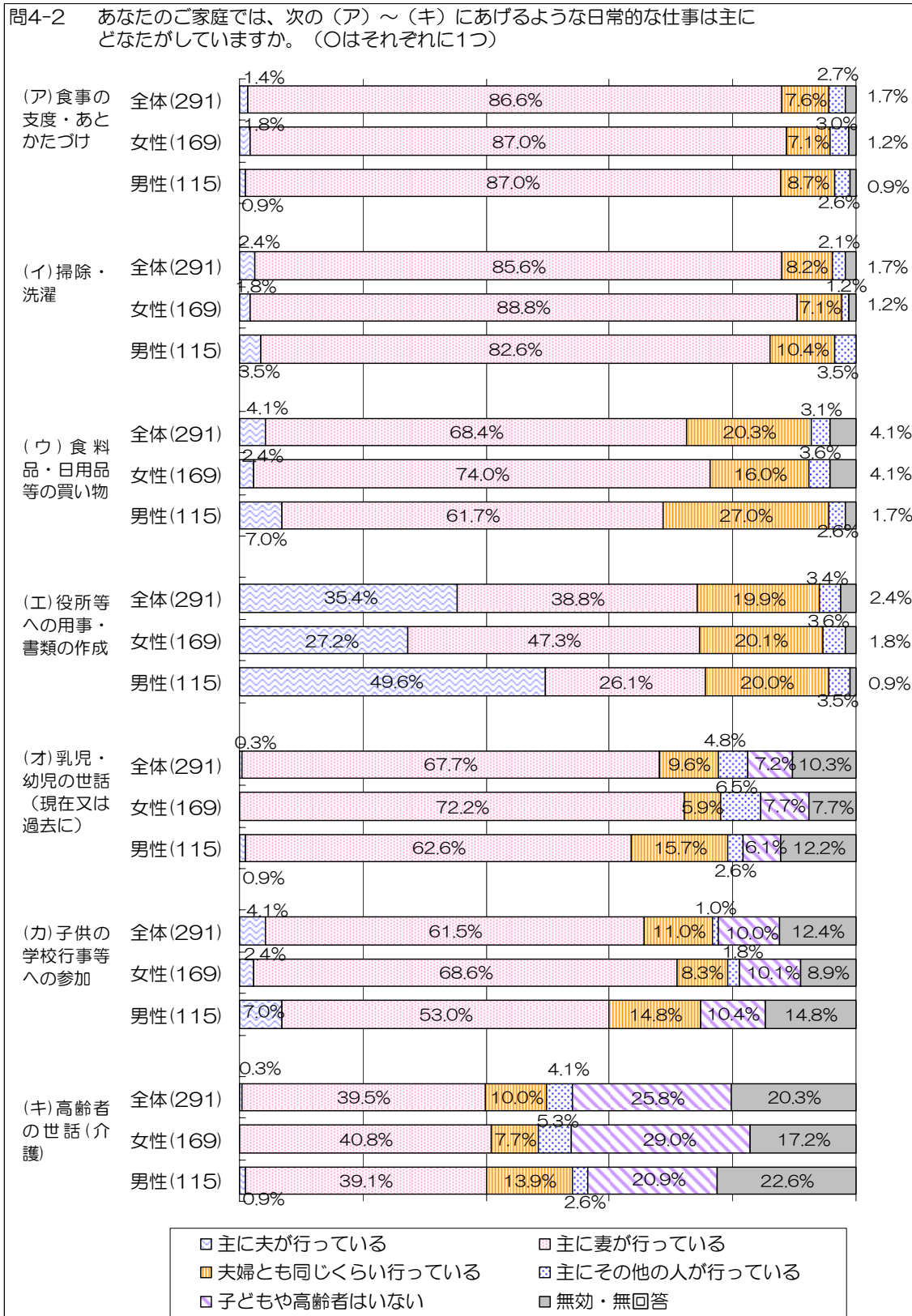


年代別に見れば、すべての年代で『そう思わない』と回答している割合が高く、中でも、女性の30代(78.6%)、男性の50代(56.8%)の割合が高くなっている。

また、男女とも60代以上で『そう思う』(女性 16.1%、男性 17.6%) と回答している割合が高くなっている。

3. 家庭生活

(1) 家事等の役割分担



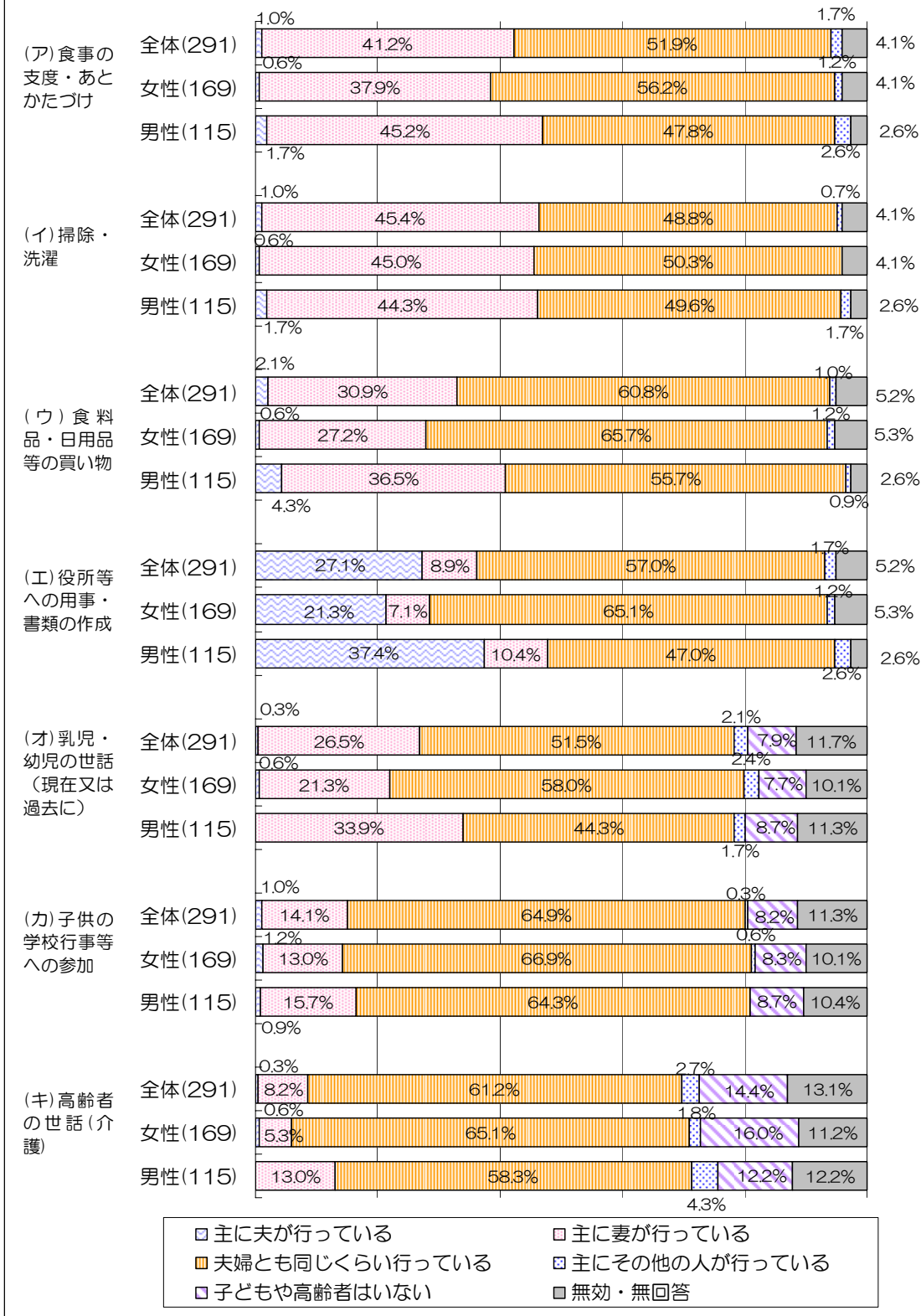
家事等の役割分担では、「役所等への用事・書類の作成」では、女性は『主に夫が行っている』(27.2%)と回答しているのに対し、『主に妻が行っている』(47.3%)と回答している。一方男性は『主に夫が行っている』(49.6%)と回答しているのに対し、『主に妻が行っている』(26.1%)と回答し、男女間で差がみられる。

また、『食事の支度、あとかたづけ』(女性 87.0%、男性 87.0%)、『掃除・洗濯』(女性 88.8%、男性 82.6%)、『食料品・日用品等の買物』(女性 74.0%、男性 61.7%)、『乳児・幼児の世話』(女性 72.2%、男性 62.6%)、『子供の学校行事等への参加』(女性 68.6%、男性 53.0%)では、『主に妻が行っている』と回答している割合が高くなっている。

また、『高齢者の世話(介護)』は、子どもや高齢者がいないために設問の該当者とならない人を除くと、『主に妻が行っている』と回答した人の割合は 39.5% (女性 40.8%、男性 39.1%) と高くなっている。

(2) 理想的な家事等の役割分担

問4-3 では、あなたは理想として、次の(ア)～(キ)にあげるような日常的な仕事はどのように分担するのがよいと思いますか。(〇はそれぞれに1つ)

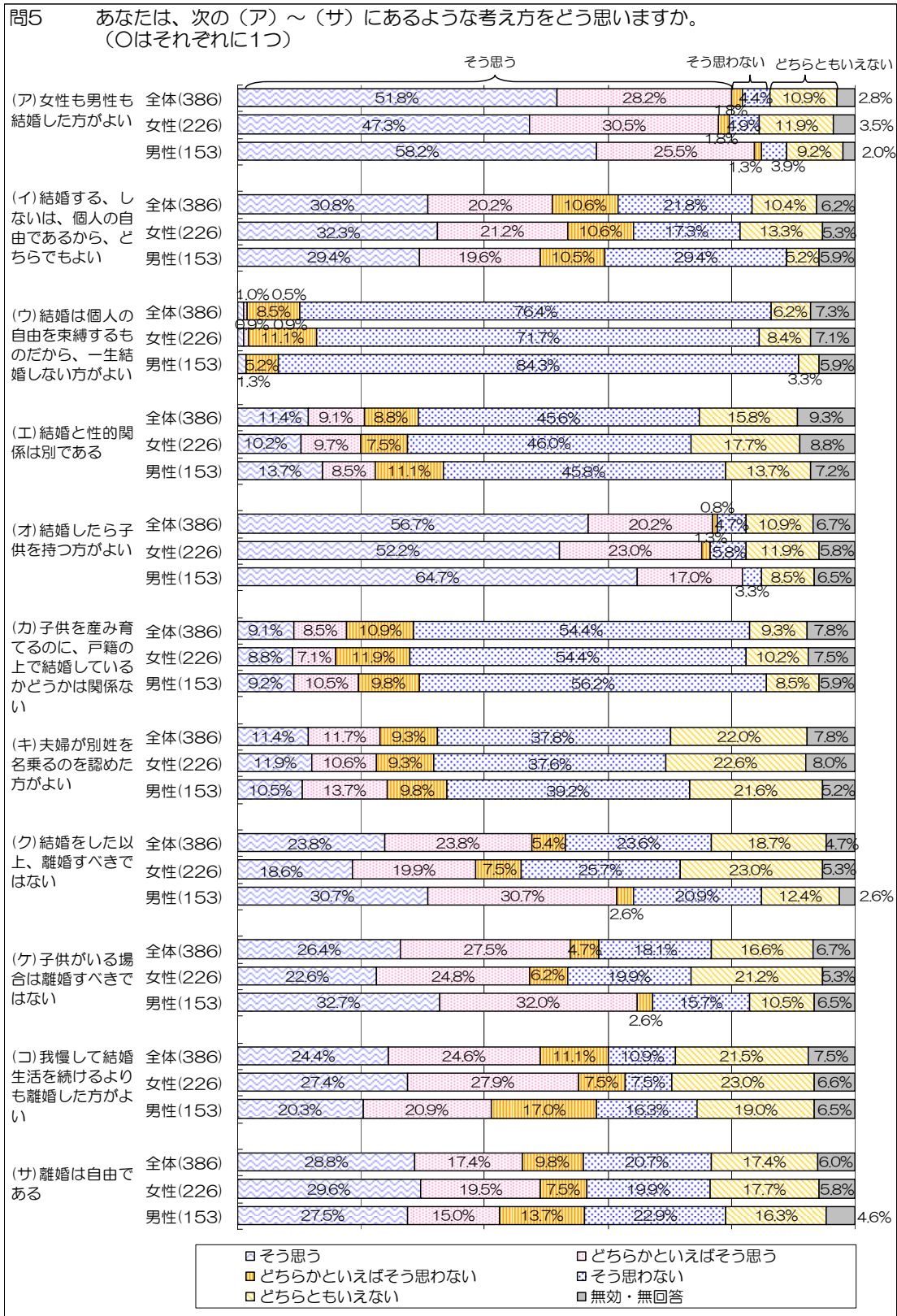


家事等の役割分担に関する理想は、すべての項目で『夫婦とも同じくらい』と回答している割合が高くなっている。特に、『子どもの学校行事等への参加』（女性 66.9%、男性 64.3%）及び『高齢者の世話（介護）』（女性 65.1%、男性 58.3%）では、その割合も高くなっている。

また、『役所等への用事・書類の作成』では、『主に夫が行っている』（女性 21.3%、男性 37.4%）が『夫婦とも同じくらい』（女性 65.1%、男性 47.0%）に次いで高くなっている。

その他の仕事については『主に妻が行っている』が『夫婦とも同じくらい』に次いで高くなっている。

(3) 家庭生活について

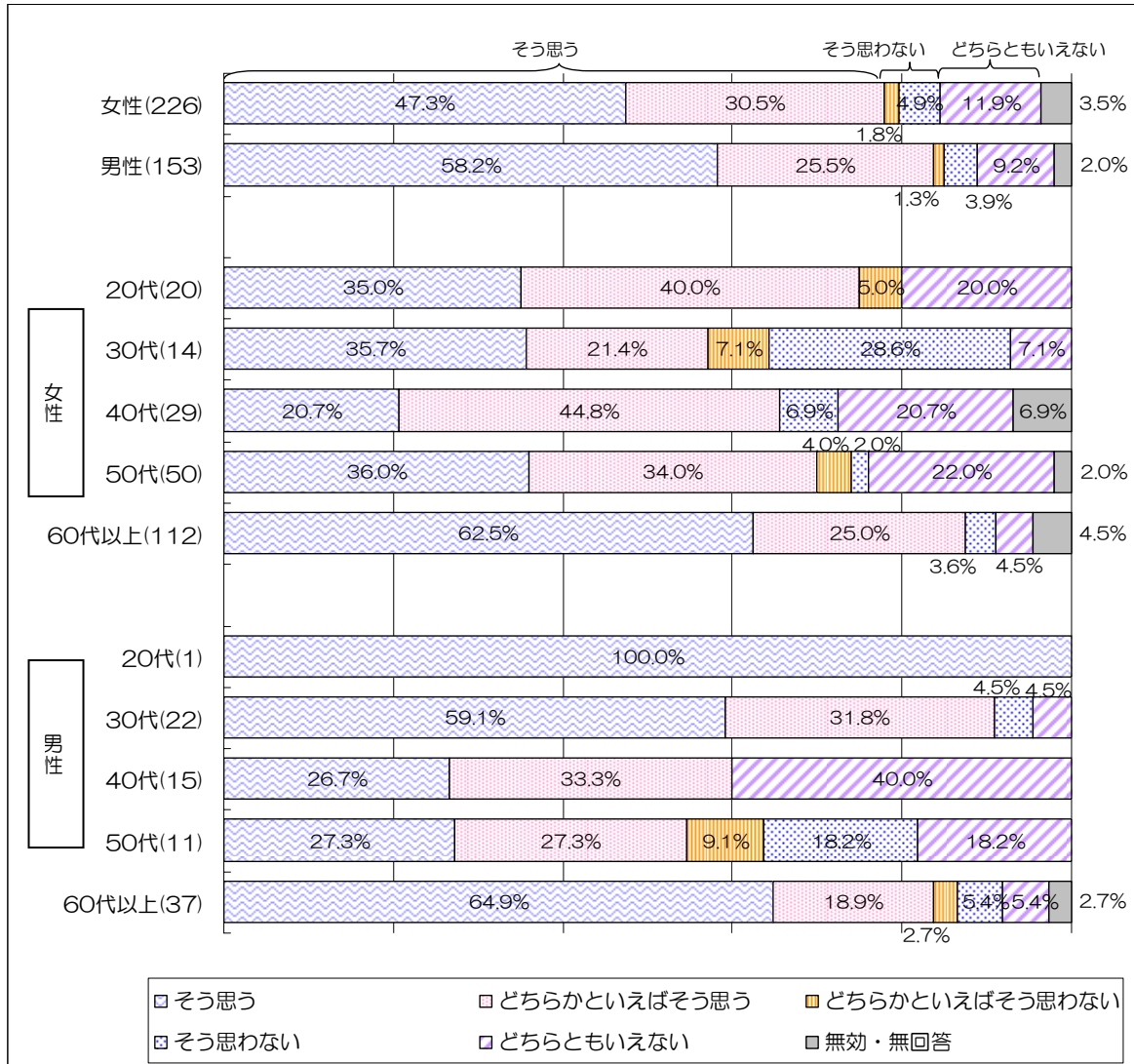


(ア) 女性も男性も結婚した方がよい

女性の 77.8%、男性の 83.7%が『そう思う』と回答し、男性のほうが『そう思う』と回答している割合が高くなっている。

年代別には、すべての年代で男女ともに『そう思う』と回答している割合が高くなっている。

また、『そう思わない』と回答している割合は、女性の 30 代 (35.7%) が他の年代と比較して高くなっている。

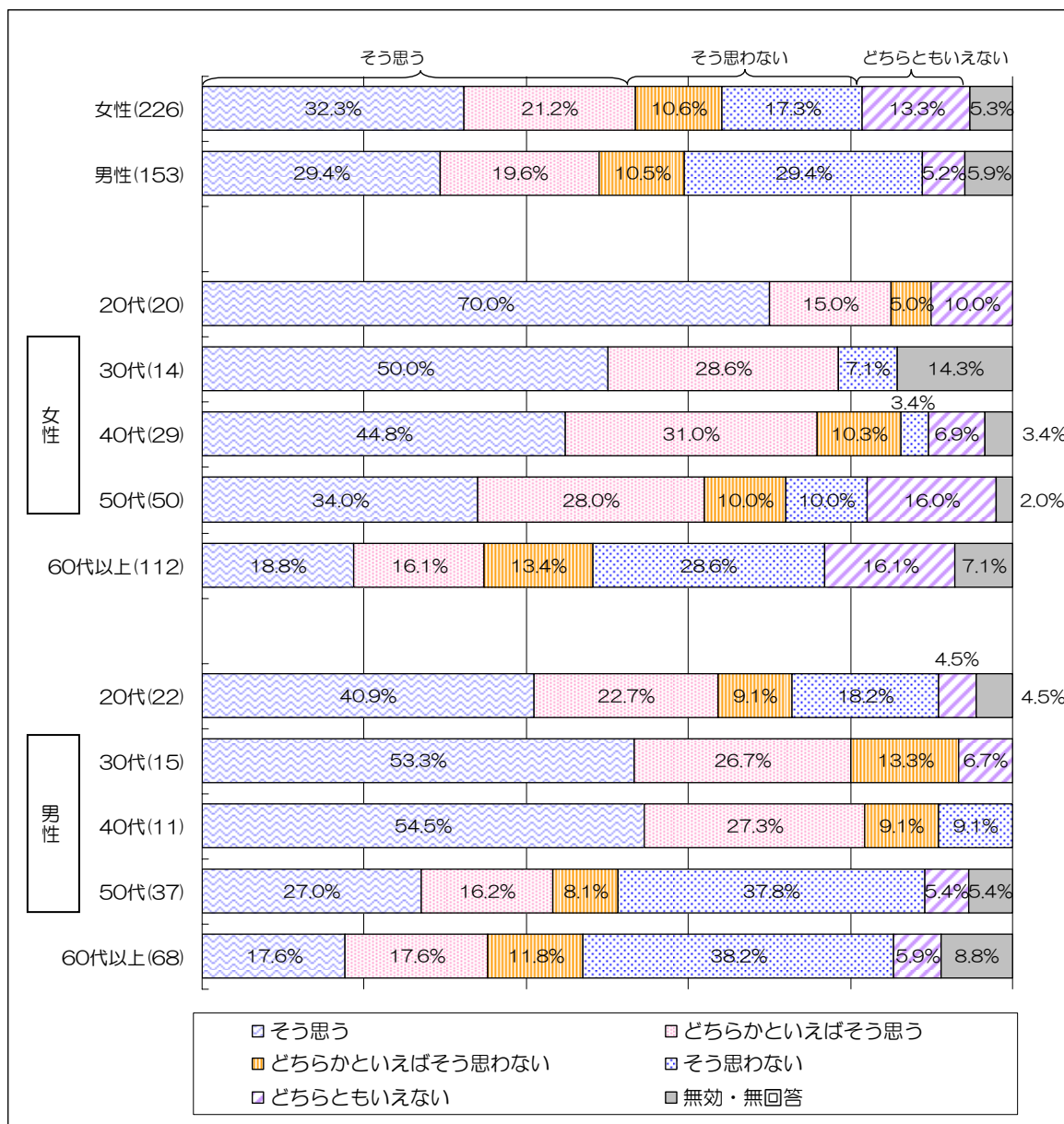


(イ) 結婚する、しないは、個人の自由であるから、どちらでもよい

女性の53.5%、男性の49.0%が『そう思う』と回答している。

一方、女性の17.3%、男性の29.4%が『そう思わない』と回答し、男女の考えに差がみられる。

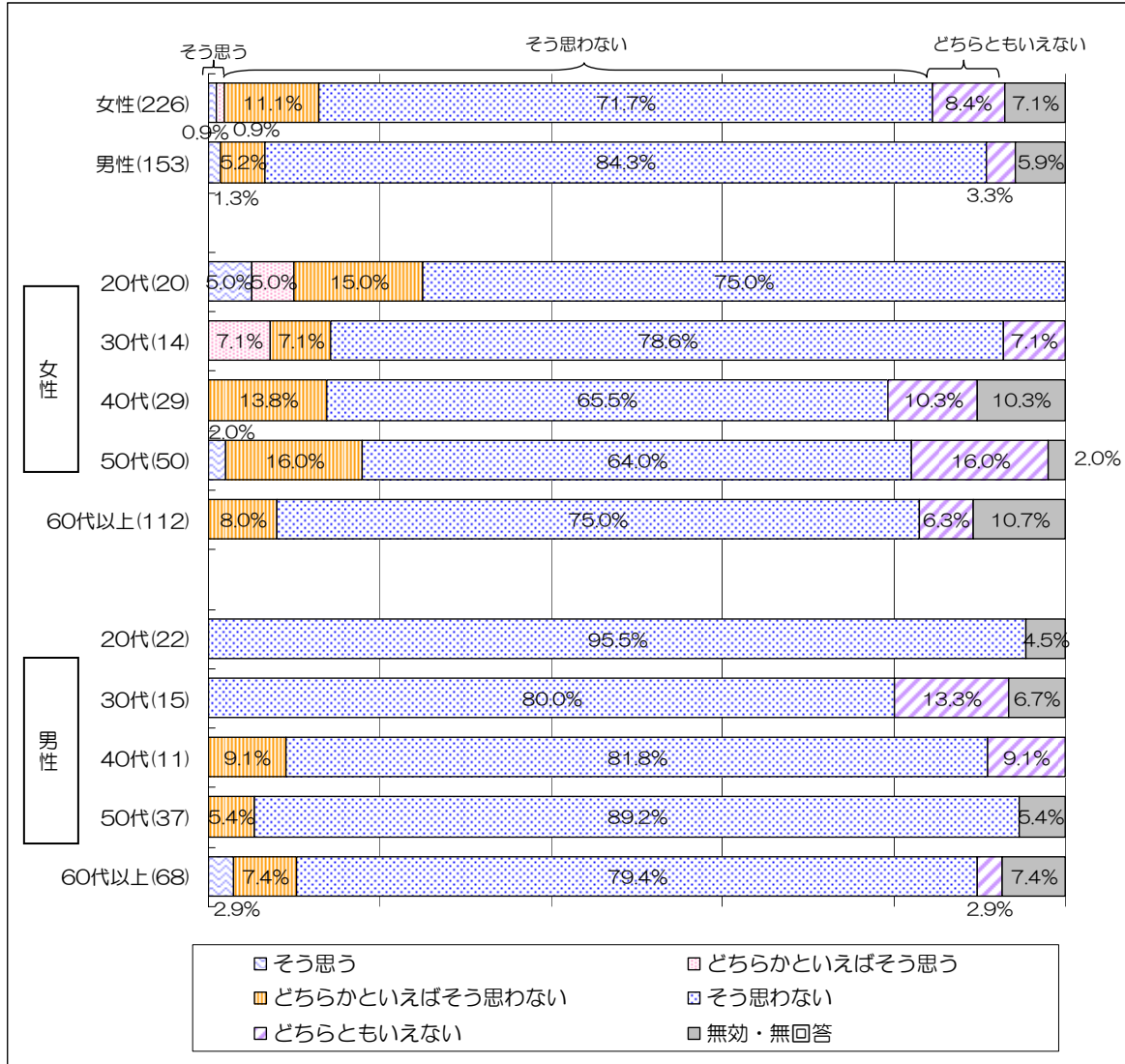
年代別では、男女ともに若い世代では『そう思う』と回答している割合が高くなっており、20代の女性では85.0%となっている。60代以上では『そう思う』と回答している割合（女性34.9%、男性35.2%）は他の年代と比べて低く、『そう思わない』と回答している割合（女性42.0%、男性50.0%）は他の年代と比べて高くなっている。



(ウ) 結婚は個人の自由を束縛するものだから、一生結婚しないほうがよい

女性の 82.8%、男性の 89.5%が『そう思わない』と回答し、男女とも高い割合となっている。

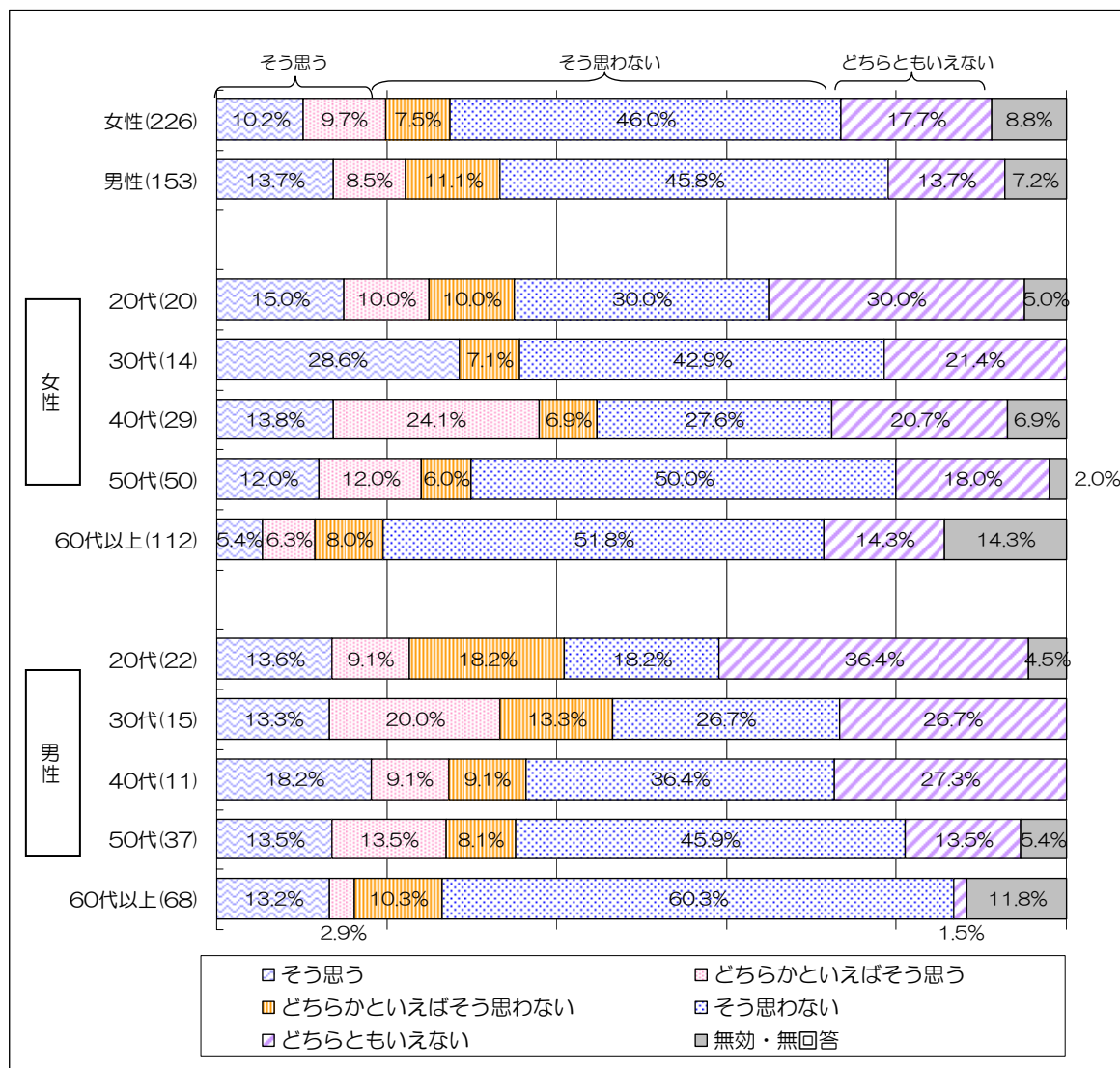
また、すべての年代で『そう思わない』と回答している割合が高くなっている。



(エ) 結婚と性的関係は別である

女性の53.5%、男性の56.9%が『そう思わない』と回答し、『そう思う』と回答している割合（女性19.9%、男性22.2%）を大きく上回っている。

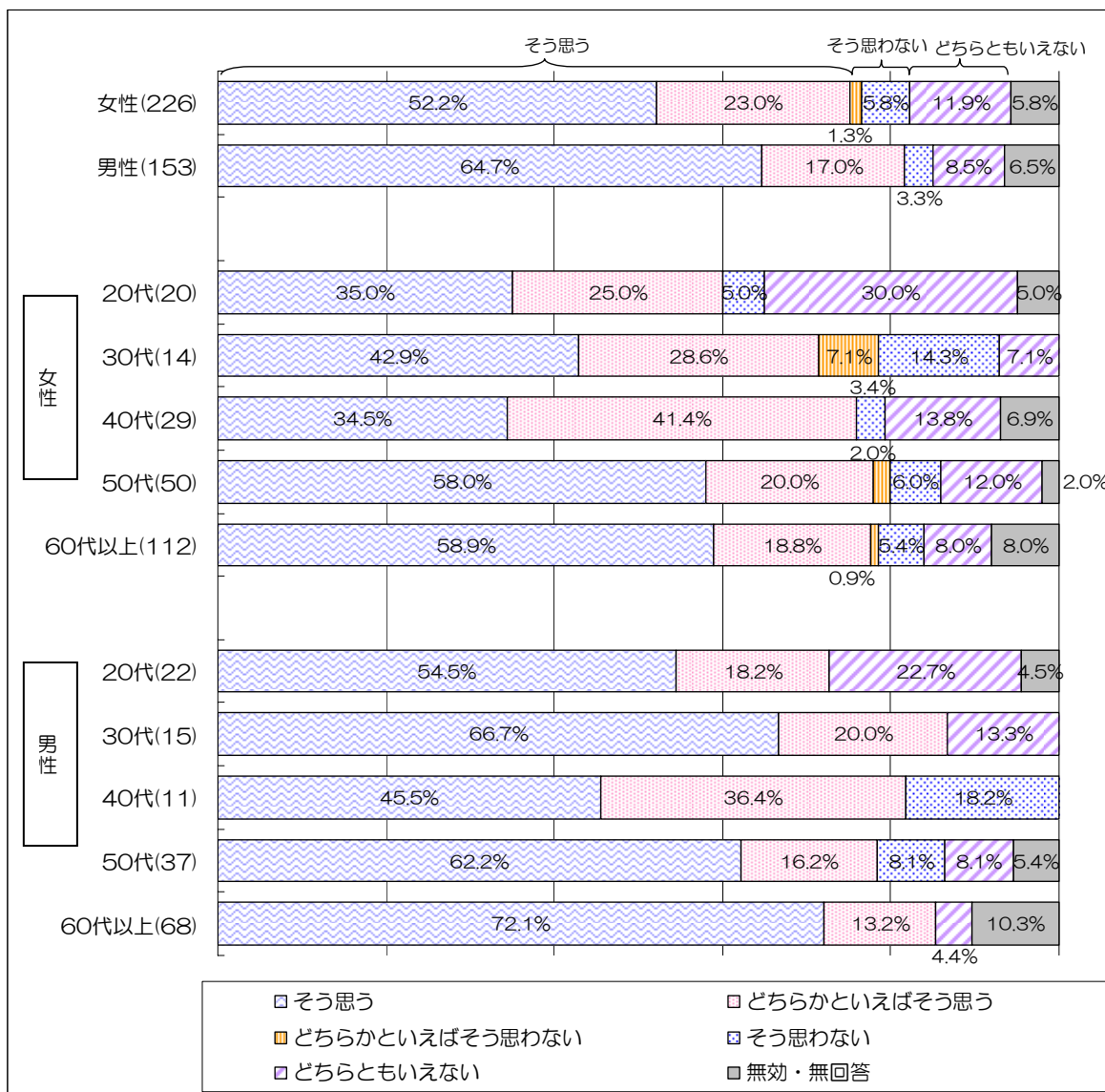
年代別に見れば、若い年代ほど『そう思う』と回答している割合が高く、年齢が高くなるにつれて『そう思わない』と回答している割合が高くなっている。



(オ) 結婚したら子どもを持つほうがよい

女性の75.2%、男性の81.7%が『そう思う』と回答し、男性のほうが『そう思う』と回答している割合が高くなっている。

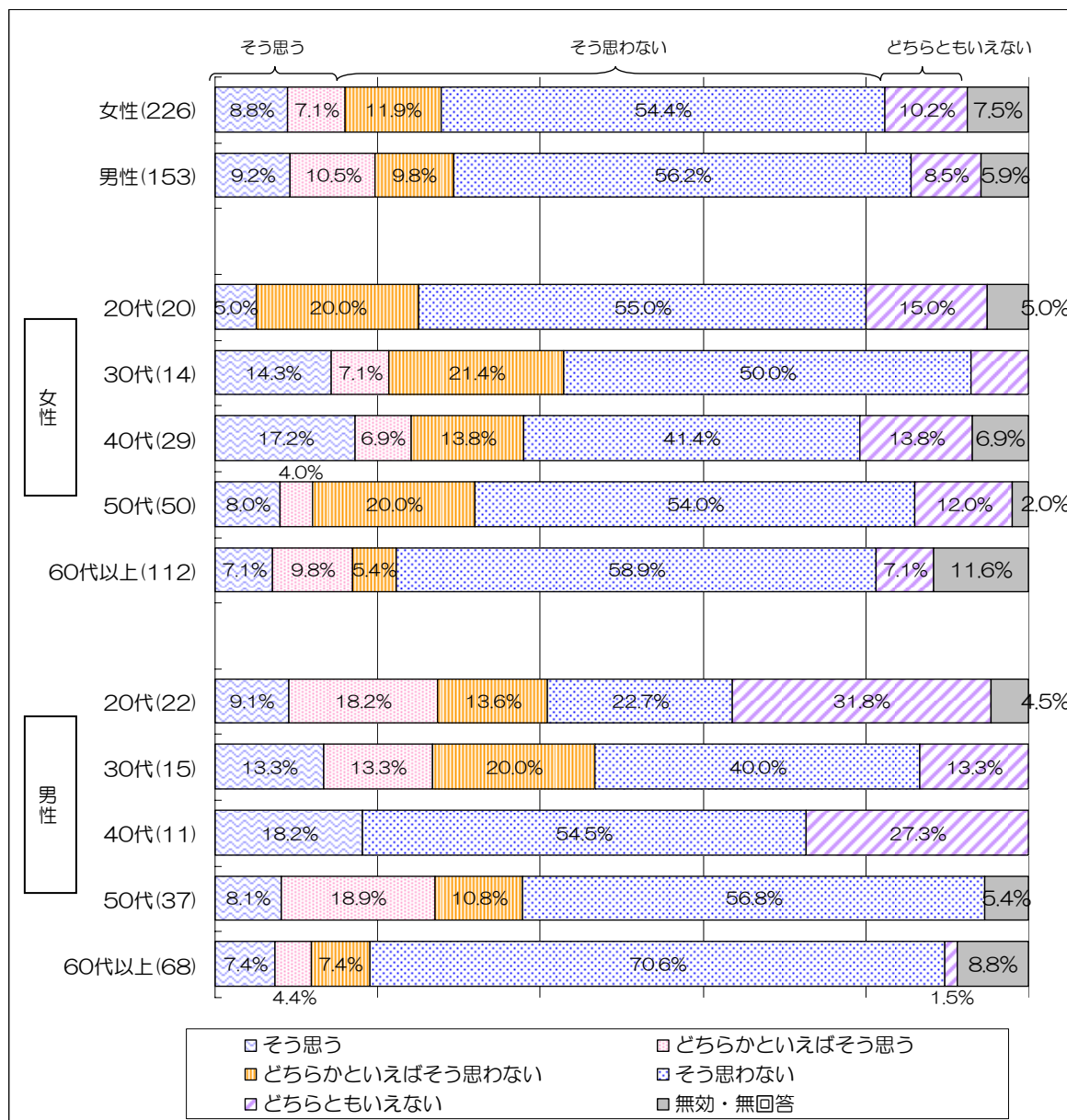
年代別に見れば、『そう思う』と回答している割合はすべての年代で高く、年齢が高くなるにつれて『そう思う』と回答している割合が高くなっている。



(カ) 子供を産み育てるのに、戸籍の上で結婚しているかどうかは関係ない

女性の66.3%、男性の66.0%が『そう思わない』と回答し、『そう思う』と回答している割合（女性15.9%、男性19.7%）を大きく上回っている。

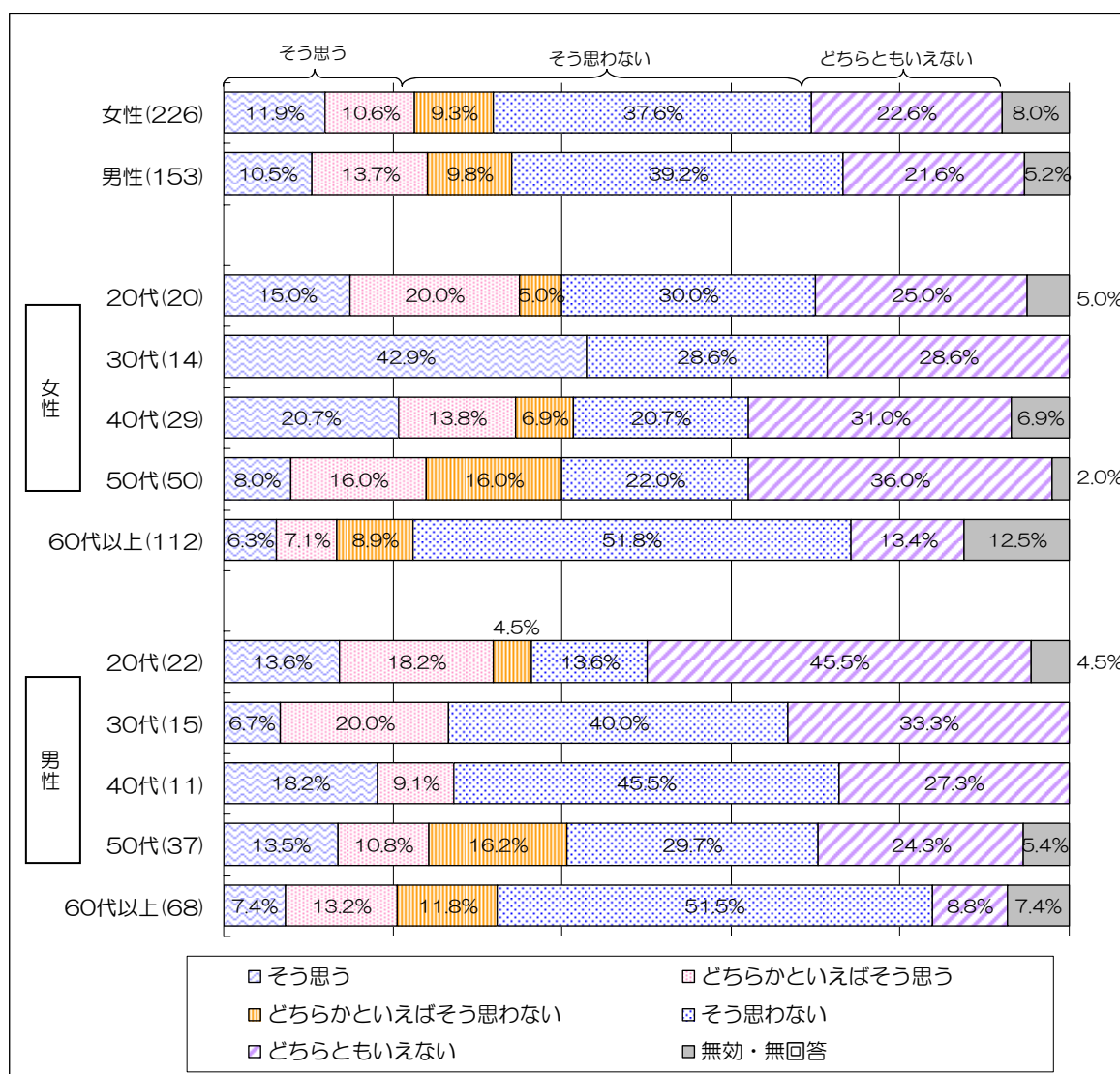
年代別に見れば、『そう思う』と回答している割合は、女性の40代では24.1%、男性の50代で27.0%が最も高くなっているが、男女ともすべての年代で『そう思わない』と回答している割合が『そう思う』と回答している割合よりも高くなっている。



(キ) 夫婦が別姓を名乗るのを認めたほうがよい

『そう思う』と回答している割合（女性 46.9%、男性 49.0%）が、『そう思わない』と回答している割合（女性 22.5%、男性 24.2%）を大きく上回り、男女の差はほとんど見られない。

年代別で見れば、女性では 40 代までは『そう思う』と回答している割合が高くなっているが、50 代になると『そう思わない』と回答している割合が逆転している。逆に、男性では 20 代では『そう思う』(31.8%) と回答している割合が『そう思わない』(18.1%) と回答している割合を上回っているが、その他の年代では『そう思わない』と回答している割合が高くなっている。

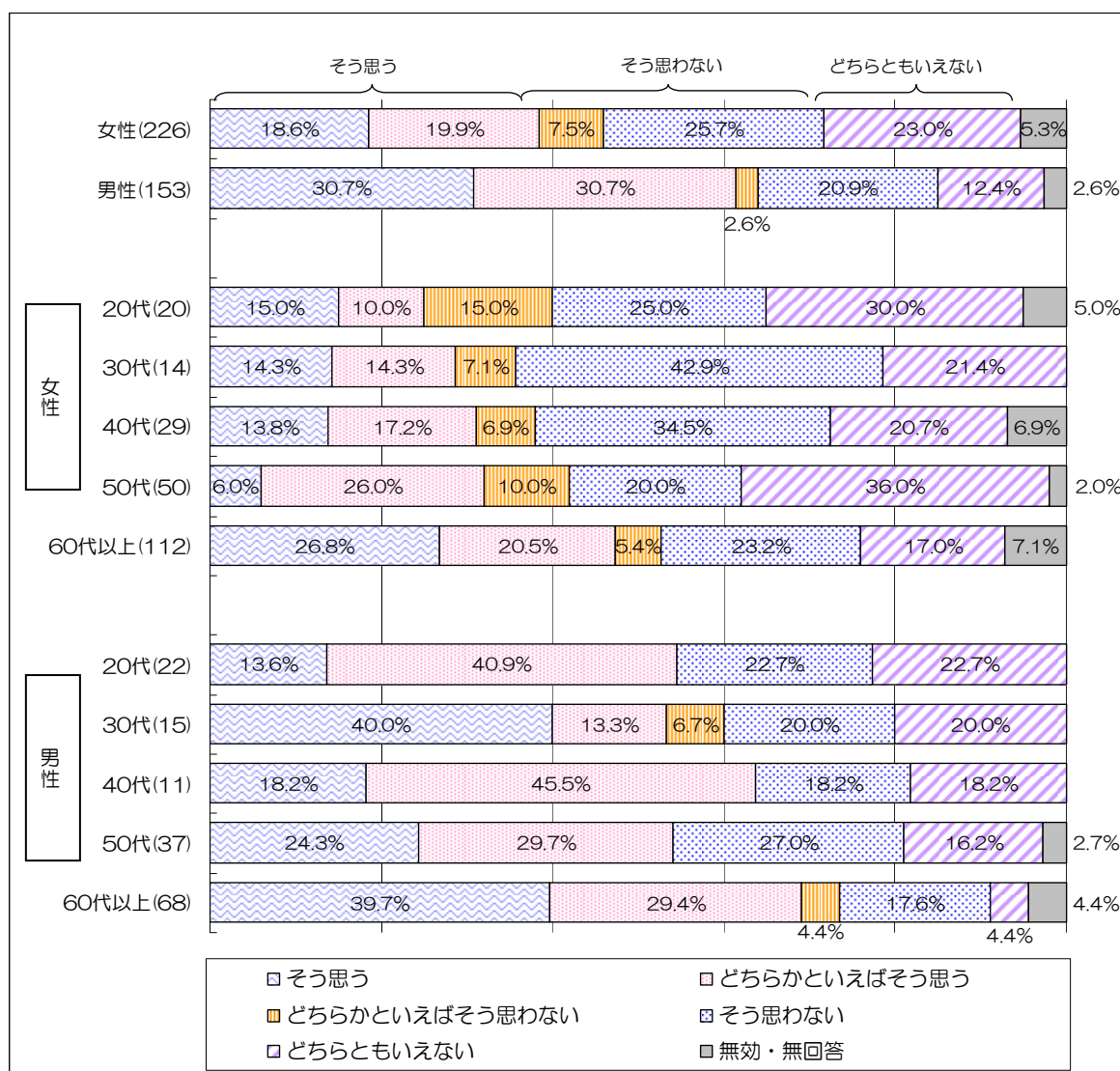


(ク) 結婚をした以上、離婚すべきではない

女性の38.5%、男性の61.4%が『そう思う』と回答し、男性のほうが『そう思う』と回答している割合が高い。

また、女性の33.2%、男性の23.5%が『そう思わない』と回答し、女性のほうが『そう思わない』と回答している割合が高い。

年代別に見ると、女性では若い年代ほど『そう思わない』と回答している割合が高く、年齢が高くなるにつれて『そう思う』と回答している割合が高くなっていく。一方、男性はすべての年代で『そう思う』と回答している割合が高くなっていく。

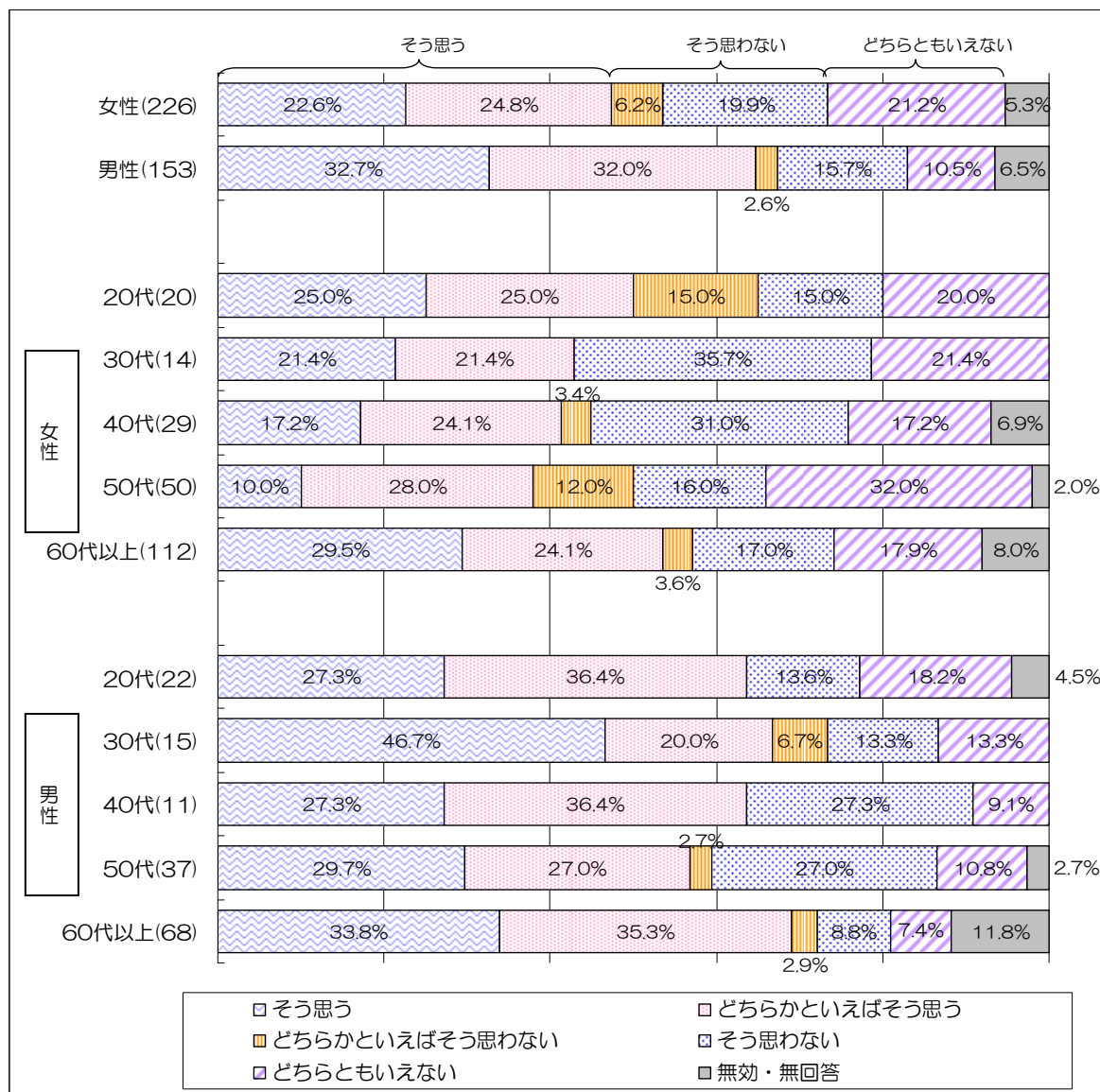


(ケ) 子どもがいる場合は離婚すべきではない

女性の47.4%、男性の64.7%が『そう思う』と回答し、男性のほうが『そう思う』と回答している割合が高い。

また、女性の26.1%、男性の18.3%が『そう思わない』と回答し、女性のほうが『そう思わない』と回答している割合が高い。

年代別に見れば、すべての年代で『そう思う』と回答している割合が『そう思わない』と回答している割合よりも高くなっている。



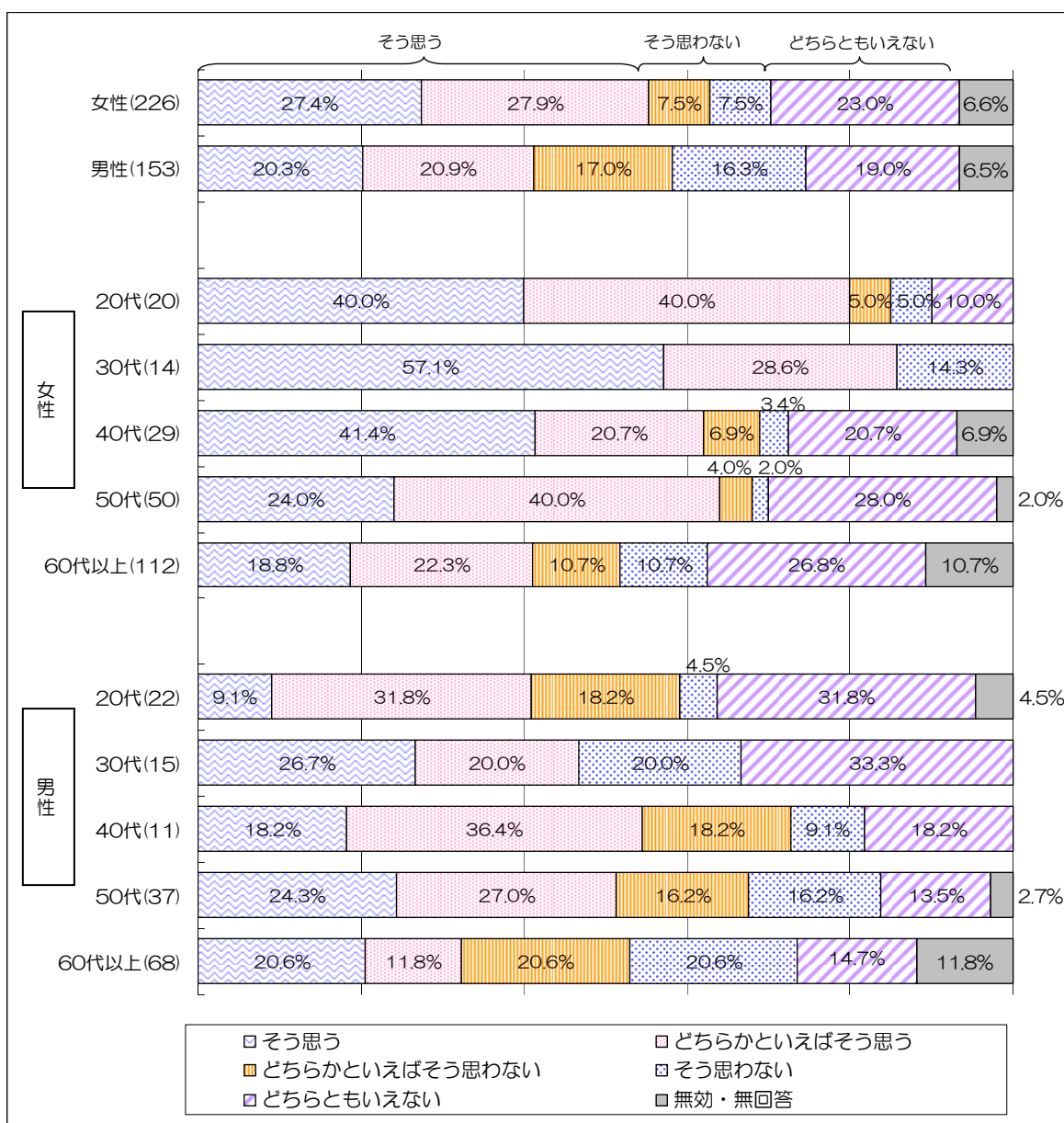
(コ) 我慢して結婚生活を続けるよりも離婚した方がよい

女性の55.3%、男性の41.2%が『そう思う』と回答し、女性のほうが『そう思う』と回答している割合が高い。

また、女性の15.0%、男性の33.3%が『そう思わない』と回答し、男性のほうが『そう思わない』と回答している割合が高い。

年代別に見れば、女性はすべての年代で『そう思う』と回答している割合が高くなっている。

また、男性の60代以上については、『そう思う』(32.4%)と回答している割合よりも『そう思わない』(41.2%)と回答している割合が高くなっている。

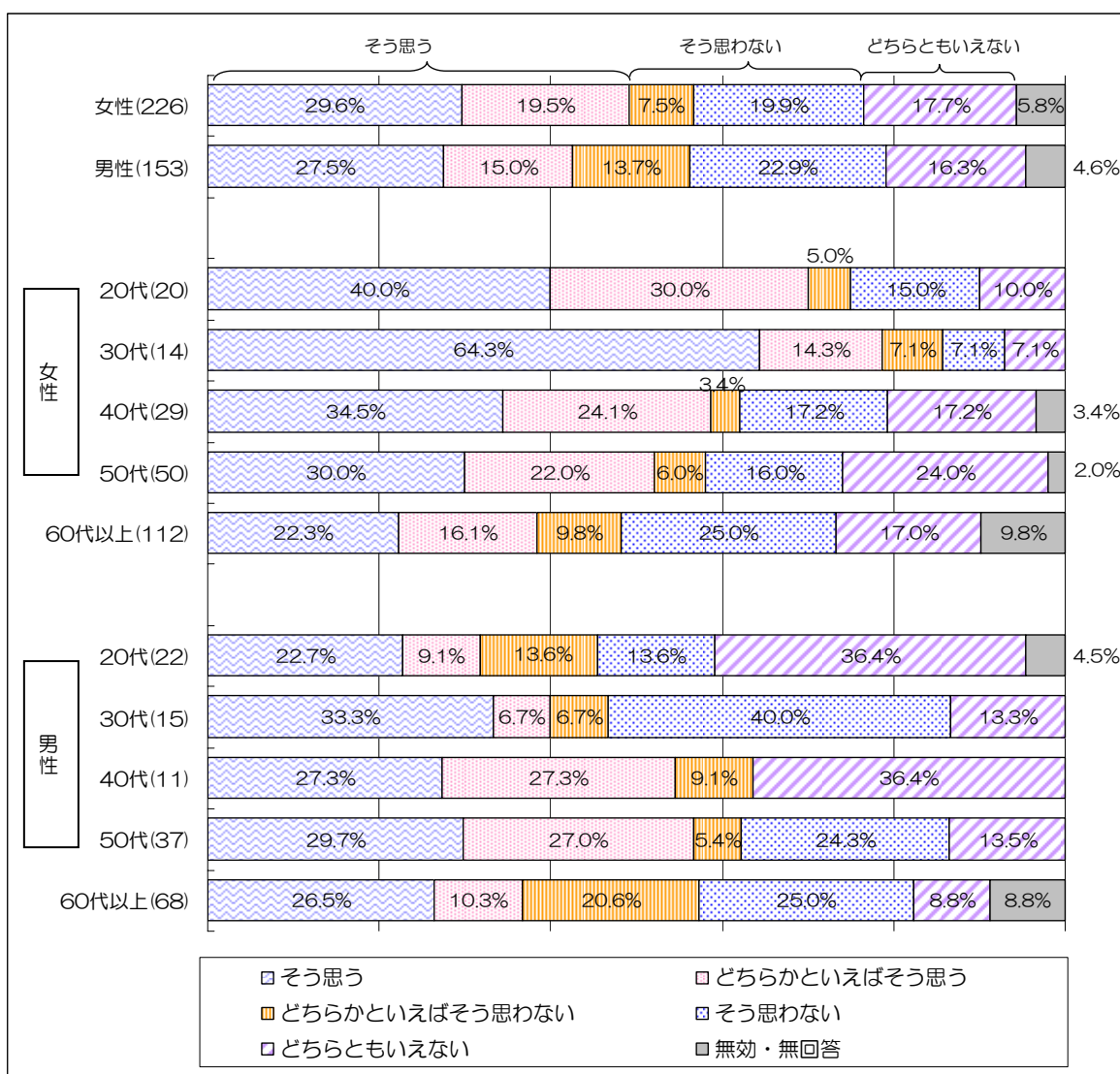


(サ) 離婚は自由である

女性の49.1%、男性の42.5%が『そう思う』と回答している。

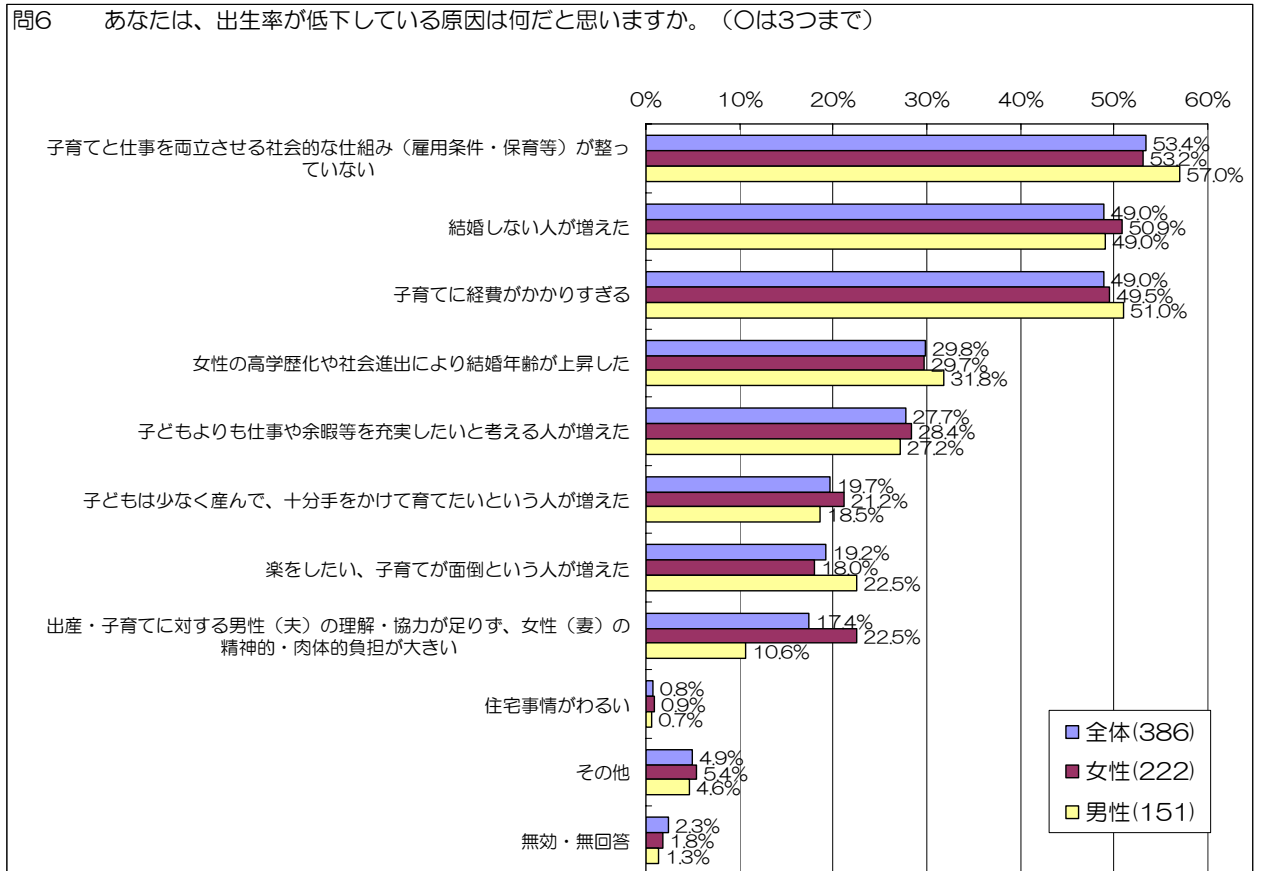
一方、女性の27.4%、男性の36.6%が『そう思わない』と回答し、男性のほうが『そう思わない』と回答している割合が高い。

年代別では、女性では若い年代ほど『そう思う』と回答している割合が高く、中でも30代の女性では78.6%と最も高くなっている。男性の『そう思う』と回答している割合は40代(54.6%)、50代(56.7%)が『そう思わない』と回答している割合より高くなっているが、30代及び60代以上では『そう思わない』(46.7%、45.6%)と回答している割合が『そう思う』(40.0%、36.8%)と回答している割合を上回っている。



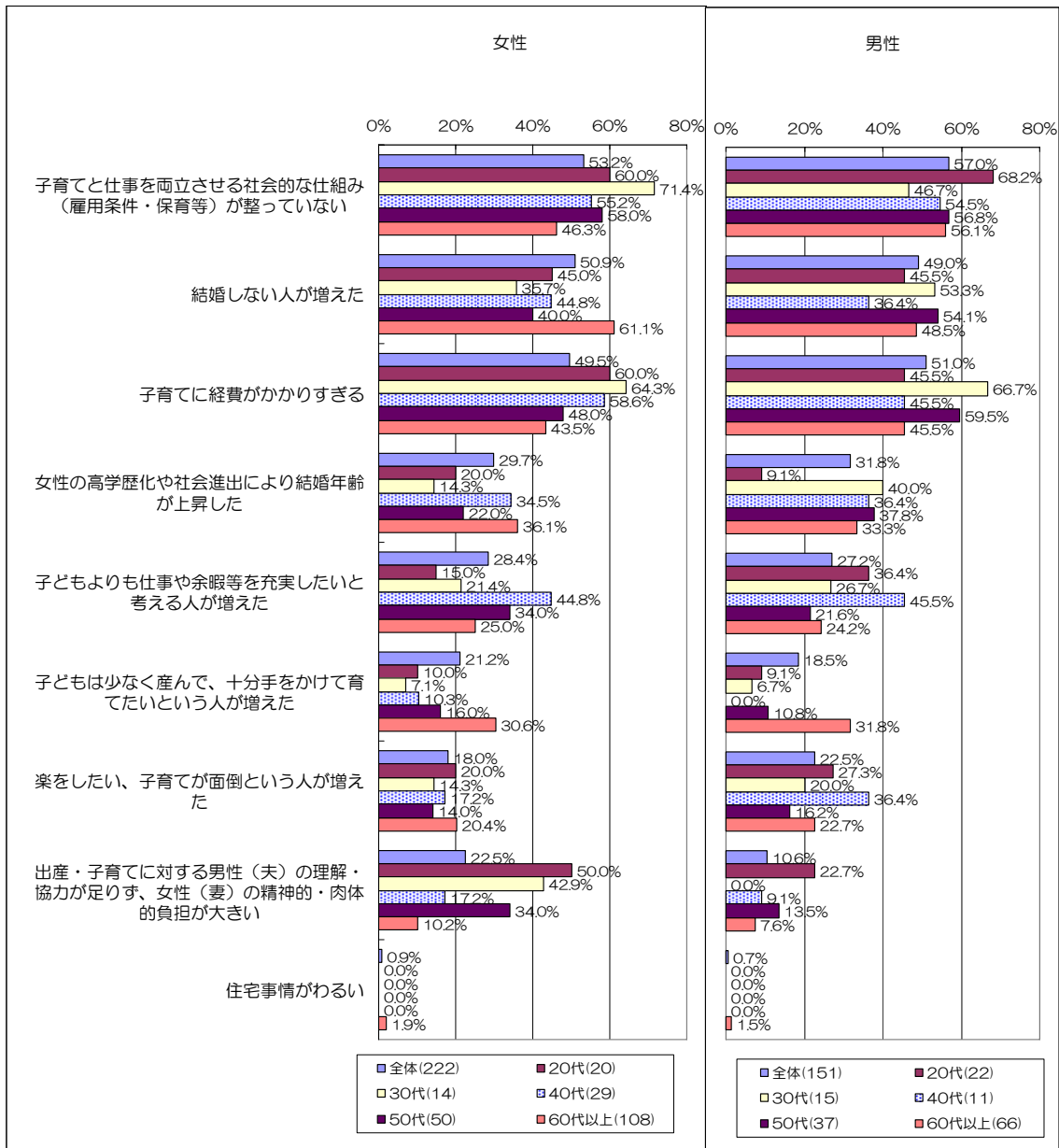
4. 少子・高齢化

(1) 出生率低下の原因



出生率が低下している原因として、『子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない』と回答している割合（女性 53.2%、男性 57.0%）が高く、次いで『結婚しない人が増えた』（女性 50.9%、男性 49.0%）、『子育てに経費がかかりすぎる』（女性 49.5%、男性 51.0%）の回答が多い。

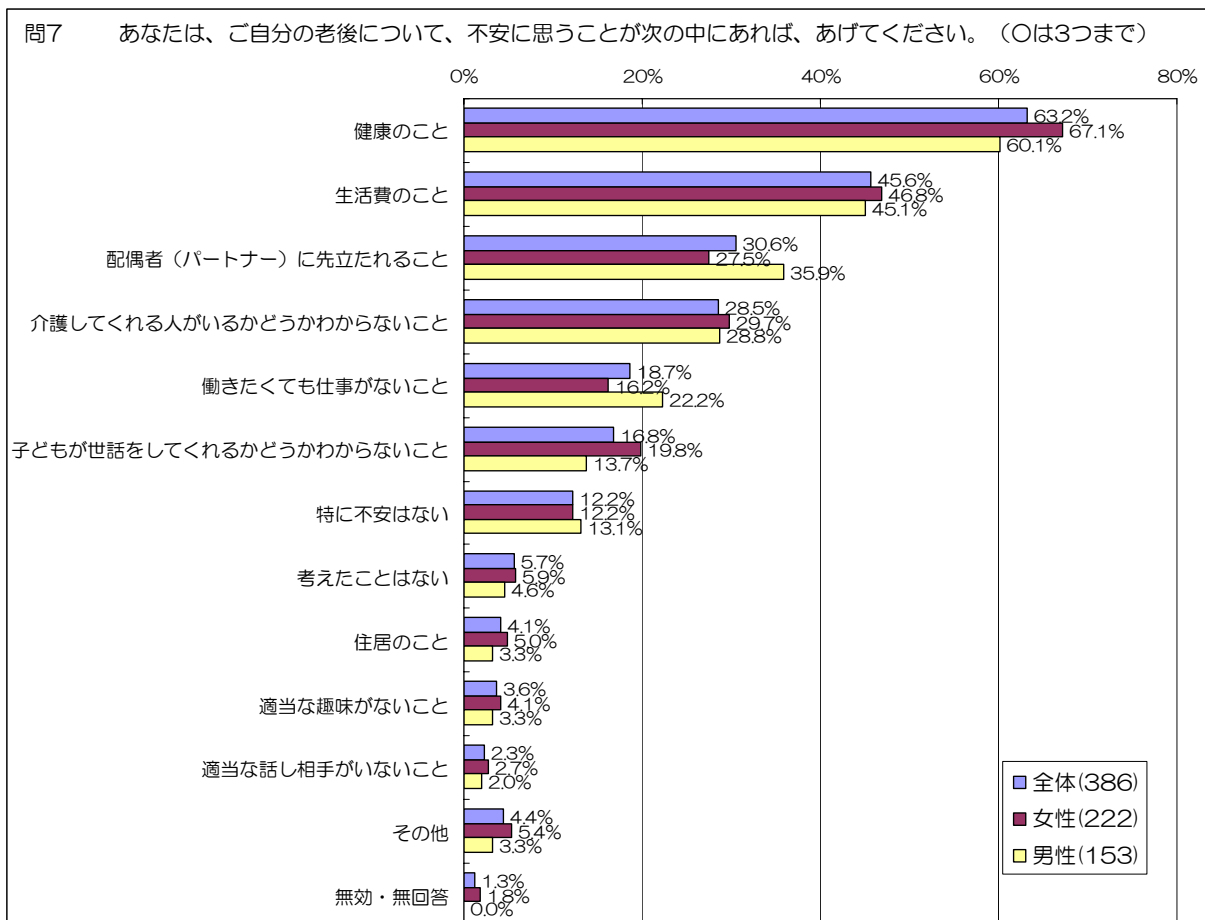
特に、『出産・子育てに対する男性（夫）の理解・協力が足りず、女性（妻）の精神的・肉体的負担が大きい』の項目については、女性 22.5%、男性 10.6%と男女による回答差が大きくみられる。



年代別に見れば、全体で最も回答割合が高い『子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない』では、30代女性の71.4%、20代男性の68.2%が最も高い割合で回答している。

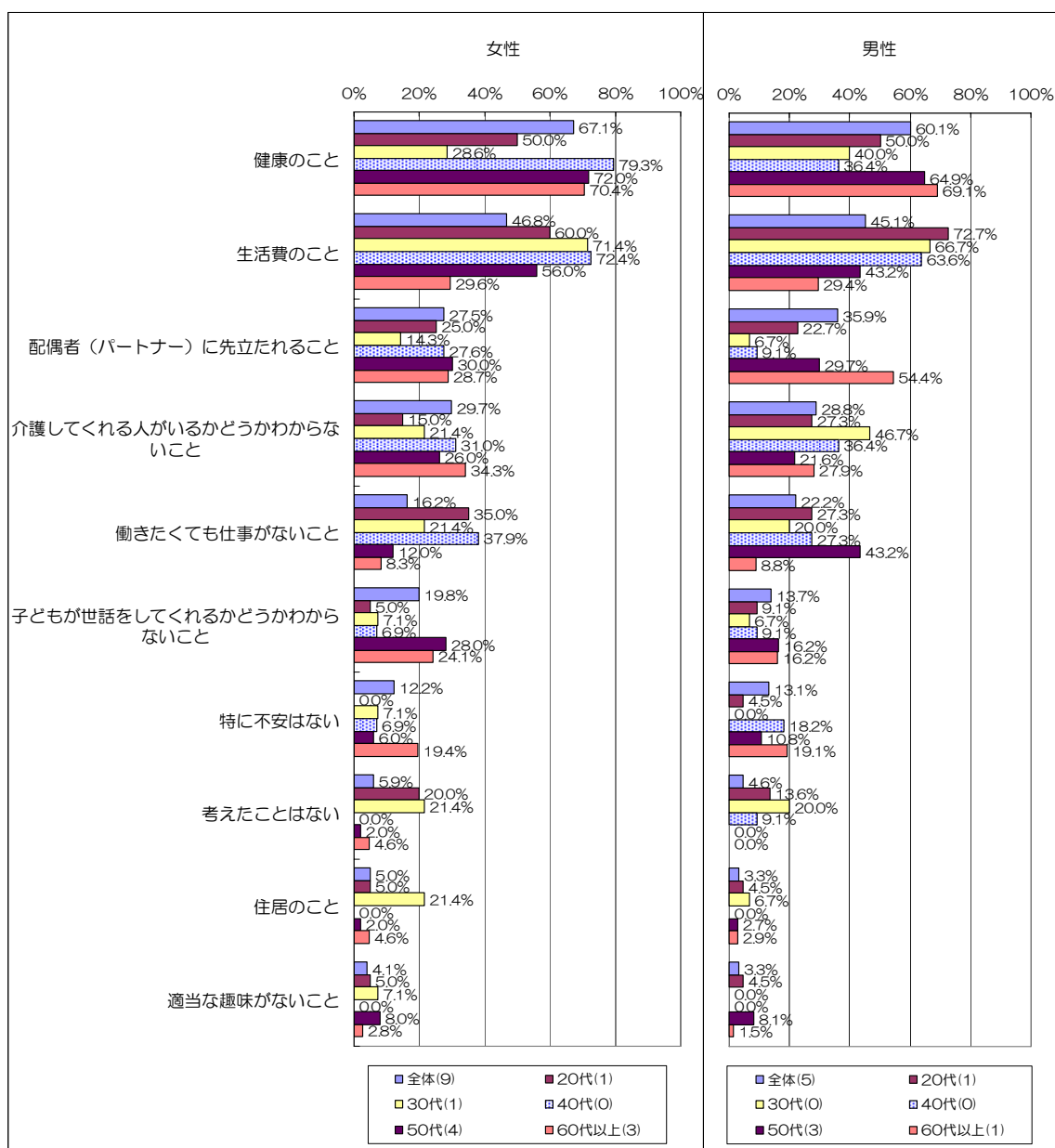
『子育てに経費がかかりすぎる』では、男女とも30代で（女性64.3%、男性66.7%）が最も高い回答割合となっている。

(2) 老後についての不安感



老後について不安に思うことでは、女性 67.1%、男性 60.1%が『健康のこと』に不安を感じている割合が高い。

また、『配偶者(パートナー)に先立たれること』については、女性が 27.5%、男性 35.9%であり、男女間で 8.4 ポイントの差がみられる。

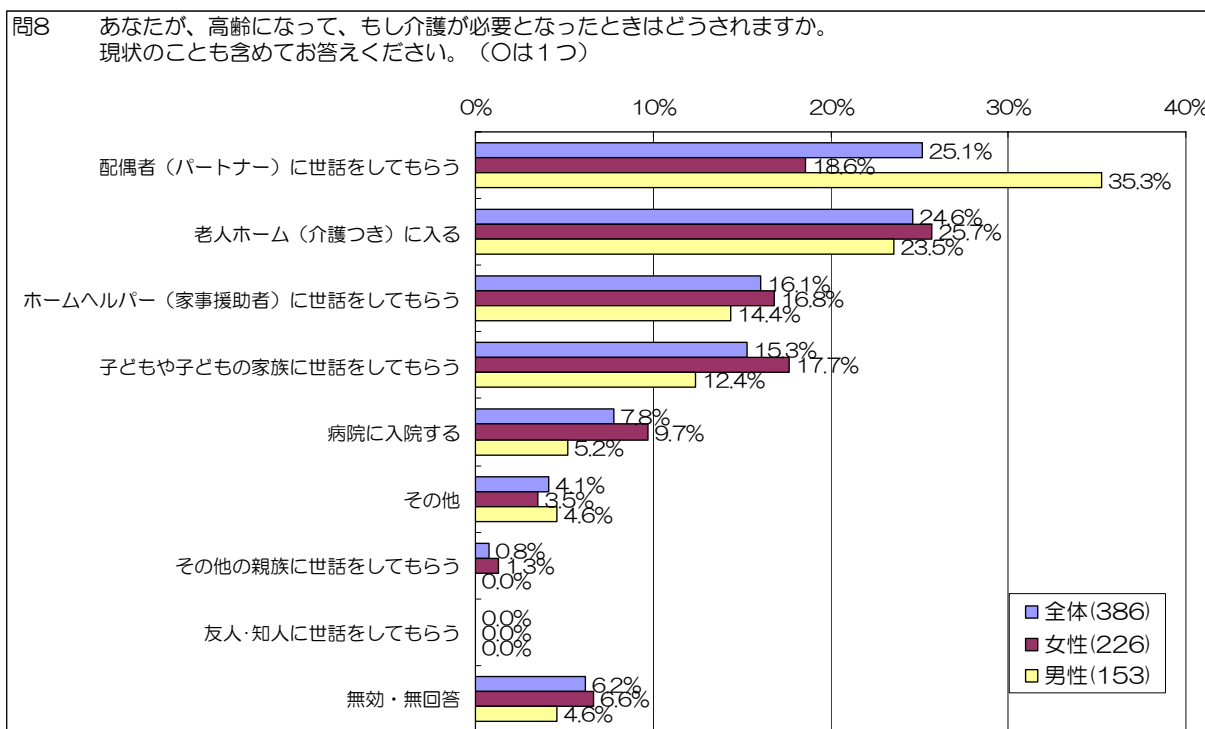


年代別に見れば、『健康のこと』と回答している割合は男女とも50代以上の年代で高くなっている。女性では40代の人が高最も高い回答割合（79.3%）である一方、男性では40代が最も低い回答割合（36.4%）となっている。

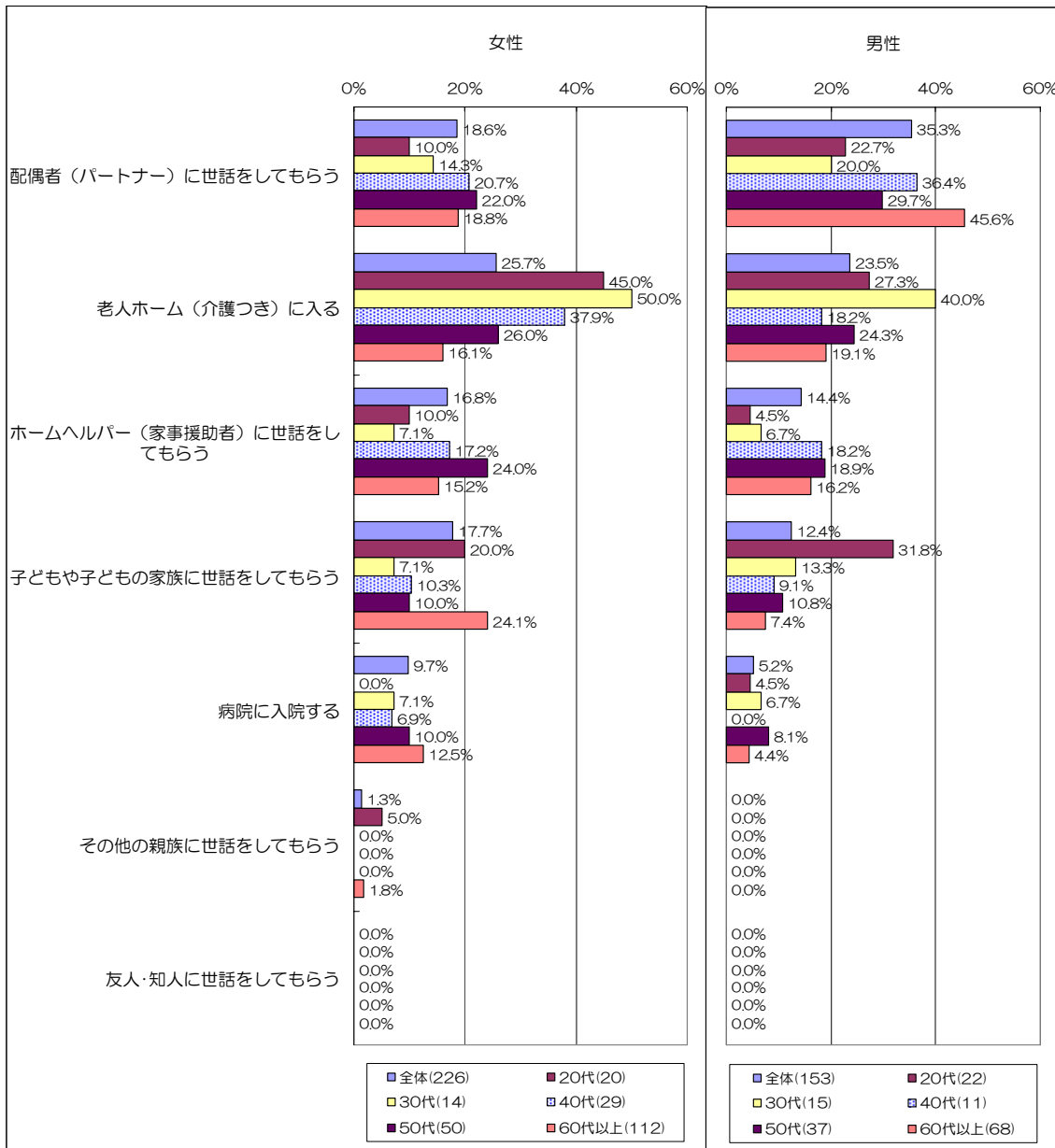
『配偶者（パートナー）に先立たれること』では、女性は年代による大きな差は見られないが、男性の30代（6.7%）及び40代（9.1%）は低い回答割合となっているが、60代以上（54.4%）は高い回答割合となっている。

『子どもが世話をしてくれるかどうかわからないこと』では、男性は年代による大きな差は見られないが、女性の20代（5.0%）、30代（7.1%）及び40代（6.9%）は低い回答割合となっているが、50代（28.0%）及び60代以上（24.1%）は高い回答割合となっている。

(3) 介護が必要になった時の対応



高齢になって介護が必要になった時の対応については、女性は『老人ホーム(介護つき)に入る』と回答している割合(25.7%)が最も高く、男性は『配偶者(パートナー)に世話をしてもらう』と回答している割合(35.3%)が最も高くなっている。



年代別では、女性の 20 代 (45.0%)、30 代 (50.0%)、40 代 (37.9%)、50 代 (26.0%) で『老人ホーム（介護つき）に入る』と回答している割合が最も高く、60 代以上 (24.1%) では『子どもや子どもの家族に世話をしてもらう』と回答している割合が最も高くなっている。

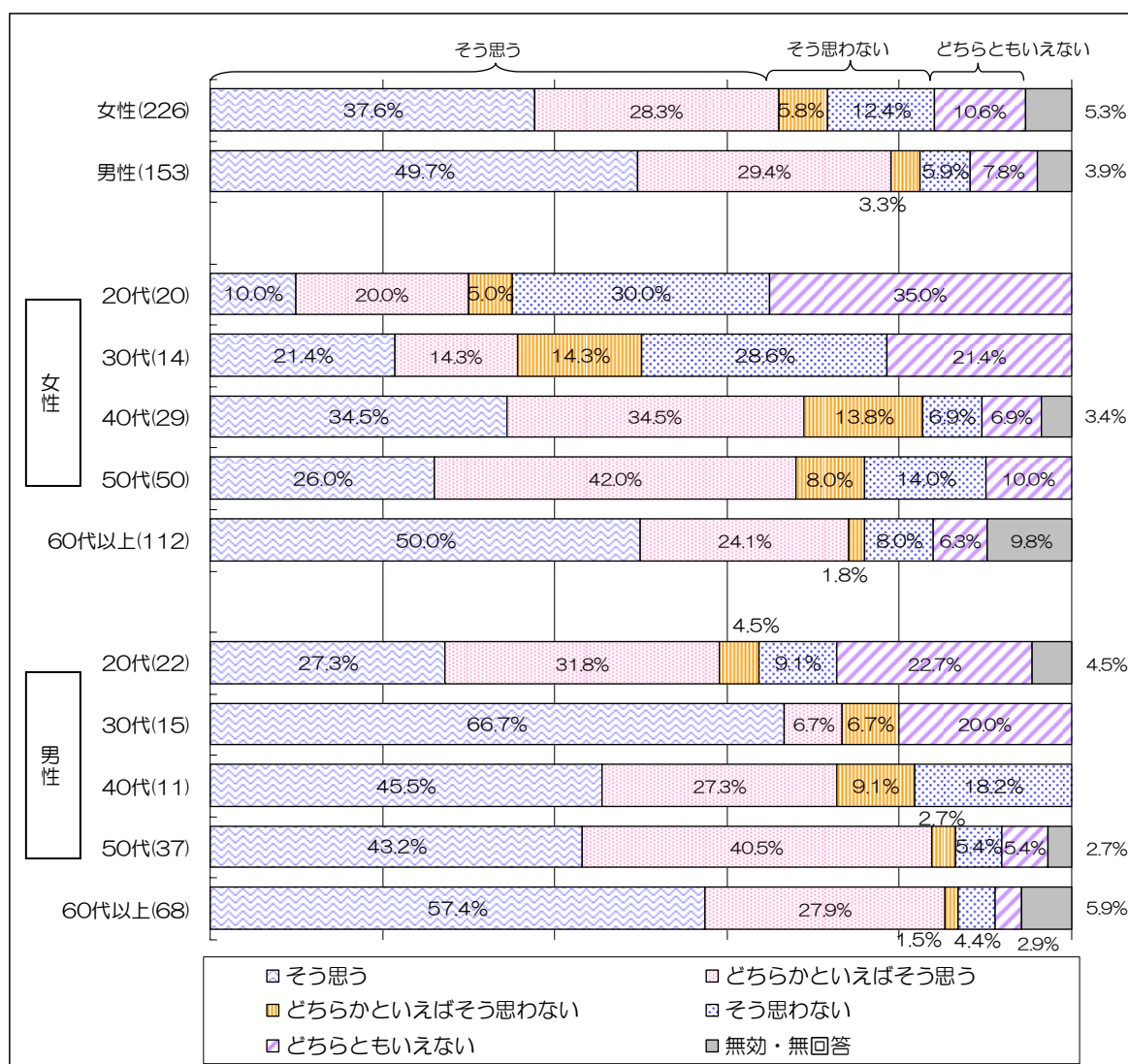
男性の 40 代 (36.4%)、50 代 (29.7%)、60 代以上 (45.6%) で『配偶者（パートナー）に世話をしてもらう』と回答している割合が最も高く、20 代 (31.8%) では『子どもや子どもの家族に世話をしてもらう』と回答している割合が最も高く、30 代 (40.0%) では『老人ホーム（介護つき）に入る』と回答している割合が最も高くなっている。

(ア) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるほうがよい

女性の65.9%、男性の79.1%が『そう思う』と回答しており、男女ともに肯定的な回答が多いが、女性の回答割合よりも男性の回答割合が13.2ポイントの差がみられる。

年代別に見れば、女性の20代及び30代を除くすべての年代で『そう思う』が『そう思わない』と回答している割合よりも高くなっている。

また、年齢が高くなるにつれて『そう思う』と回答している割合が高く、男性の60代以上では85.3%と最も高い回答割合になっている。

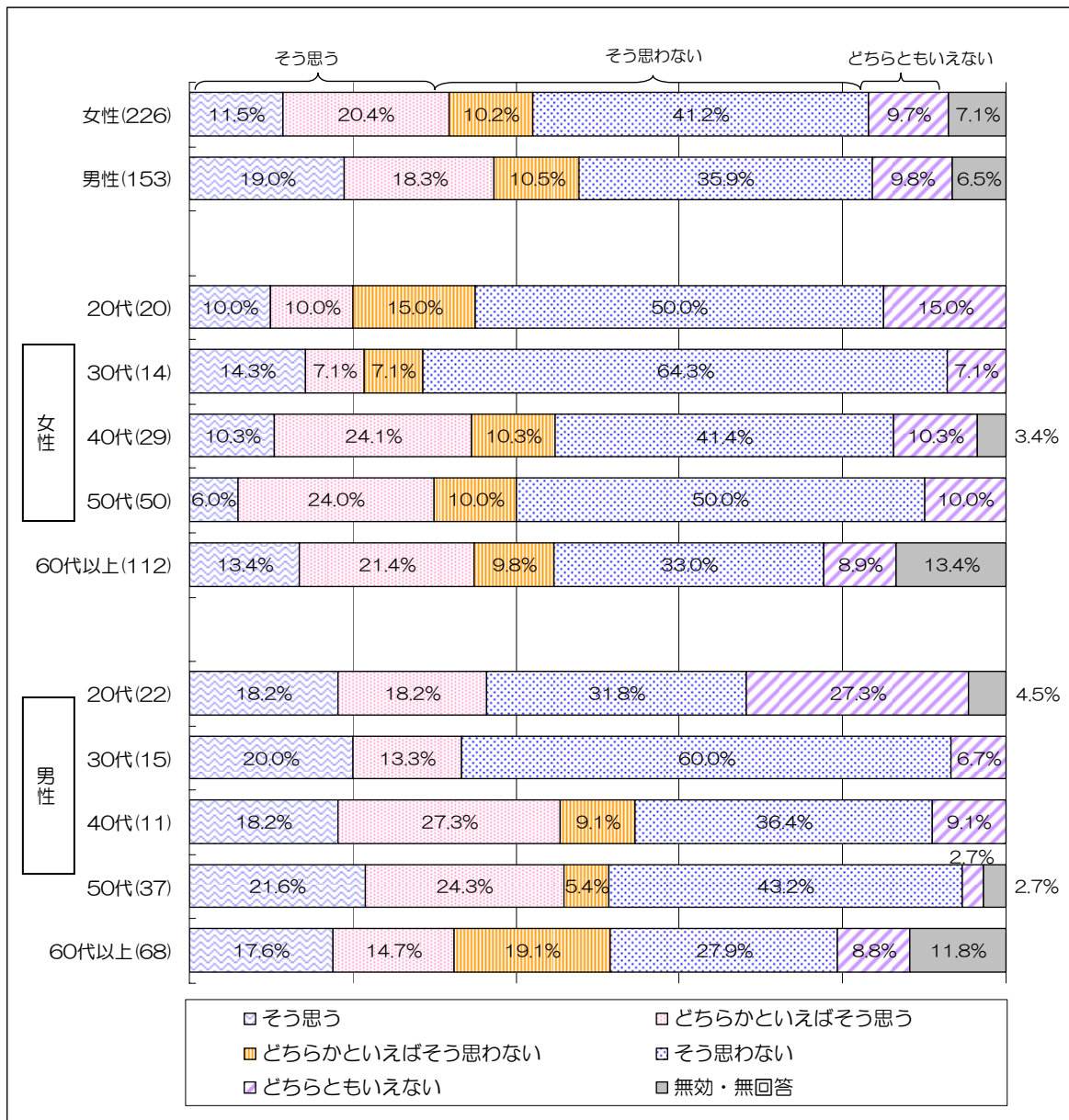


(イ) 同じことをしても、男子だけ（女子だけ）注意されることも必要である

女性の51.4%、男性の46.4%が『そう思わない』と回答しており、男女ともに否定的な回答が多い。

年代別に見れば、女性ではすべての年代で『そう思わない』と回答している割合が高くなっている。また、20代、30代よりも40代以上で『そう思う』と回答している割合が高くなっている。

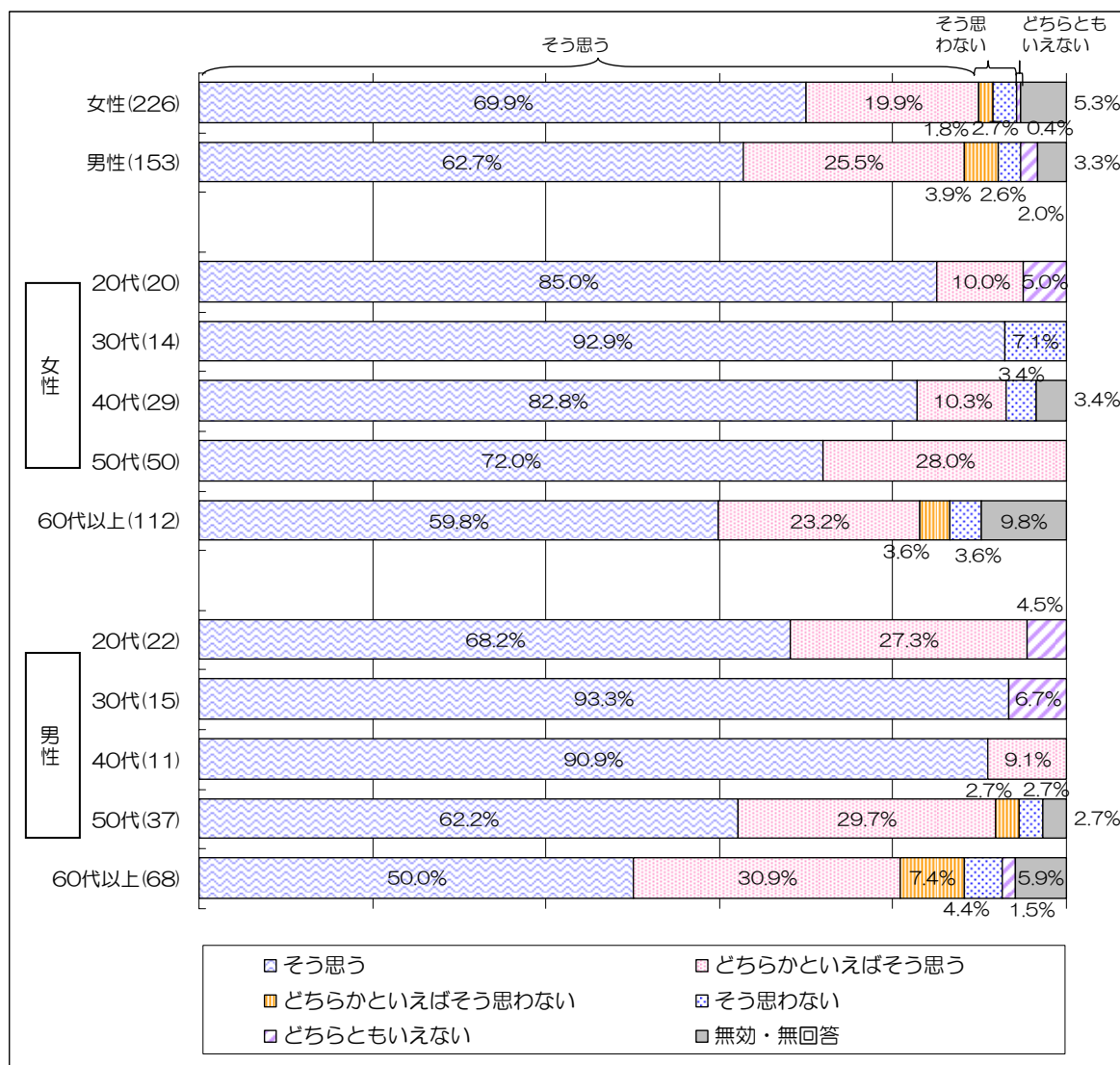
男性では、30代では『そう思わない』と回答している割合が『そう思う』と回答している割合よりも高くなっているが、その他の年代では差があまりない。



(ウ) 性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である

女性の89.8%、男性の88.2%が『そう思う』と回答しており、男女ともに肯定的な回答が多い。

年代別に見れば、男女ともに『そう思う』と回答している割合が高く、中でも、女性の50代及び男性の40代では、すべての人が『そう思う』と回答している。

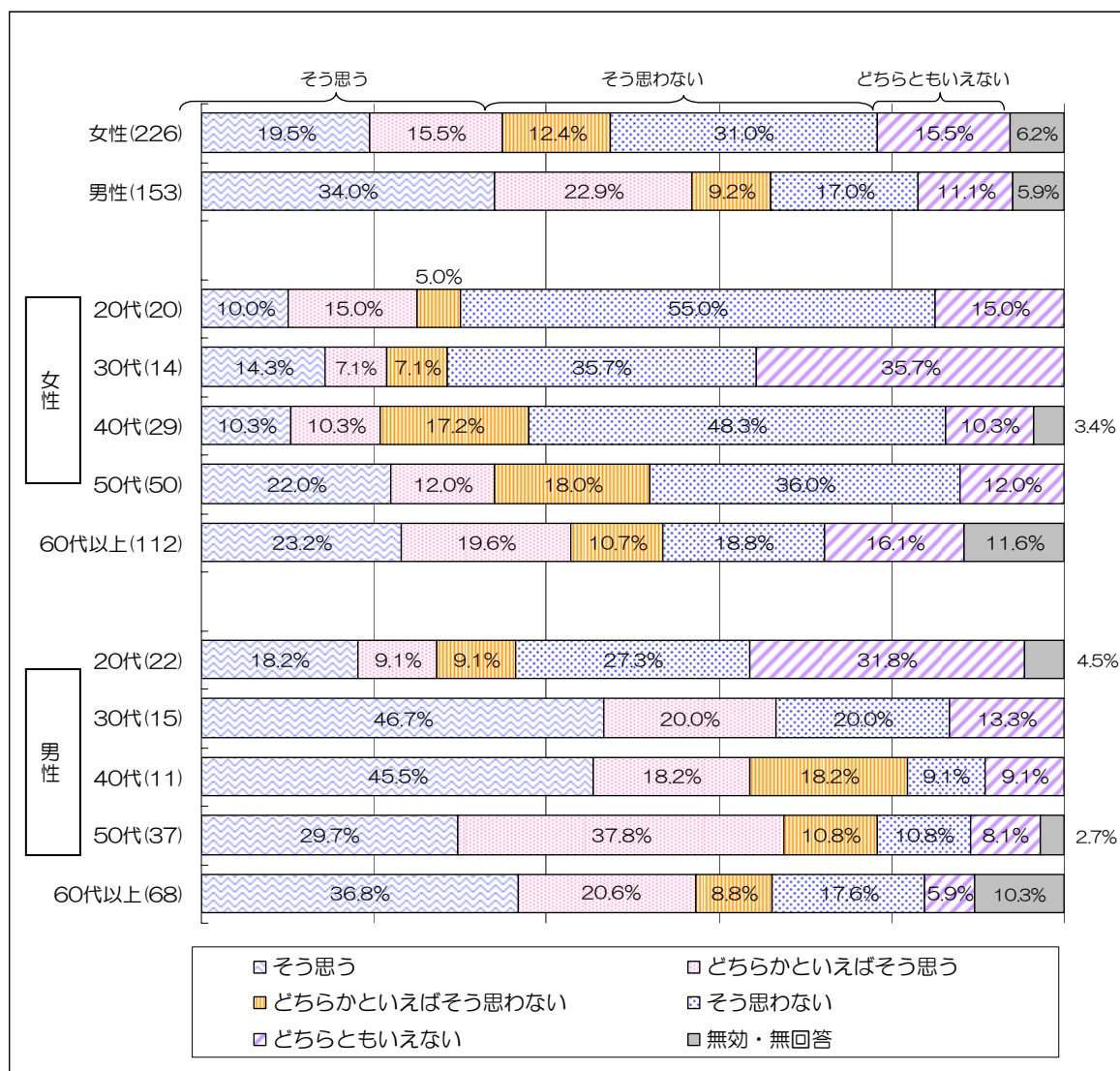


(エ) 男女共学で、女子しか(男子しか)受けられない授業の科目があってもよい

女性の 35.0%は『そう思う』、43.4%は『そう思わない』と回答し、否定的な回答が多いが、男性の 56.9%が『そう思う』、26.2%が『そう思わない』と回答し、肯定的な回答が多く、男女の考えに差がみられる。

女性では 60 代以上を除いて『そう思わない』と回答している割合が『そう思う』と回答する割合よりも高くなっている。

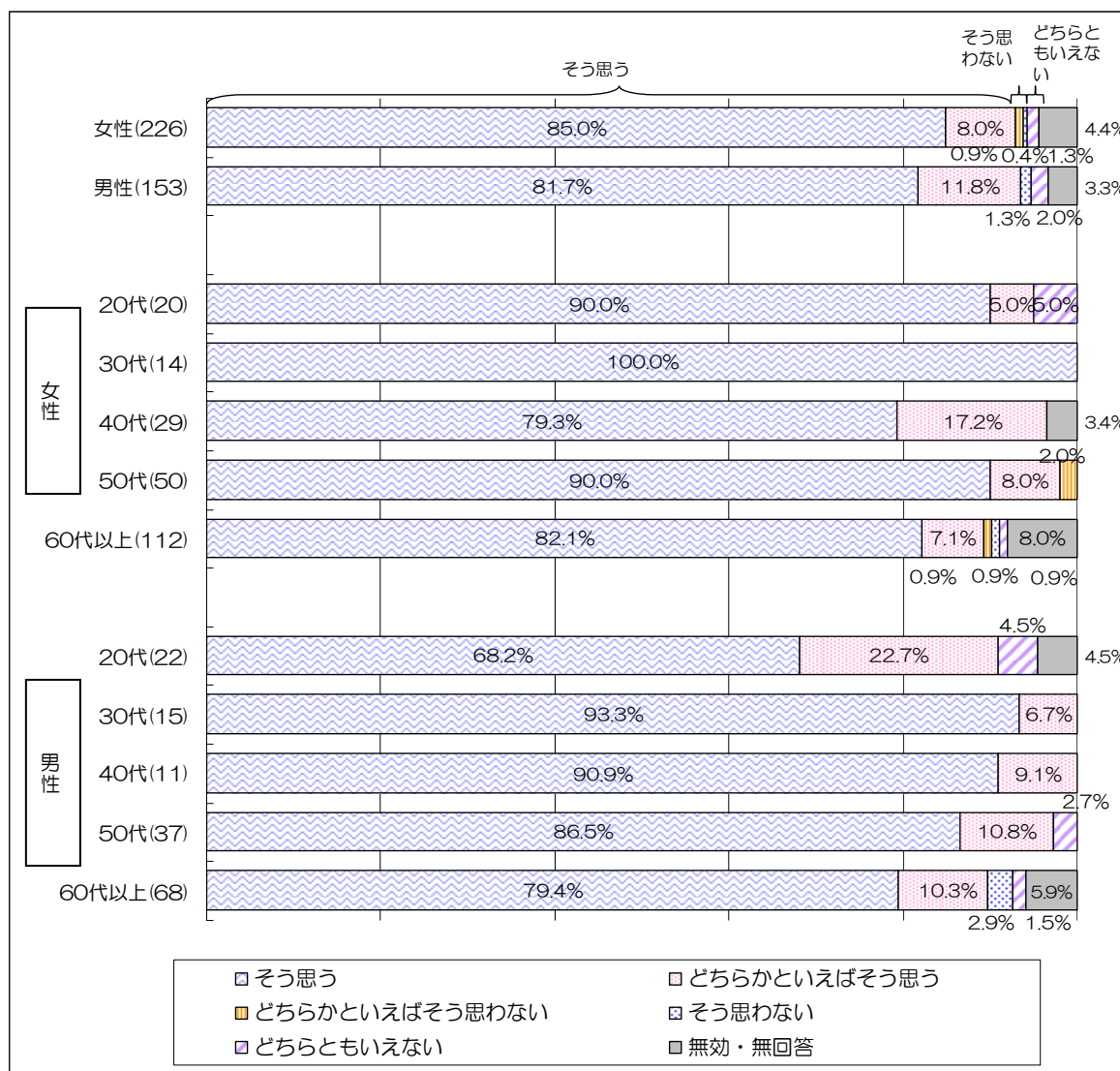
男性では 20 代を除いて『そう思う』と回答している割合が『そう思わない』と回答する割合よりも高くなっている。



(オ) 性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい

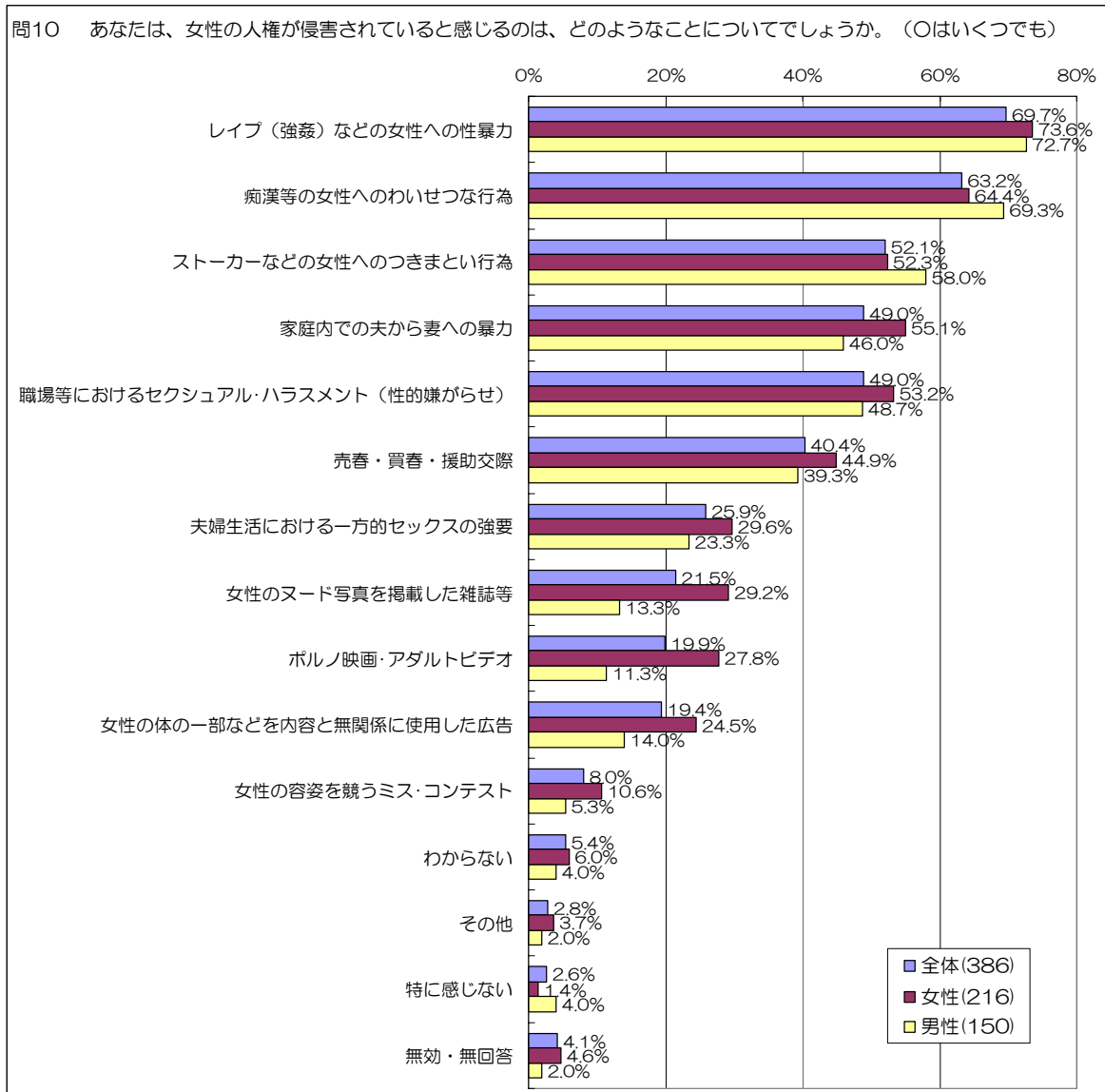
女性の93.0%、男性の93.5%が『そう思う』と回答しており、男女ともに肯定的な回答が多い。

男女ともすべての年代で『そう思う』と回答している割合が高く、中でも、女性の30代、40代、男性の30代、40代の回答者のすべての人が『そう思う』と回答している。



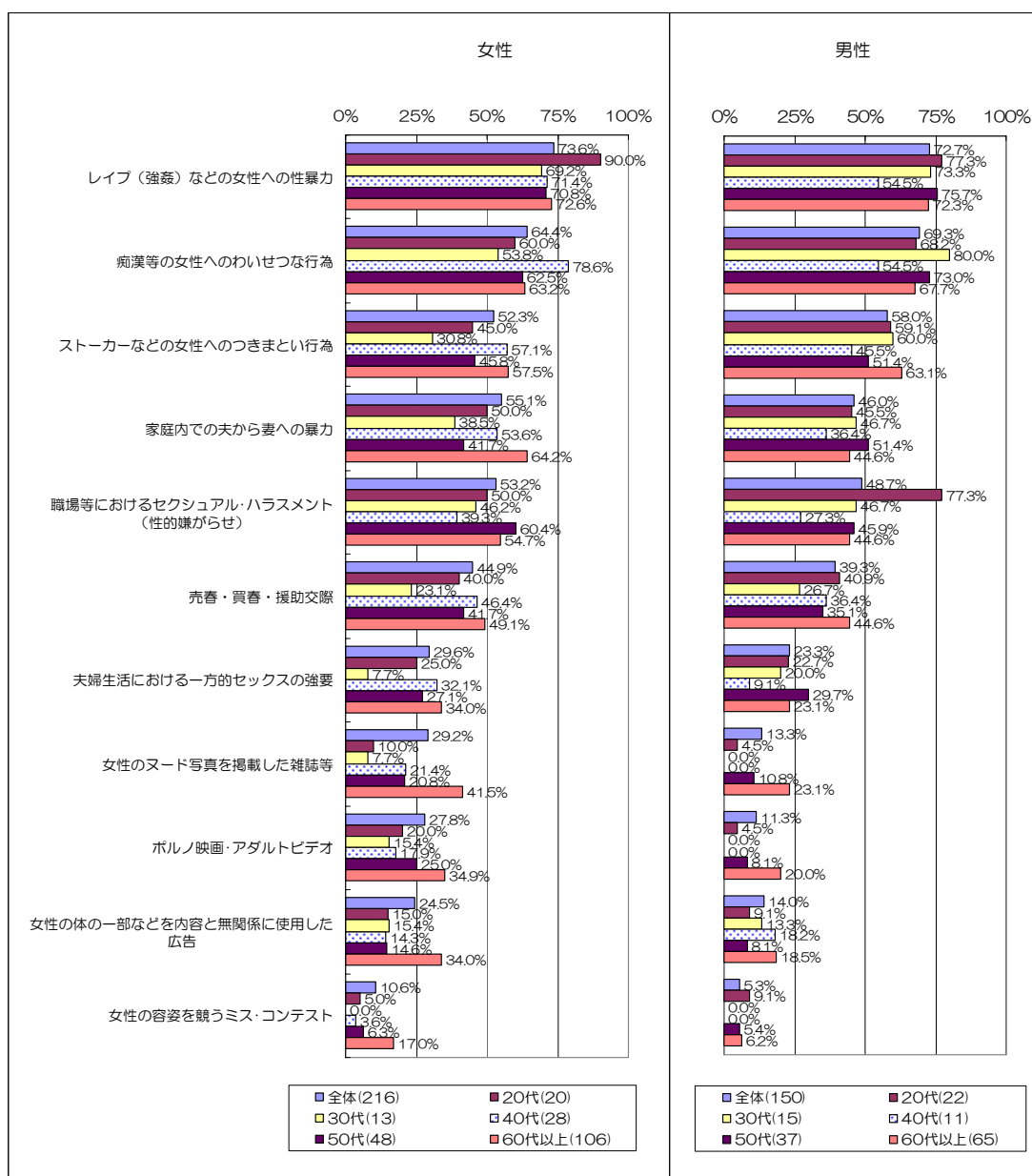
6. 人権

女性の人権が侵害されていると感じること



女性の人権が侵害されていると感じることについては、男女とも『レイプ(強姦)などの女性への性暴力』と回答している割合(女性73.6%、男性72.7%)が高く、次いで『痴漢等の女性へのわいせつな行為』(女性64.4%、男性69.3%)、『ストーカーなどの女性へのつきまとい行為』(女性52.3%、男性58.0%)となっている。

回答に男女差がみられるものとして、『女性のヌード写真を掲載した雑誌等』(女性29.2%、男性13.3%)の15.9ポイントの差、『ポルノ映画・アダルトビデオ』(女性27.8%、男性11.3%)の16.5ポイントの差がみられる。

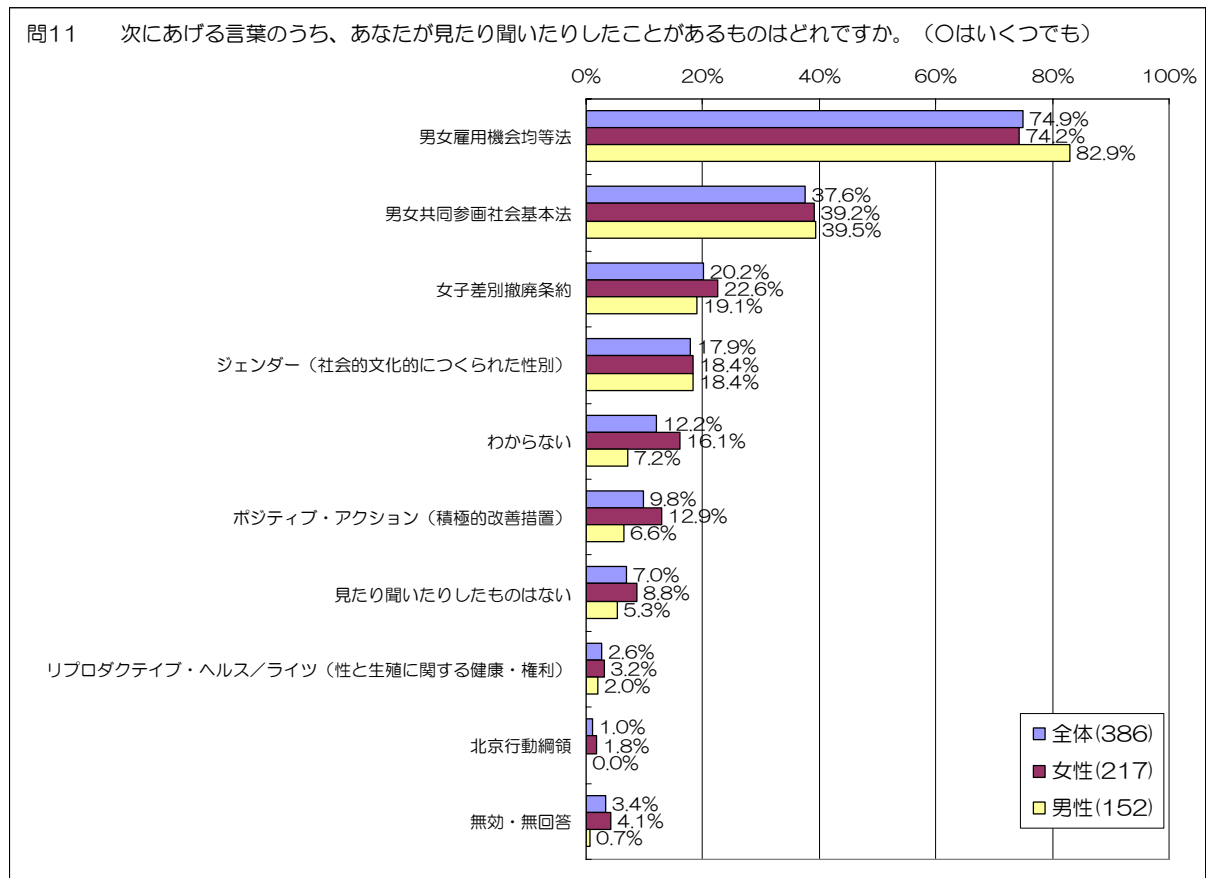


年代別に見れば、『レイプ（強姦）などの女性への性暴力』、『痴漢等の女性へのわいせつな行為』と回答している割合は男女とも各年代で高くなっているが、中でも、40代では男女差がみられる。

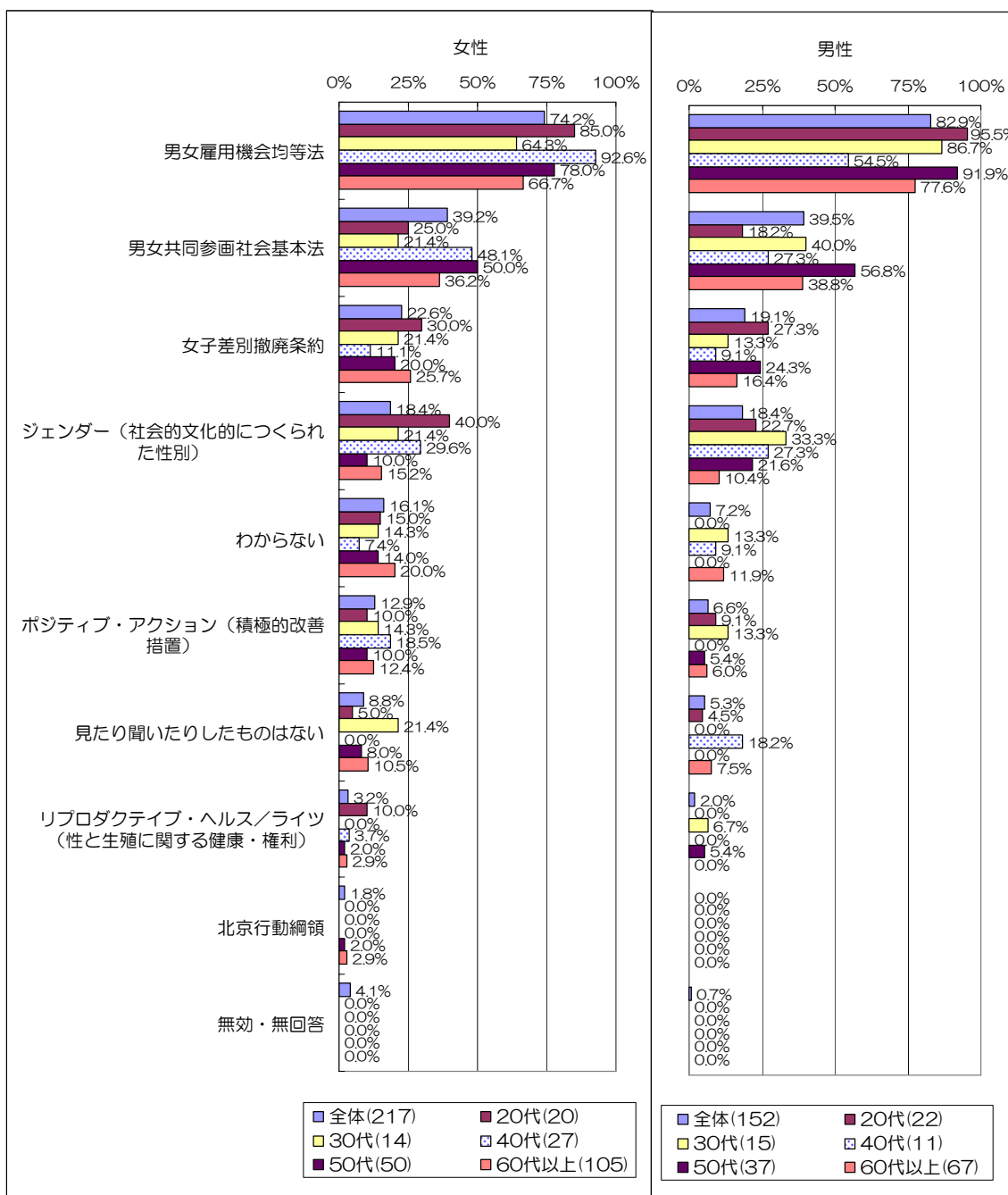
『職場等におけるセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）』では、女性は年代による大きな差は見られないが、男性の20代では77.3%の高い回答割合となっている。

7. 用語の周知度

用語の周知度



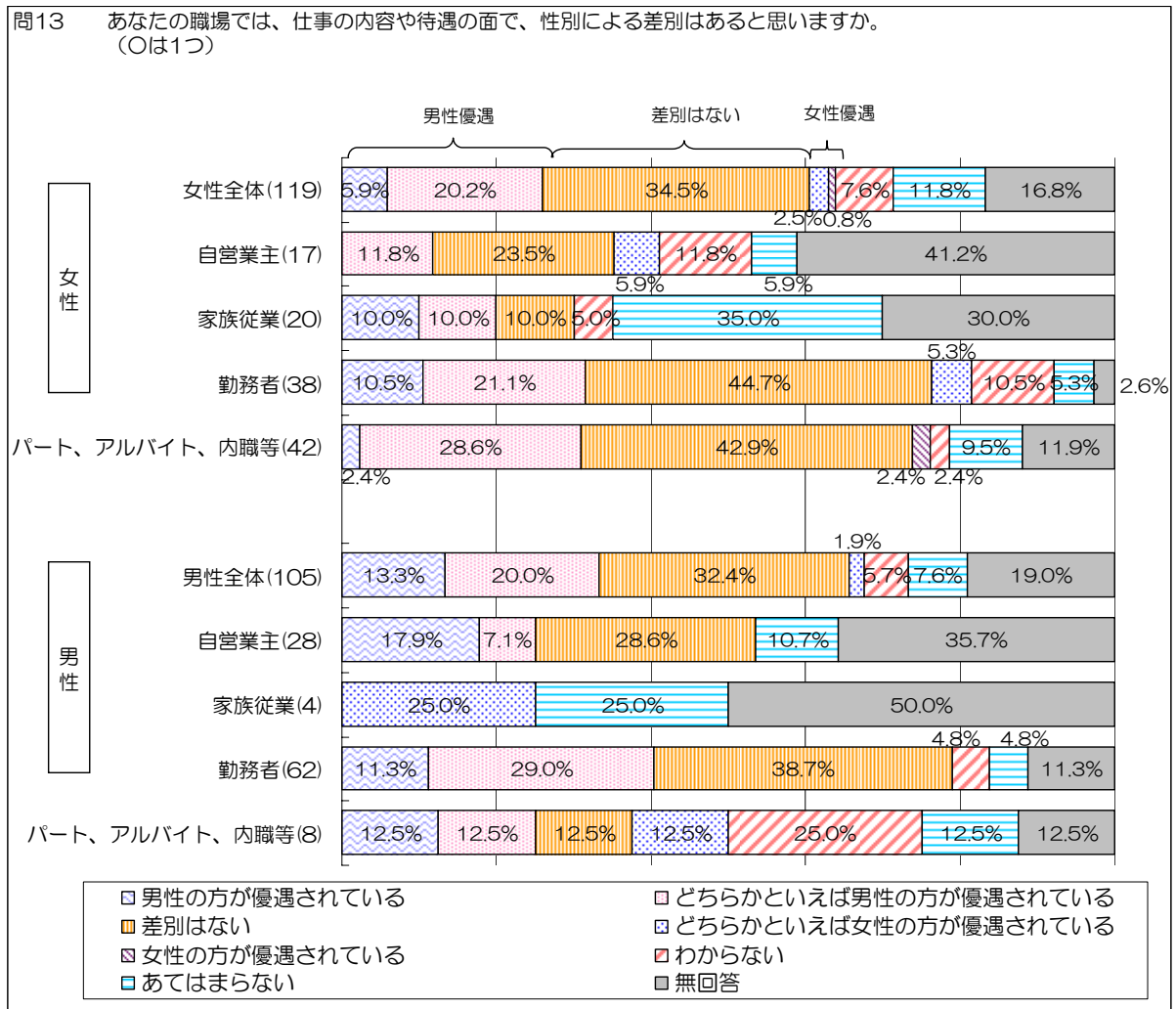
用語の周知度については、『男女雇用機会均等法』は男女とも回答割合が最も高く（女性 74.2%、男性 82.9%）、次いで『男女共同参画社会基本法』（女性 39.2%、男性 39.5%）、『女子差別撤廃条約』（女性 22.6%、男性 19.1%）となっている。



『男女雇用機会均等法』は男女とも各年代で回答している割合が高くなっている。
『男女共同参画社会基本法』は、女性では20代（25.0%）及び30代（21.4%）で、男性では20代（18.2%）で低い回答割合となっている。

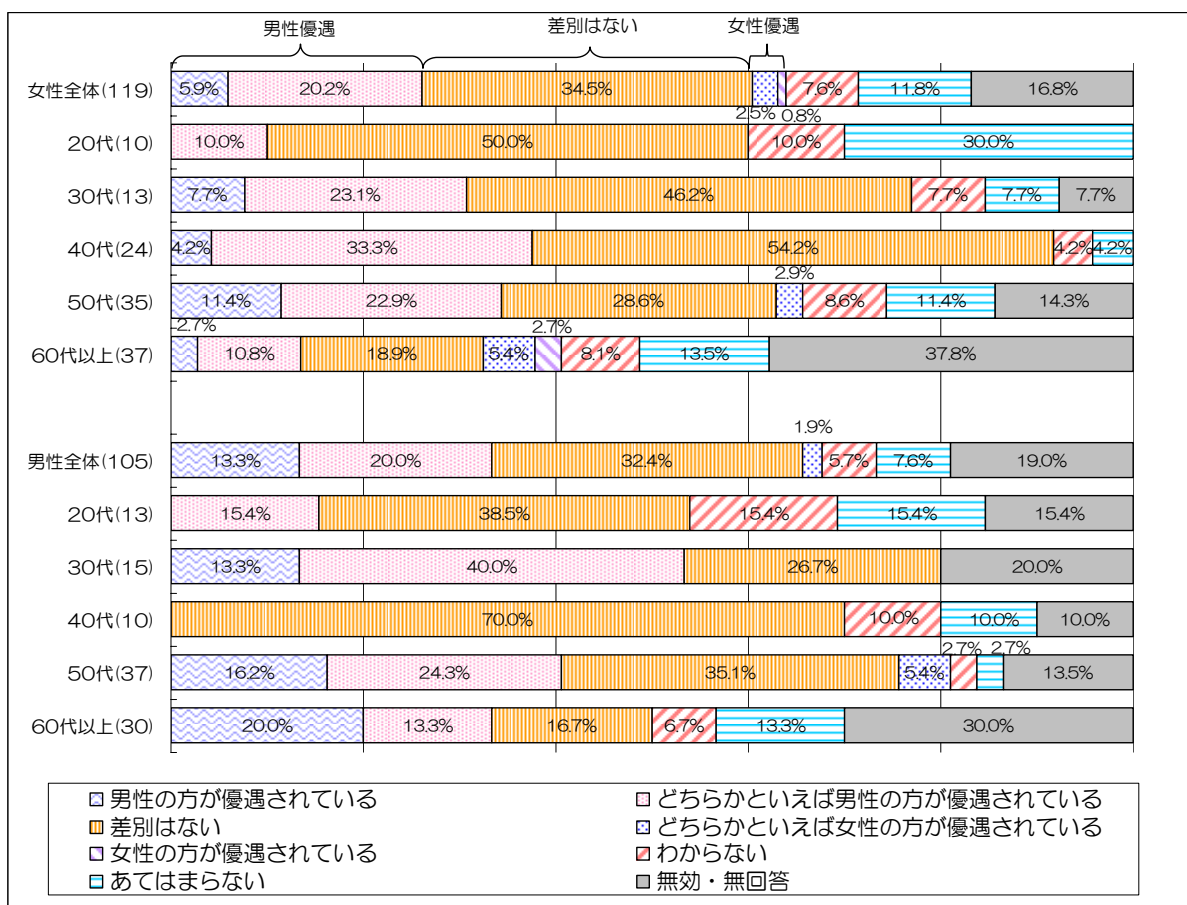
8. 職業

(1) 職場での性による差別



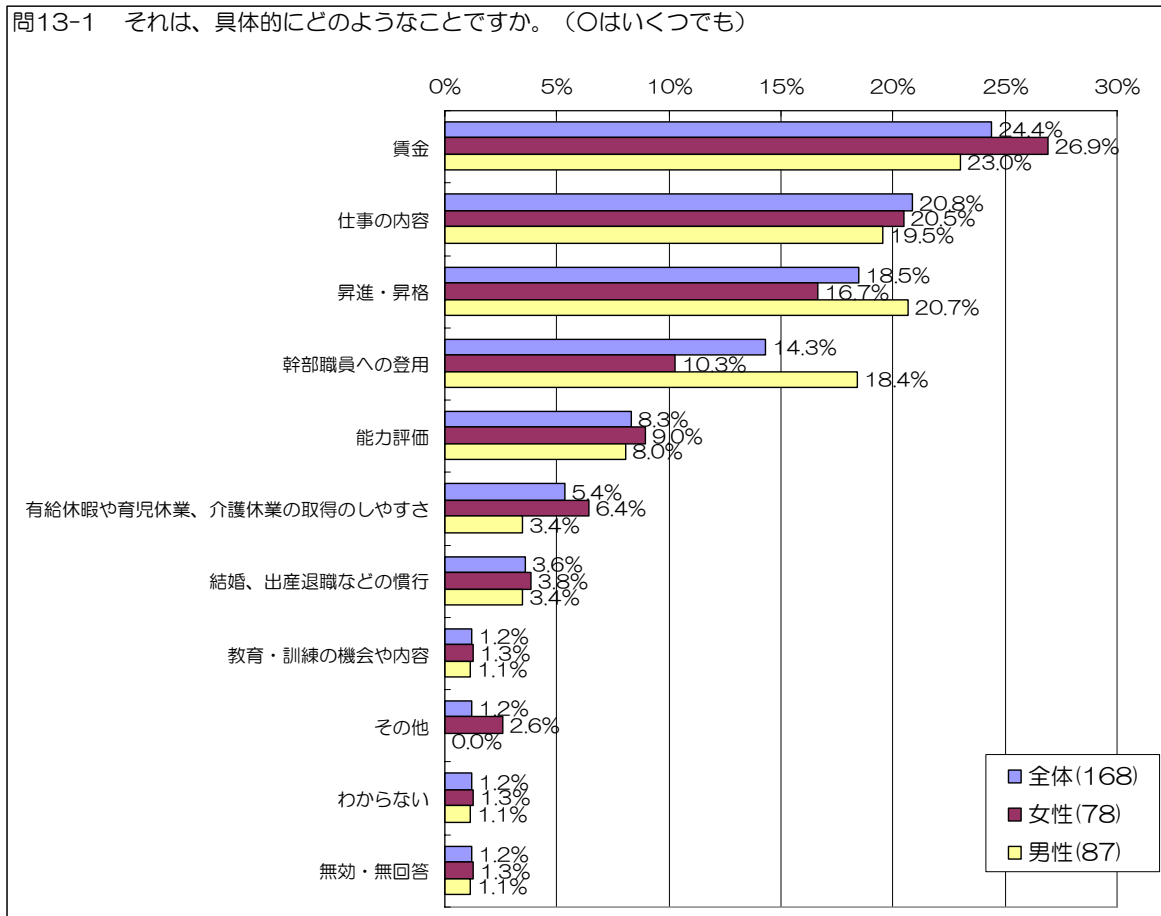
職場での性別による差別について、自営業主では、男女とも『差別がない』（女性 23.5%、男性 28.6%）と回答している割合が、『男性優遇』（女性 11.8%、男性 25.0%）及び『女性優遇』（女性 17.7%、男性 0.0%）よりも高い回答割合となっている。

また勤務者では、女性の 44.7%が『差別がない』と回答し、31.6%が『男性優遇』と回答し、『差別がない』と回答している割合が高いのに対し、男性は 38.7%が『差別がない』と回答し、40.3%が『男性優遇』と回答し、『男性優遇』と回答している割合が高い。

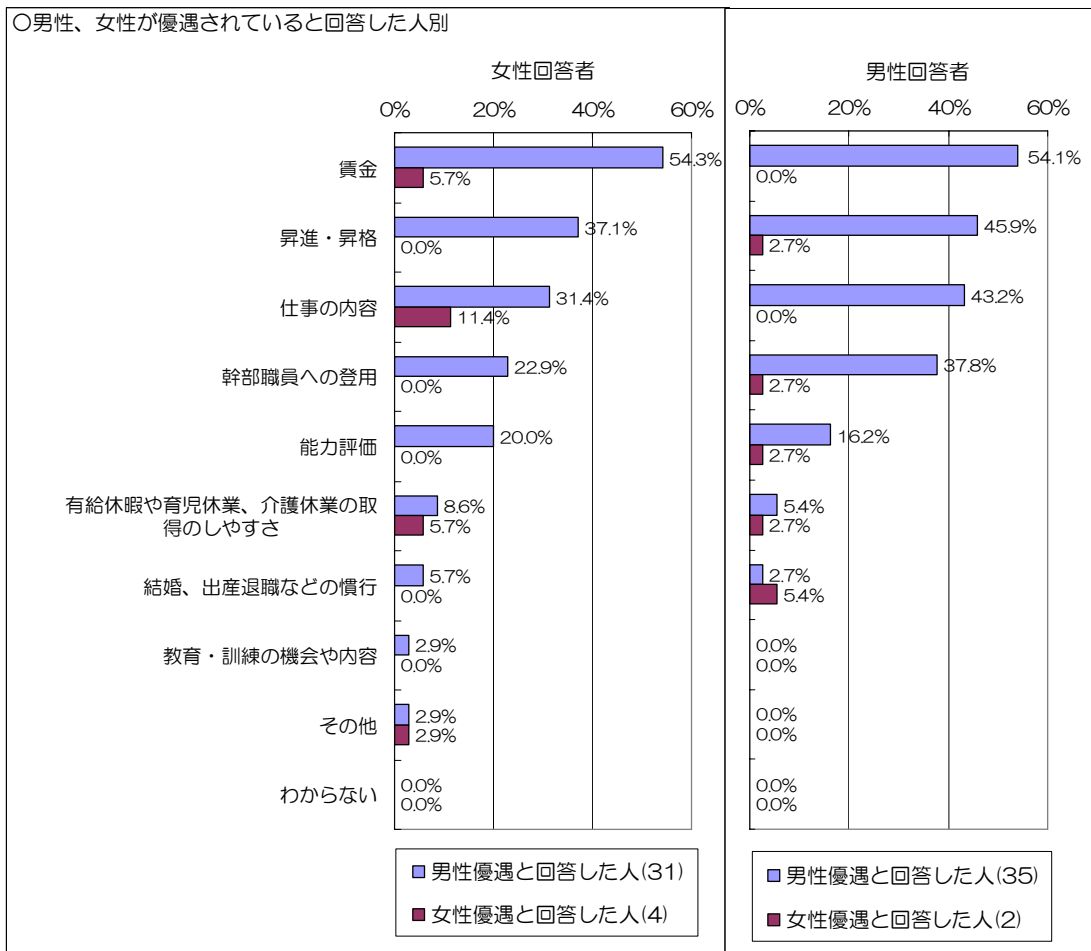


年代別では、女性では50代のみ『男性優遇』と回答している割合が『差別はない』と回答している割合よりも高く、その他の年代では『差別はない』と回答している割合が高くなっている。

男性の20代及び40代では、『差別はない』(20代 38.5%、40代 70.0%)と回答している割合が『男性優遇』(20代 15.4%、40代 回答者無し)と回答している割合よりも高く、その他の年代では『男性優遇』と回答している割合が高くなっている。

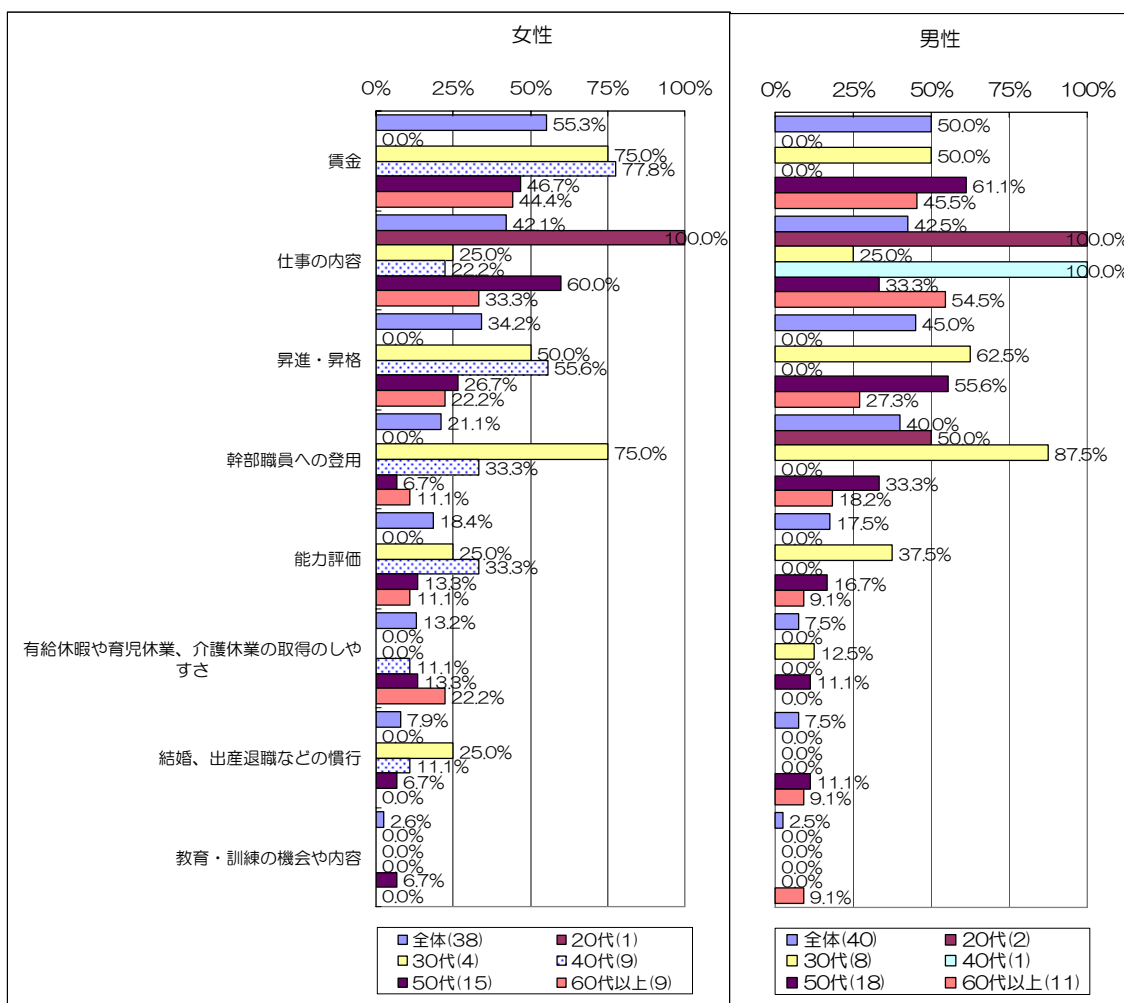


職場における性別による差別の具体的な内容については、女性は『賃金』(26.9%)、『仕事の内容』(20.5%)、『昇進・昇格』(16.7%)の順に性別による差別があると回答し、男性は『賃金』(23.0%)、『昇進・昇格』(20.7%)、『仕事の内容』(19.5%)の順に性別による差別があると回答している。



問 13-1 の職場における性別による差別の具体的な内容について、男女別に集計したものが上の表である。

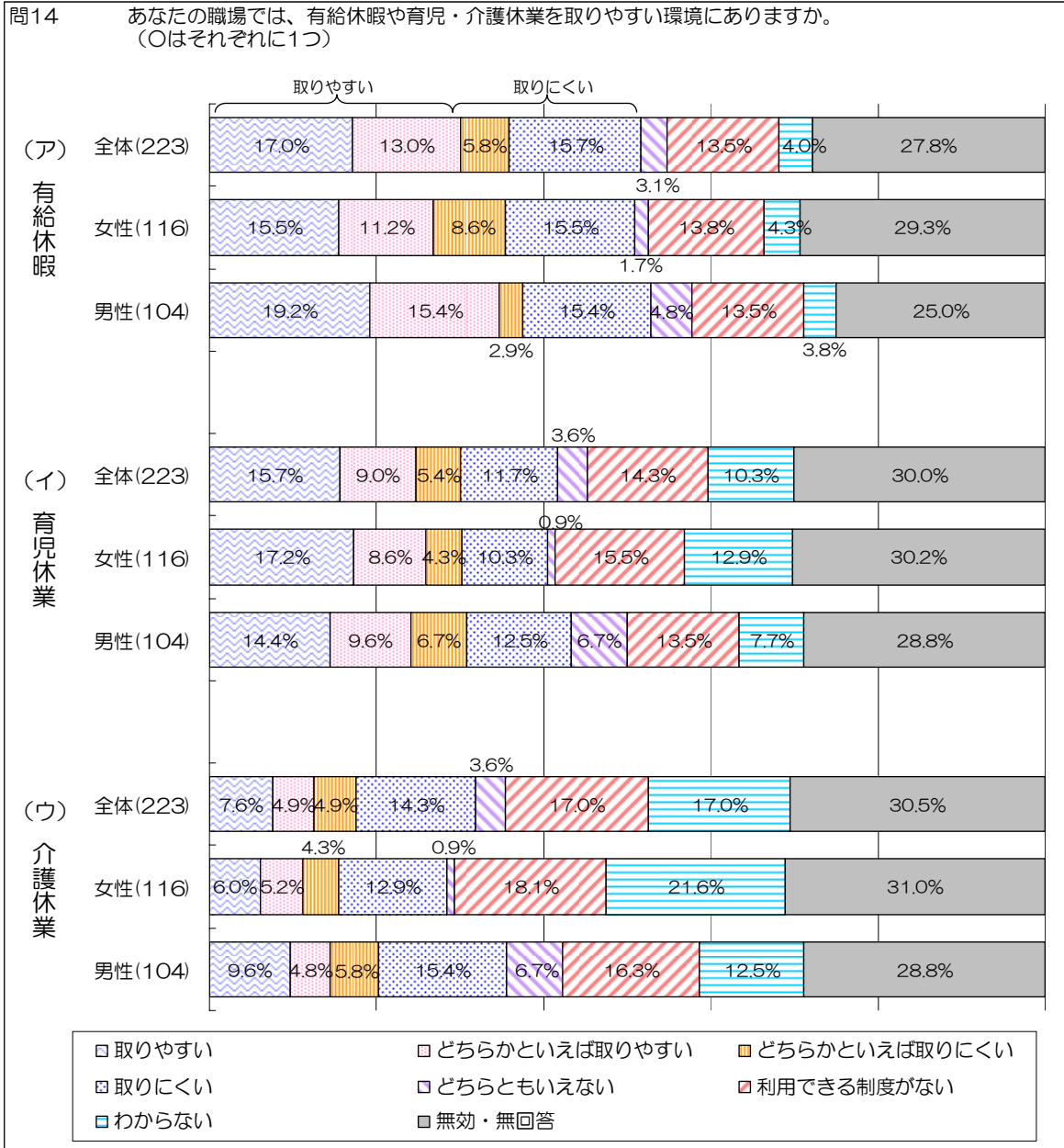
具体的にどのような点で男性が優遇されているか、または、女性が優遇されているかについては、男女ともに『賃金』（女性 54.3%、男性 54.1%）、『昇進・昇格』（女性 37.1%、男性 45.9%）、『仕事の内容』（女性 31.4%、男性 43.2%）、『幹部職員への登用』（女性 22.9%、男性 37.8%）、『能力評価』（女性 20.0%、男性 16.2%）で男性優遇と回答している。



年代別に見れば、男女ともすべての20代が『仕事の内容』について性別による差別を感じていると回答している。

また、30代では『賃金』(女性 75.0%、男性 50.0%)、『昇進・昇格』(女性 50.0%、男性 62.5%)、『幹部職員への登用』(女性 75.0%、男性 87.5%)が高い回答割合となっている。

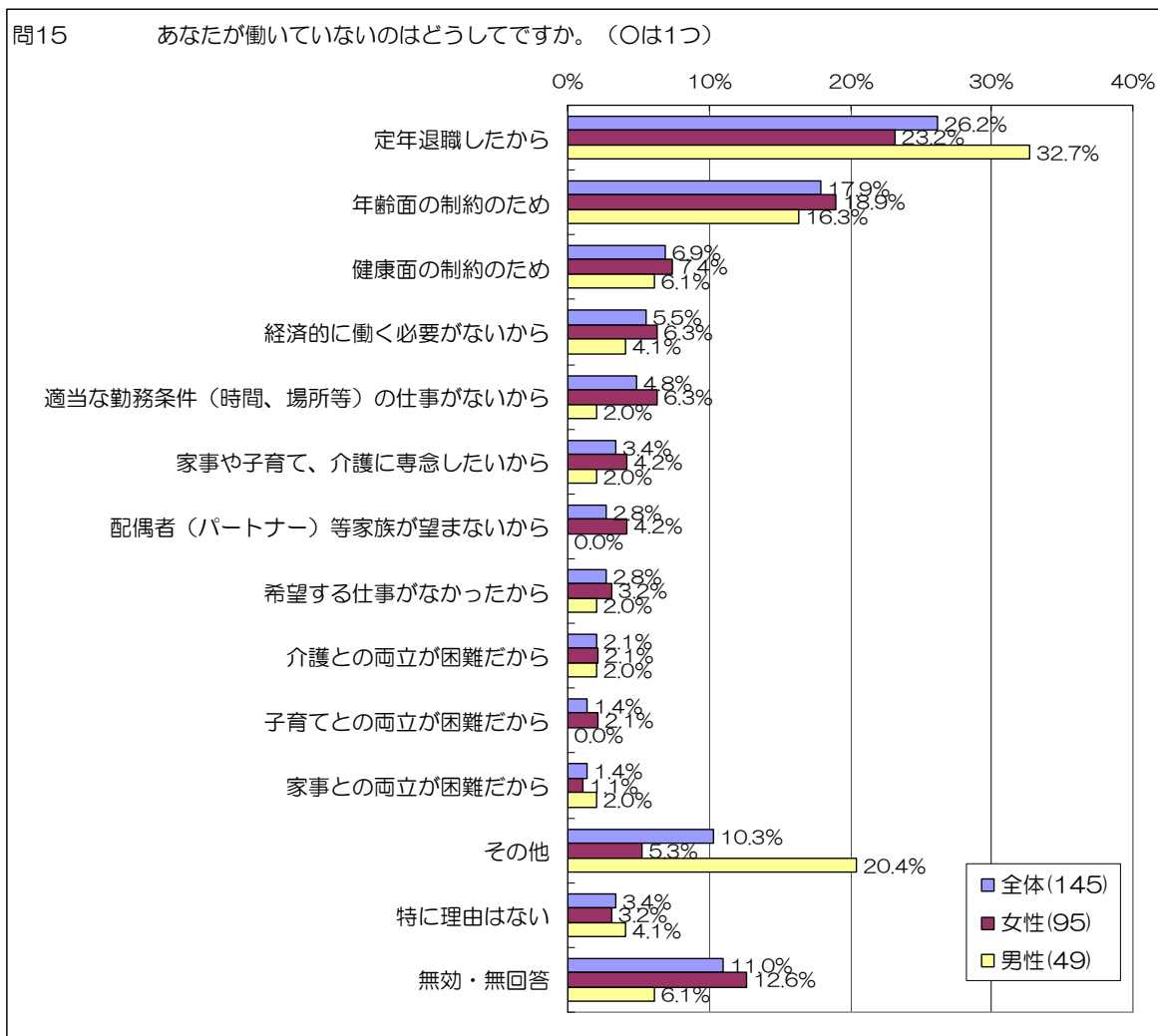
(2) 有給休暇、育児・介護休業の取りやすさ



職場における『有給休暇』のとりやすさについては、男女とも『取りやすい』と回答した割合（女性 26.7%、男性 34.6%）が『取りにくい』と回答した割合（女性 24.1%、男性 18.3%）より高くなっている。

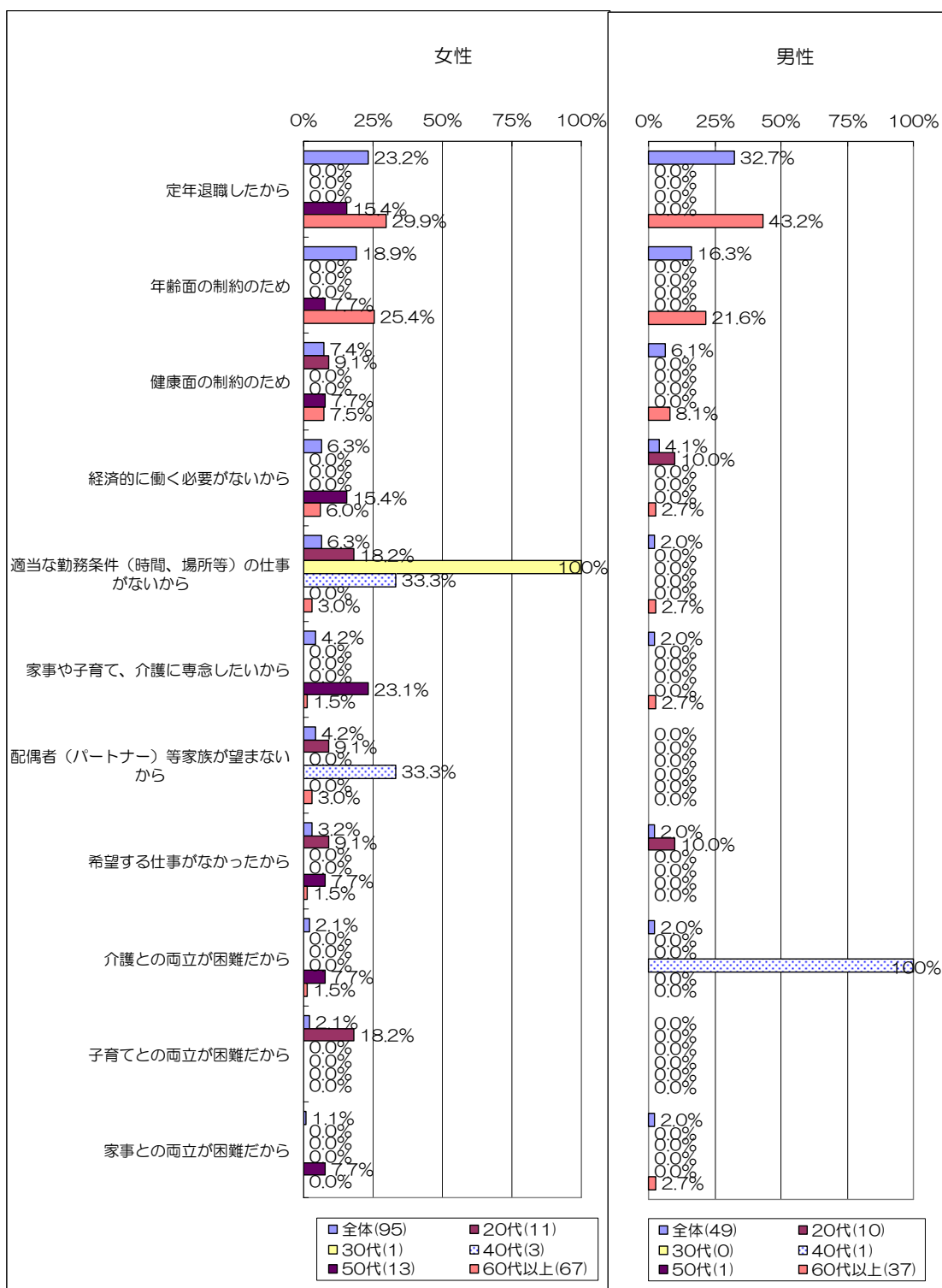
また、職場における『育児休業』・『介護休業』のとりやすさについては、男女とも『有給休暇』を『取りやすい』と回答した割合よりも低くなっている。

(3) 働いていない理由



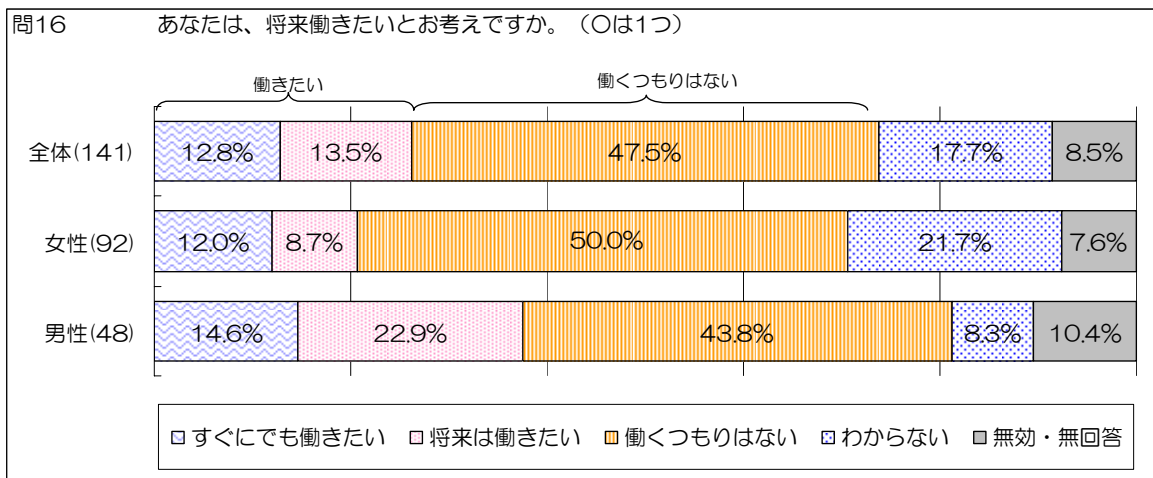
現在働いていない人のその理由は、男女ともに『定年退職したから』と回答した割合(女性 23.2%、男性 32.7%)が高く、『年齢面の制約のため』(女性 18.9%、男性 16.3%)と続いている。

また、『その他』の回答では、『学生だから』という意見が多かった。

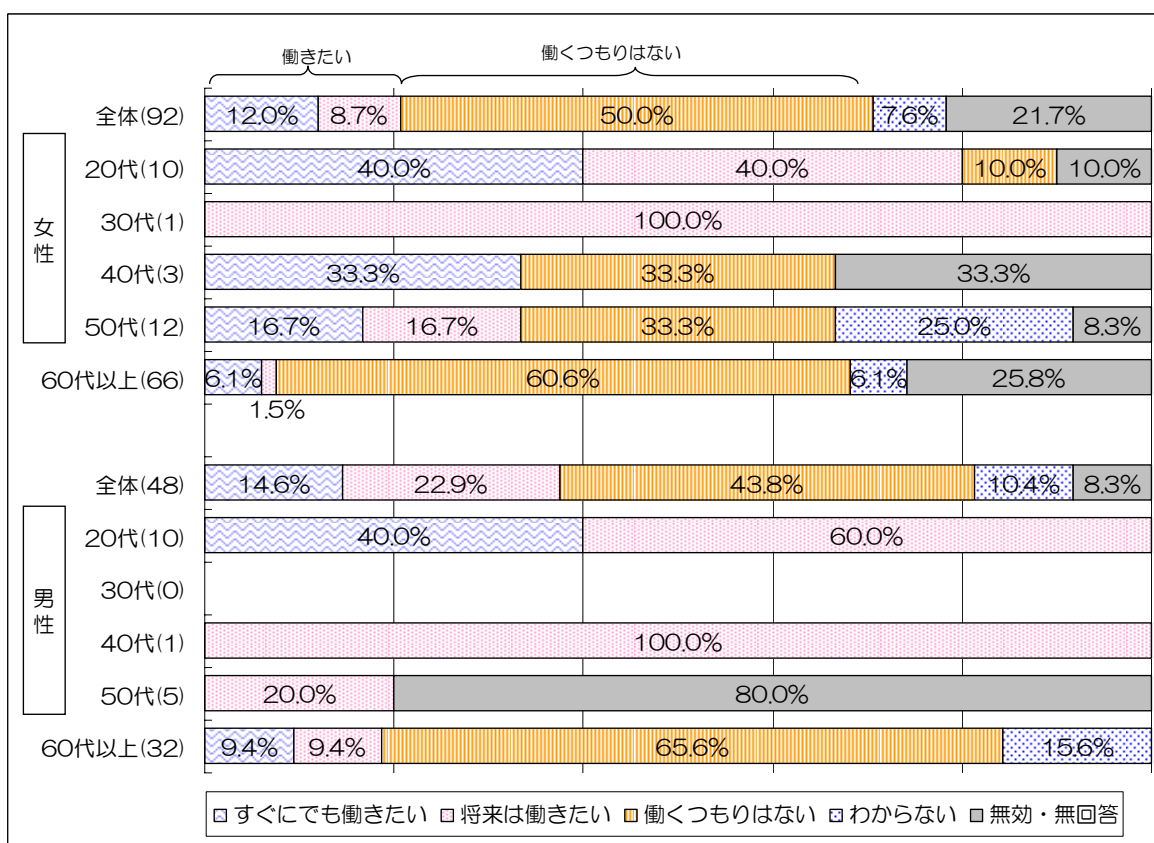


男女とも 60 代以上では『定年退職したから』（女性 29.9%、男性 43.2%）と回答している割合が高くなっている。また、『家事や子育て、介護に専念したいから』では女性の 50 代（23.1%）で、『子育てとの両立が困難だから』では女性の 20 代（18.2%）で回答している割合が高くなっている。

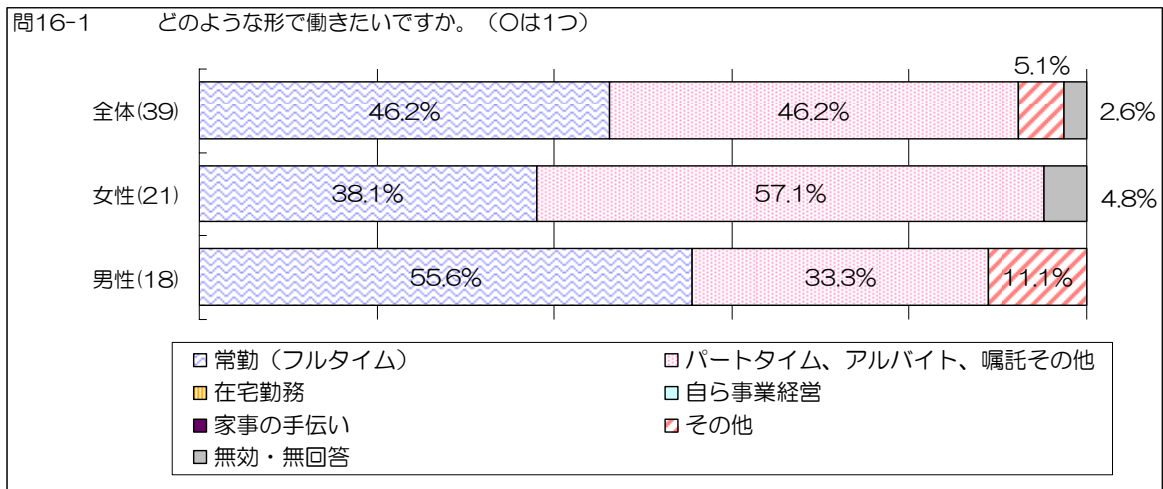
(4) 将来就業の希望について



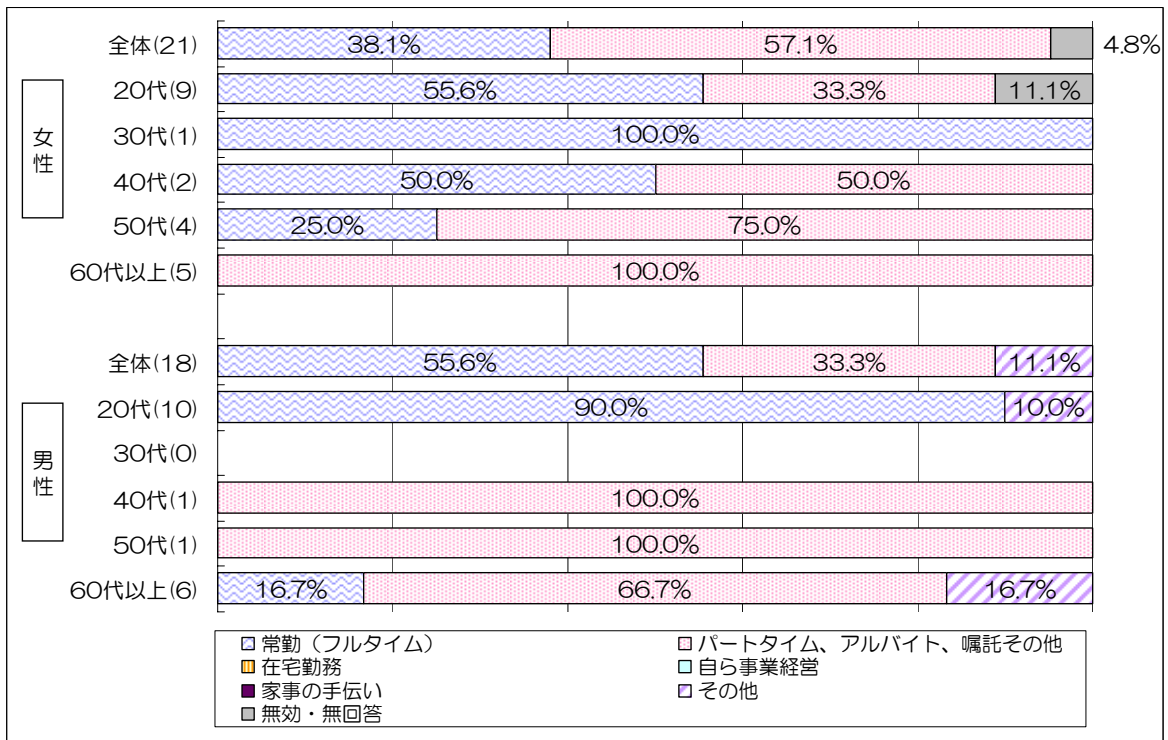
現在働いていない人の将来の就業希望については、女性の50.0%、男性の43.8%が『働くつもりはない』と回答し、『将来働きたい』(女性20.7%、男性37.5%)と回答している割合よりも高い割合となっている。



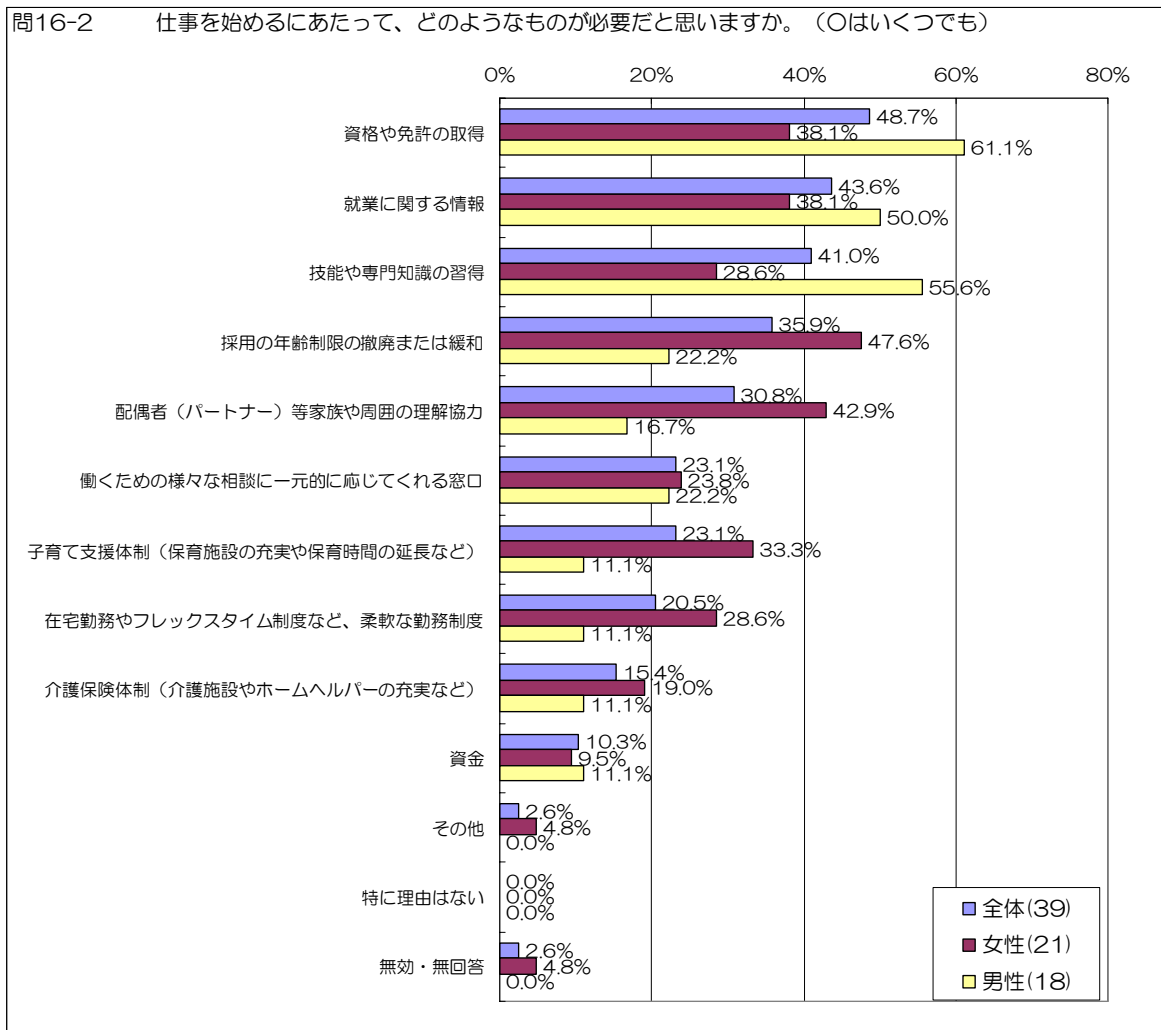
年代別に見れば、若い年代ほど『働きたい』と回答している割合が高く、50代以上は『働くつもりはない』と回答している割合が高くなっている。



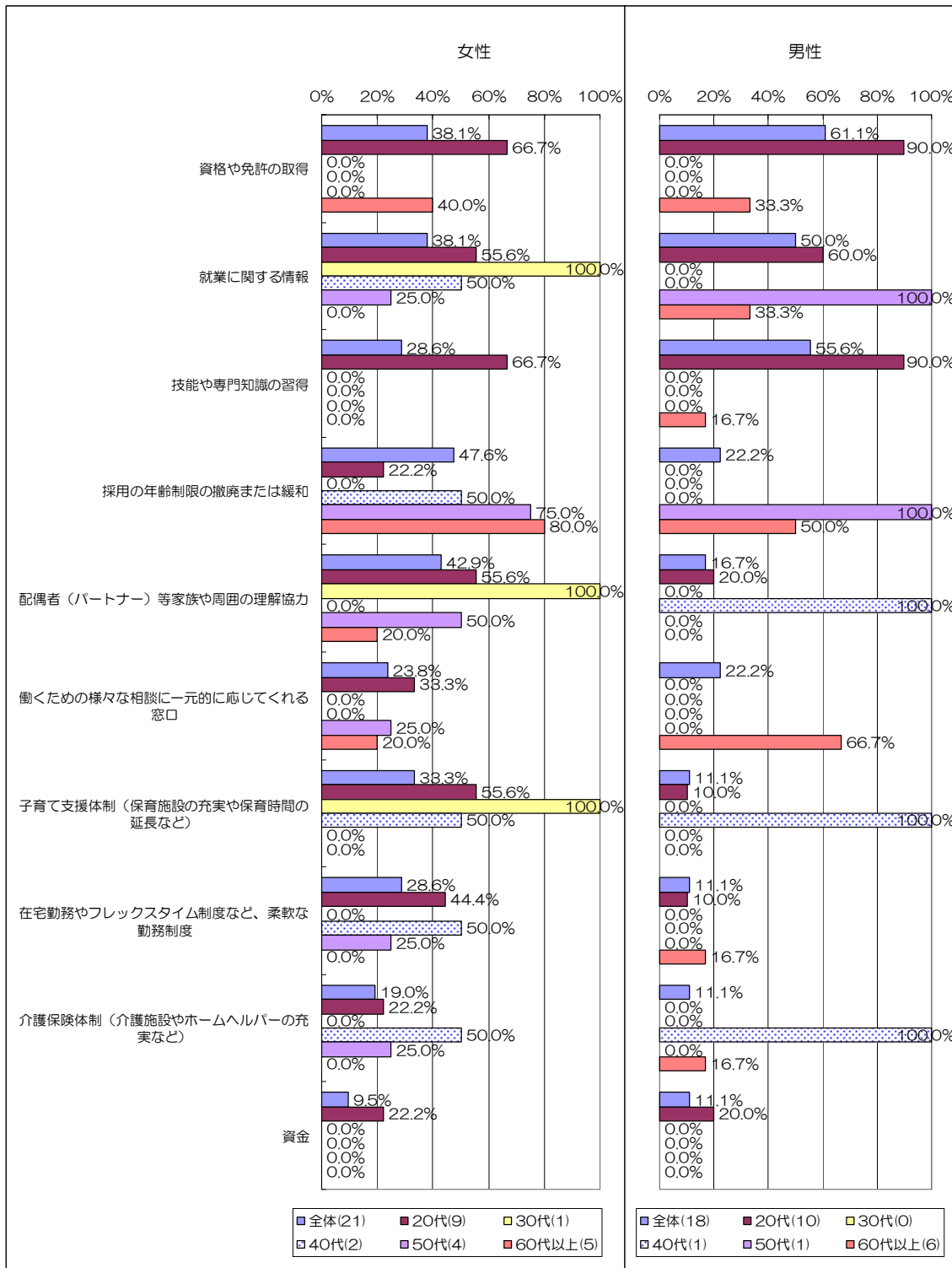
働きたいと感じている人に対して、どのような形態で働きたいかについて聞いたところ、女性は『パートタイム、アルバイト、嘱託その他』(57.1%)と回答している割合が高く、男性は『常勤 (フルタイム)』(55.6%)と回答している割合が高くなっている。



年代別で見れば、若い年代では『常勤 (フルタイム)』、年齢が高くなるにつれて『パートタイム、アルバイト、嘱託その他』の回答割合が高くなっている。

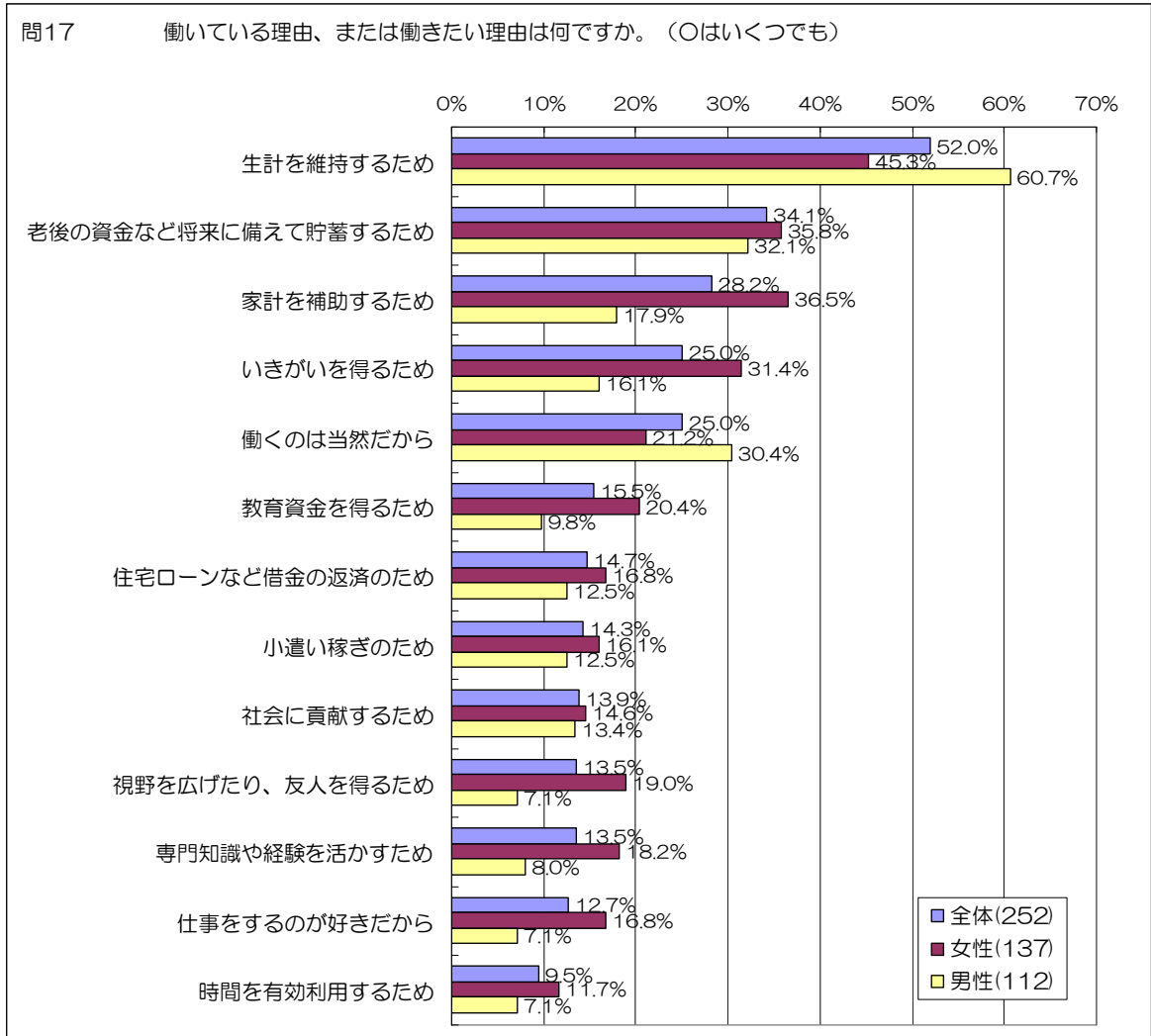


仕事を始めるにあたって何が必要かという問に対して、女性は『採用の年齢制限の撤廃または緩和』(47.6%)、『配偶者(パートナー)等家族や周囲の理解協力』(42.9%)の回答割合が高いが、男性は『資格や免許の取得』(61.1%)、『技能や専門知識の習得』(55.6%)の回答割合が高く、男女の回答に差が出ている。

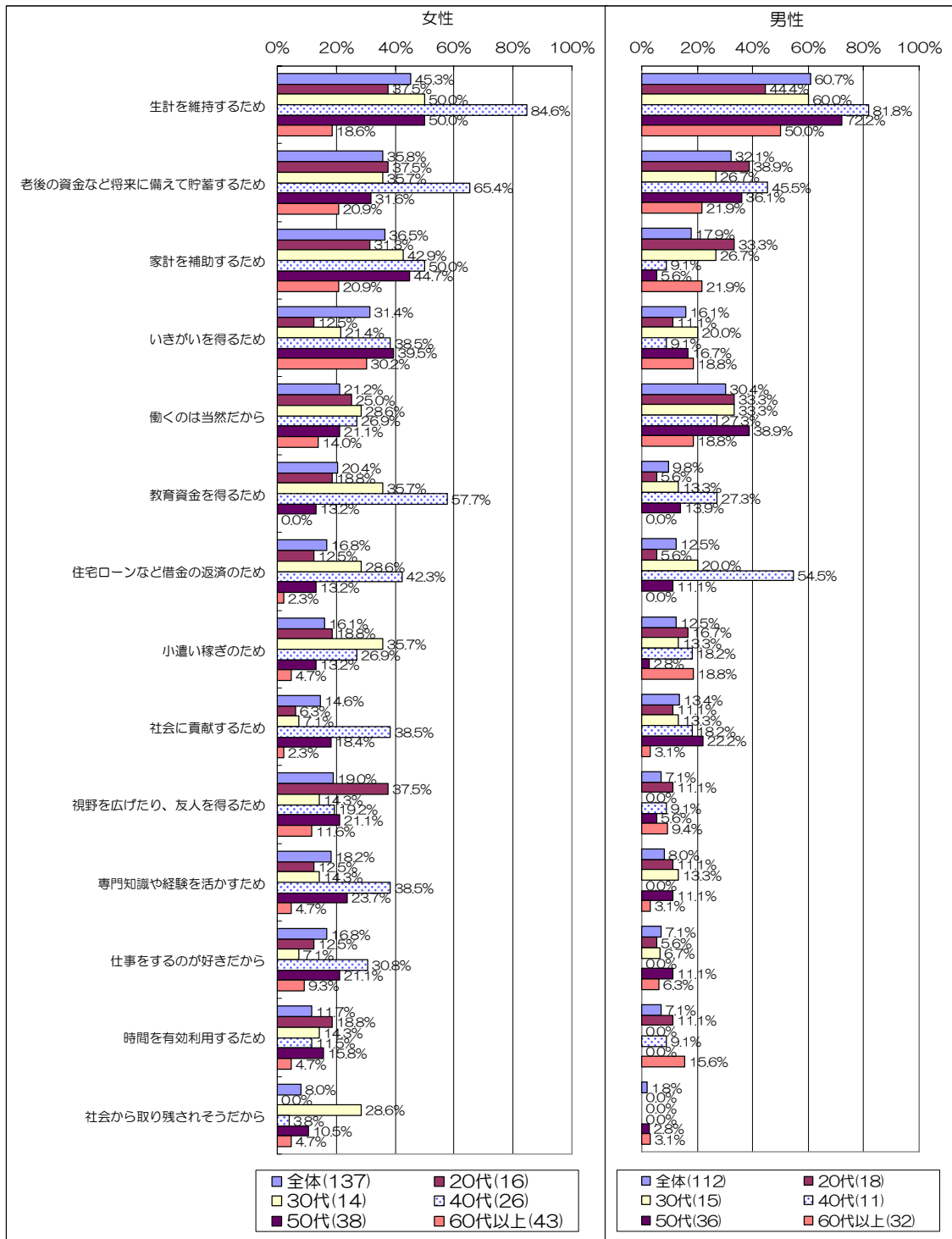


年代別では、男女とも50代以上で『採用の年齢制限の撤廃または緩和』と回答している割合が高く、女性の20代で『子育て支援体制（保育施設の充実や保育時間の延長など）』（55.6%）の回答割合が高くなっている。

(5) 働いている理由、働きたい理由



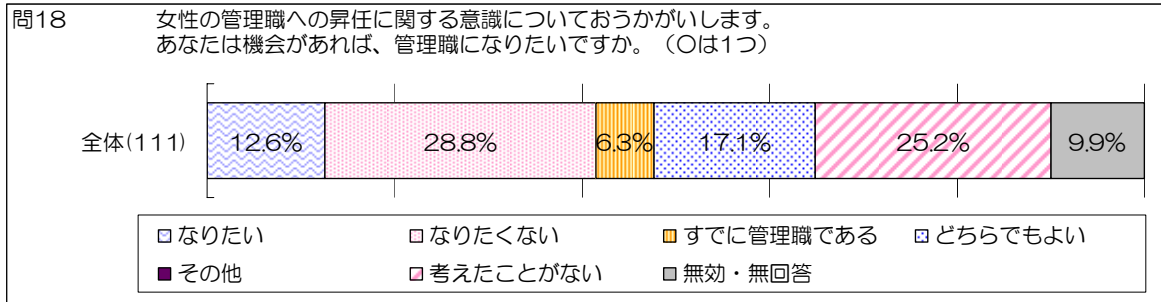
働いている理由は、男女ともに『生計を維持するため』と回答している割合（女性 45.3%、男性 60.7%）が高いが、男性の回答割合が女性の回答割合より 15.4 ポイント高く男女間で大きな差がみられる。



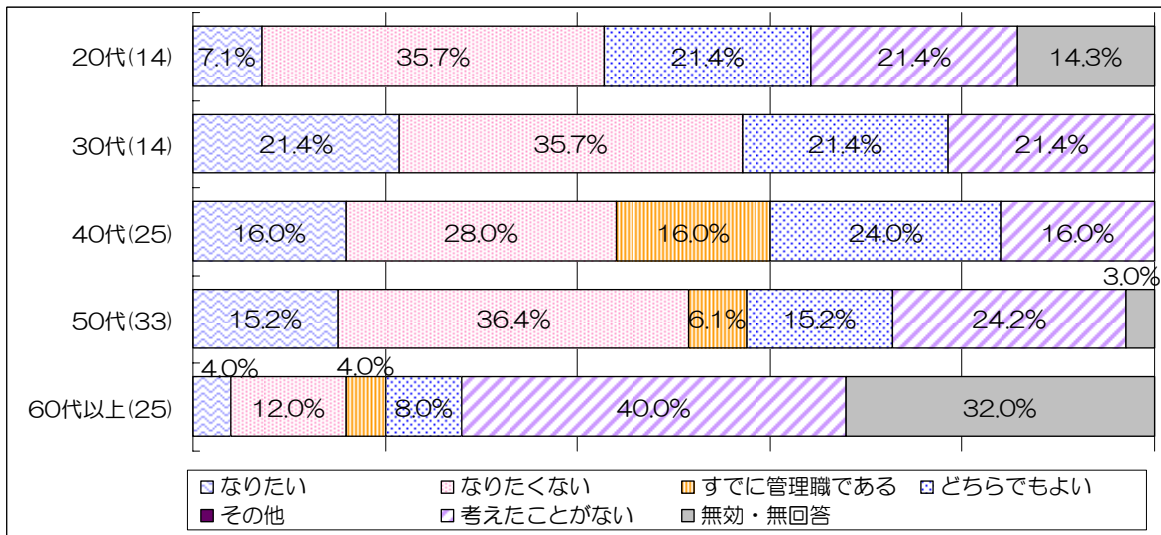
年代別では、男女とも40代、50代では『生計を維持するため』や『老後の資金など将来に備えて貯蓄するため』など、生活するために働いているという回答割合が高くなっている。

女性では、60代以上で『いきがいを得るため』(30.2%)と回答している割合が高く、20代では『視野を広げたり、友人を得るため』(37.5%)と回答している割合が高くなっている。

(6) 管理職の登用についての考え方

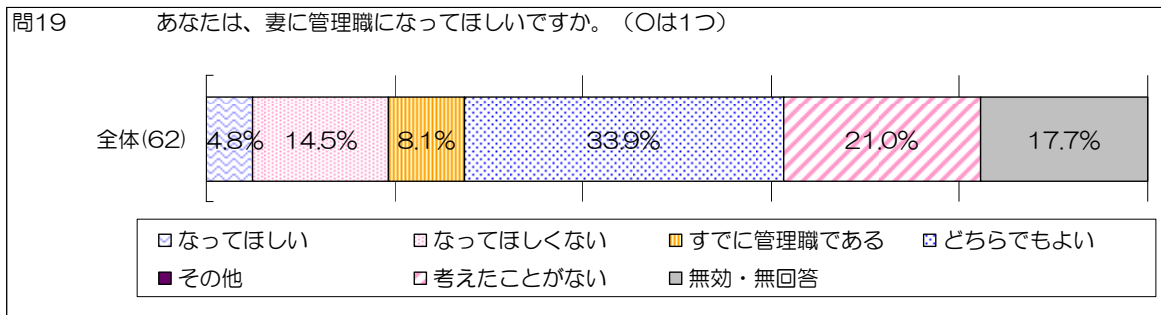


女性自身の管理職への昇任については、『なりたくない』と回答している割合が、28.8%と最も高く、『なりたい』と回答している割合(12.6%)よりも16.2ポイント高くなっている。

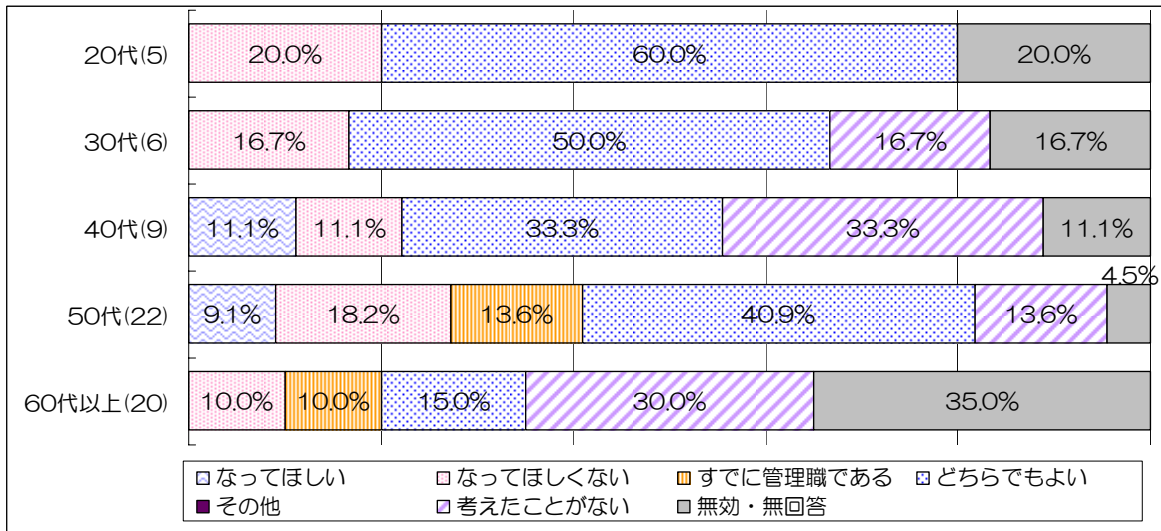


年代別では、『なりたい』と回答している割合が最も高いのは30代(21.4%)であるが、20代では『なりたい』と回答している割合は7.1%で低い回答割合となっている。

また、『なりたくない』と回答している割合が最も高いのは20代と30代で、ともに35.7%となっている。

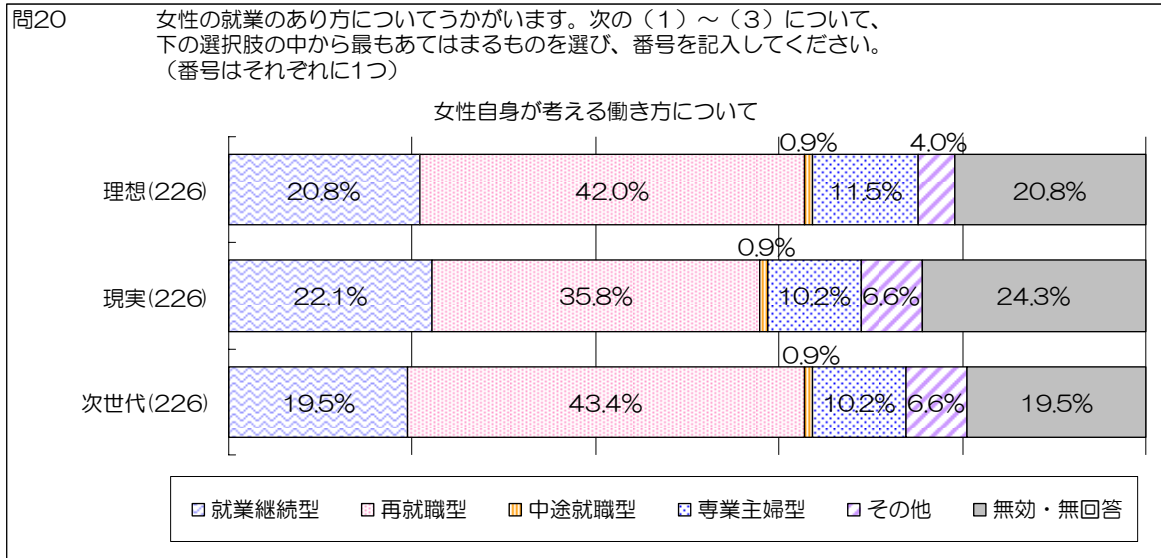


男性に妻が管理職になってほしいかを聞いたところ、『どちらでもよい』と回答している割合が33.9%と最も高く、『なつてほしくない』と回答した割合(14.5%)が、『なつてほしい』と回答した割合(4.8%)よりも9.7ポイント高くなつている。

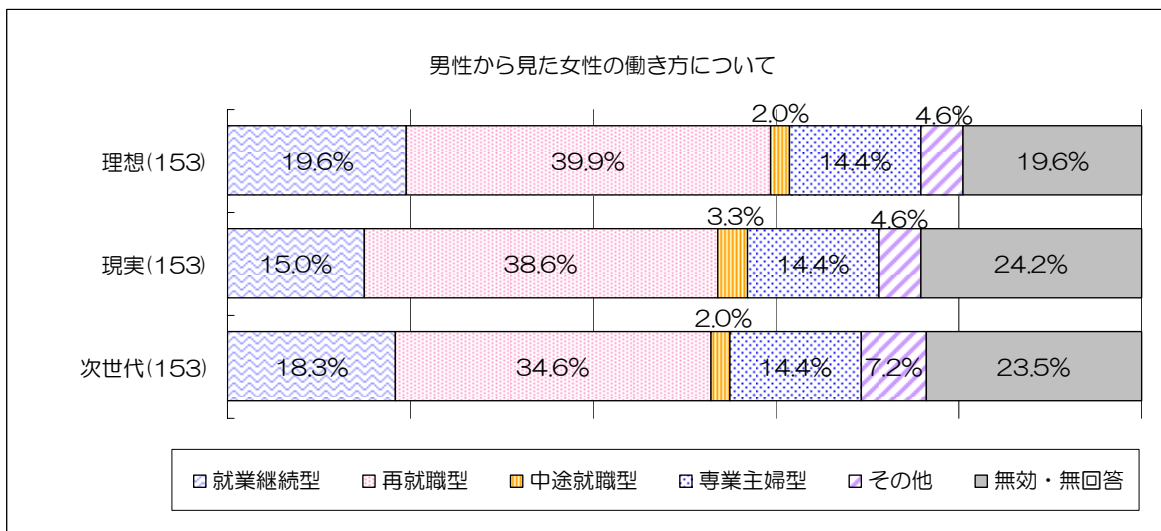


年代別に見れば、20代、30代では管理職に『なつてほしい』と回答した人はいなく、『どちらでもよい』(20代60.0%、30代50.0%)と回答している割合が高くなつている。

(7) 女性の就業状態（理想、現実、次世代）

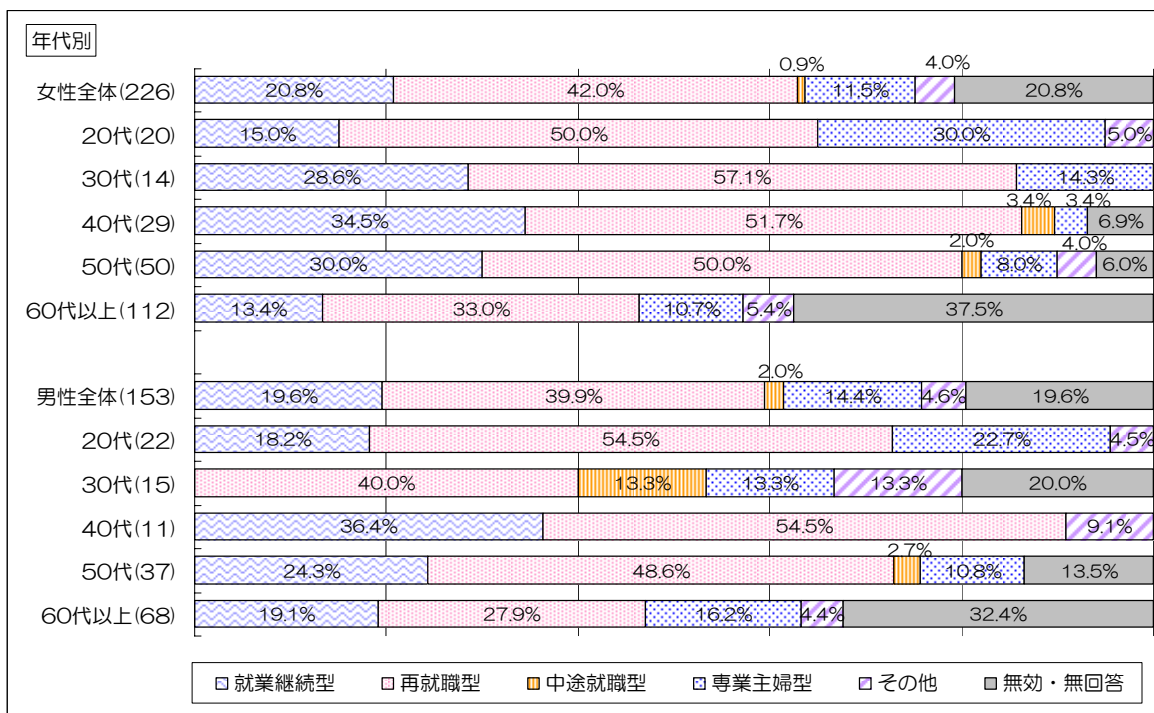


女性自身の働き方について聞いたところ、理想、現実、次世代の女性の就業のあり方として、子育ての時期に一時的に家庭に入るなどの『再就職型』と回答した割合が最も高く、次いで、結婚や出産にかかわらず仕事を継続する『就業継続型』と回答した割合が高くなっている。



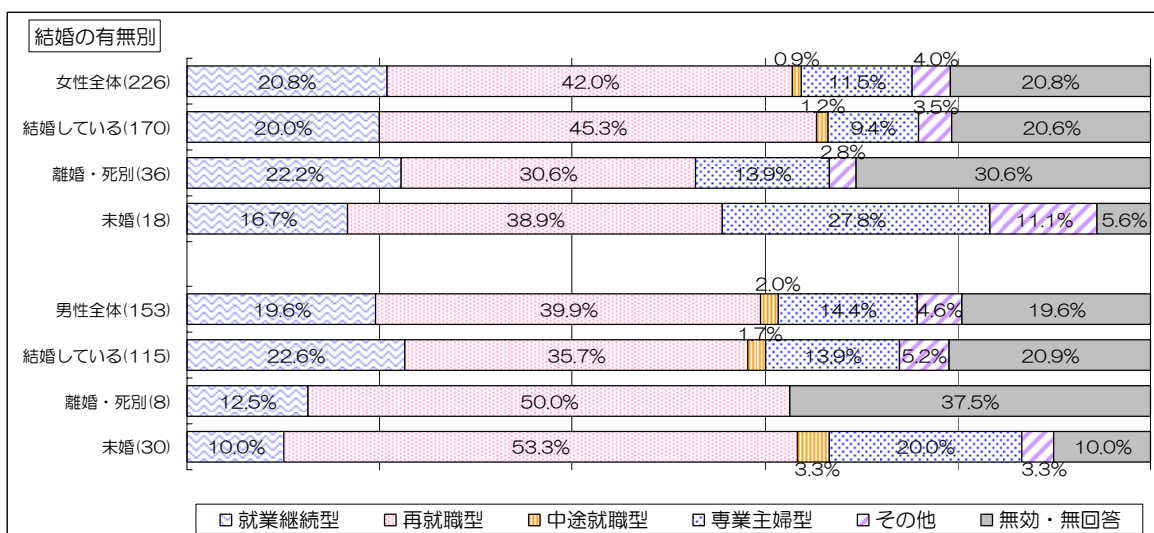
男性に女性の働き方について聞いたところ、理想、現実、次世代の女性の就業のあり方として、女性の回答と同様に、子育ての時期に一時的に家庭に入るなどの『再就職型』と回答した割合が最も高く、次いで、結婚や出産にかかわらず仕事を継続する『就業継続型』と回答した割合が高くなっている。

①女性の働き方（理想）

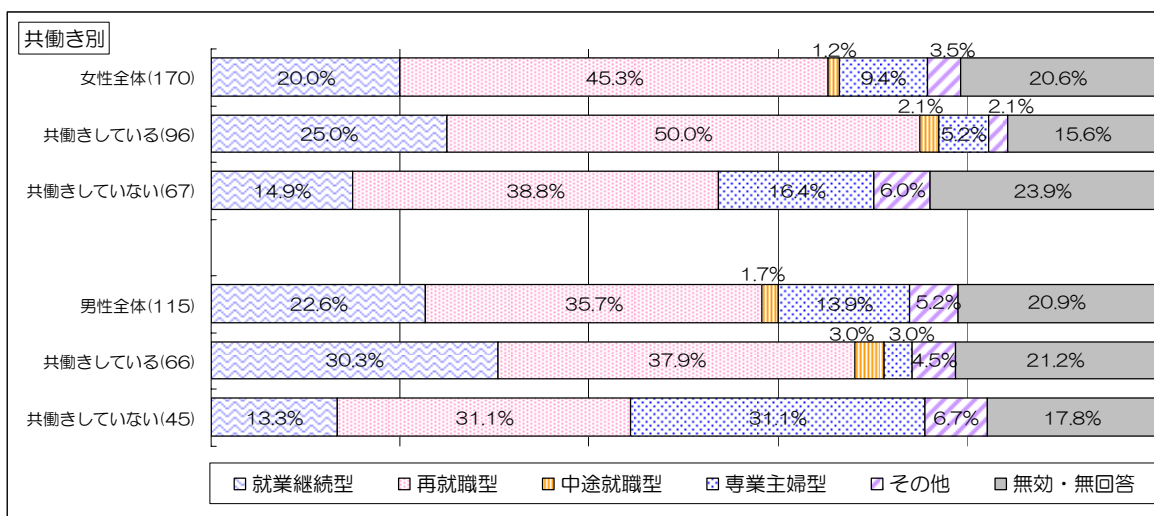


男女ともに、各年代を通して再就職型の回答割合が高くなっている。

『就職継続型』は、男女とも40代で最も高い回答割合（女性34.5%、男性36.4%）となっている。

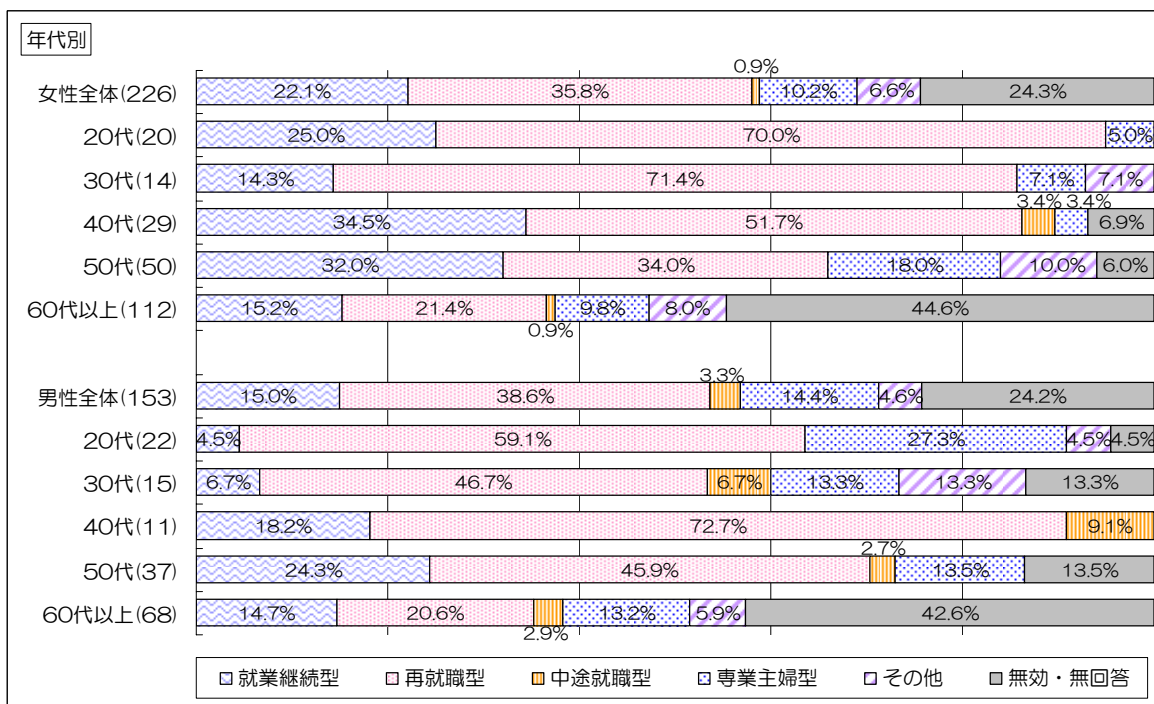


すべての区分で『再就職型』を理想としている人の割合が高いが、女性では、結婚している人（45.3%）であり、男性では未婚の人（53.3%）となっている。



すべての区分で『再就職型』を理想としている人の割合が高いが、男女とも共働きしている人が最も高い回答割合（女性 50.0%、男性 37.9%）となっている。また、『就職継続型』を理想としている人の割合が高いのは、共働きをしている男性（30.3%）となっている。

②女性の働き方（現実）

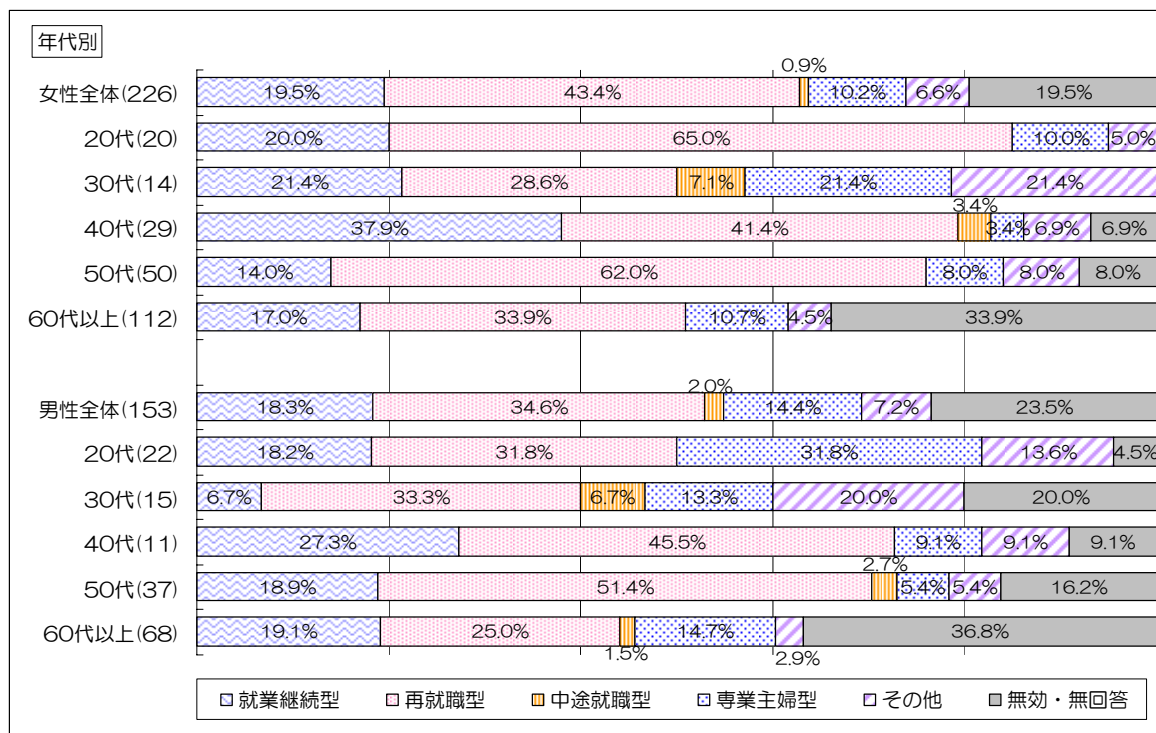


女性の働き方については現実においても、すべての年代で『再就職型』が高い回答割合となっている。

『就職継続型』が最も高い回答割合となっているのは、女性は40代（34.5%）、男性は50代（24.3%）となっている。

また、『専業主婦型』が最も高い回答割合となっているのは、女性は50代（18.0%）、男性は20代（27.3%）となっている。

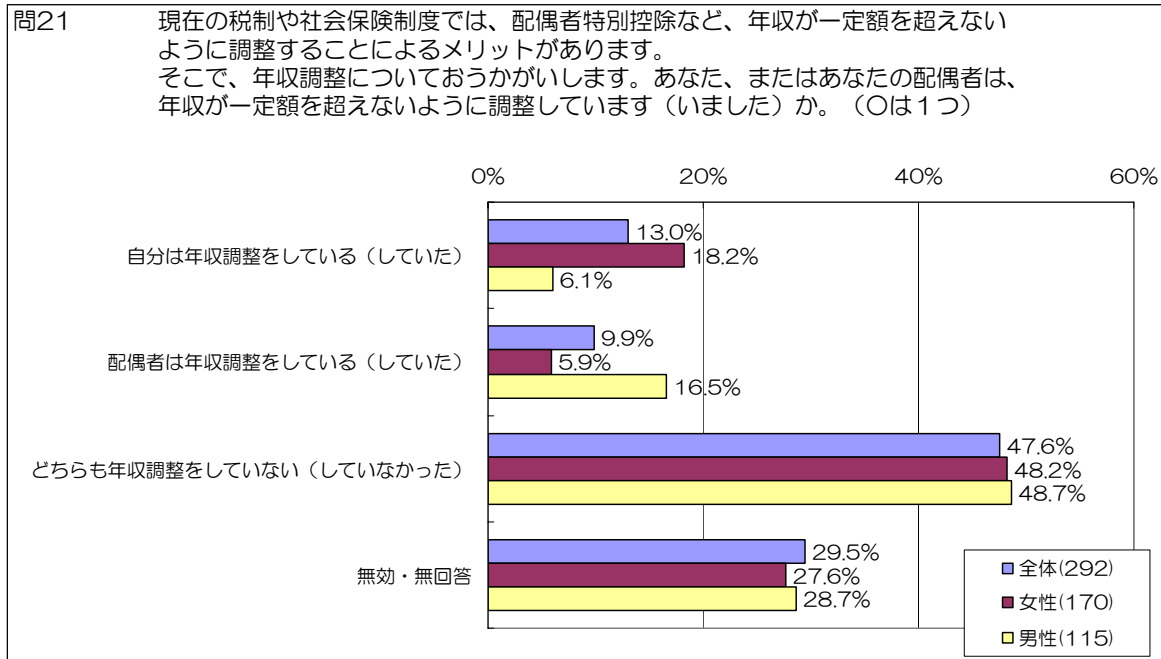
③女性の働き方（次世代）



男女とも各年代で『再就職型』と回答している割合が高くなっているほか、『就業継続型』と回答している割合は、40代（女性 37.9%、男性 27.3%）で最も高くなっている。

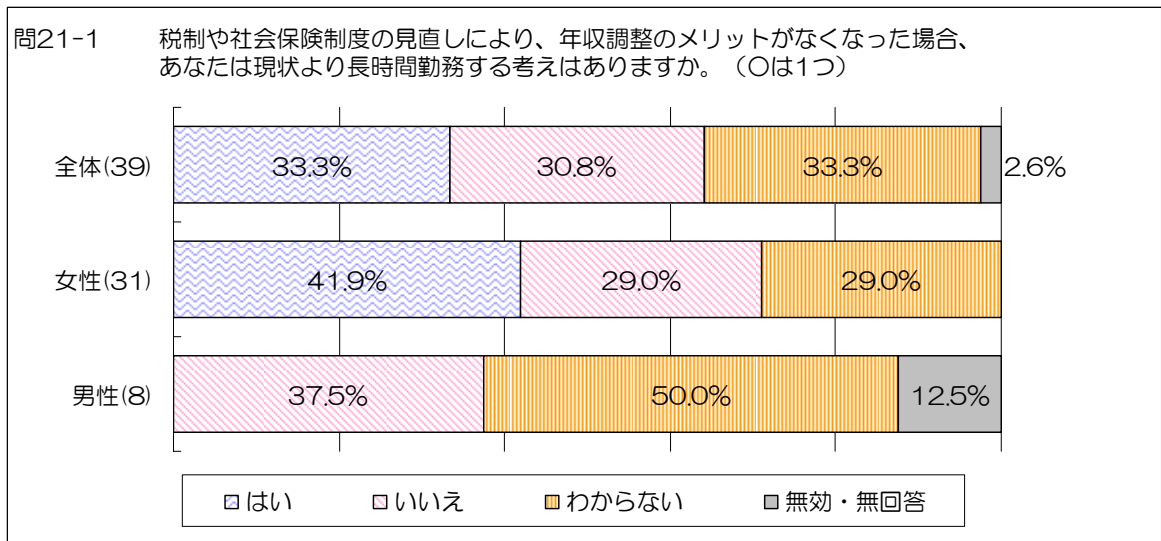
男性は、『専業主婦型』と回答している割合が20代で31.8%と高くなっている。

(8) 年収調整について

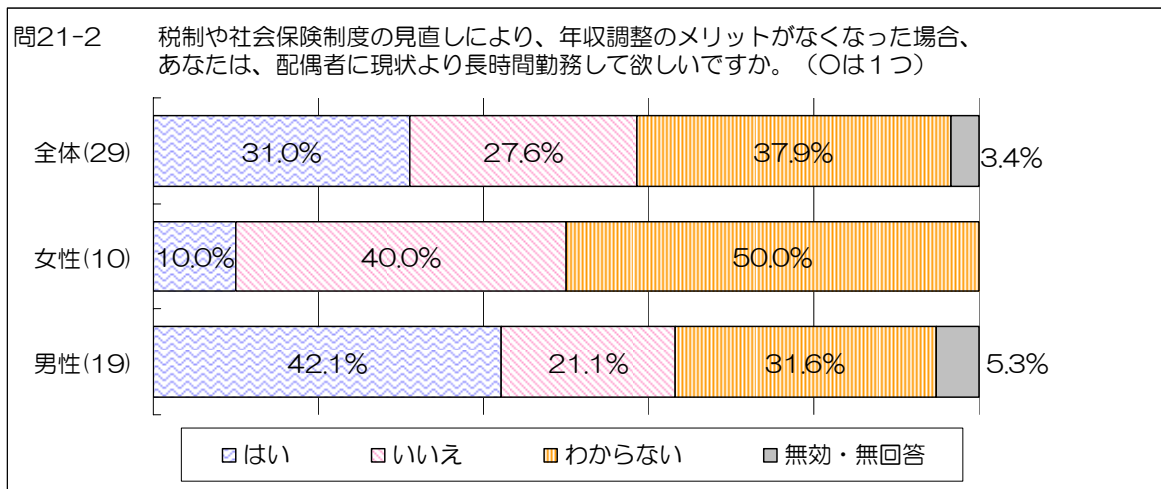


年収調整の有無については、男女とも『どちらも年収調整をしていない（していなかった）』（女性 48.2%、男性 48.7%）と回答している割合が高くなっている。

女性が『自分は年収調整をしている（していた）』と回答している割合が 18.2%、男性は『配偶者は年収調整をしている（していた）』と回答している割合が 16.5%であり、女性に年収を調整している人が多くなっている。

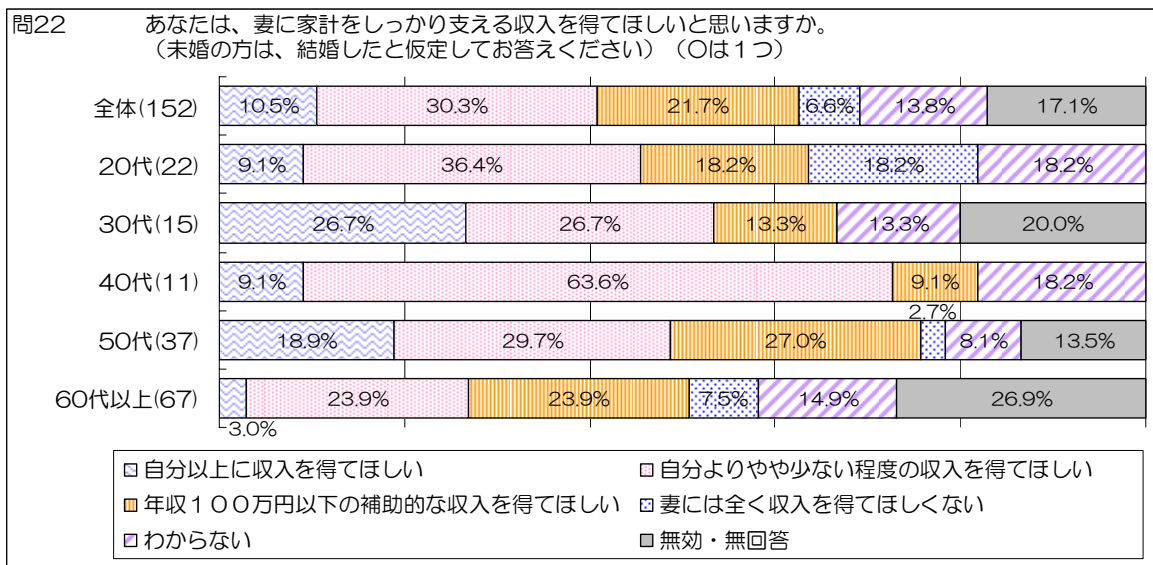


自分は年収調整している（していた）と回答した人に、年収調整のメリットがなくなった場合、現状より長時間勤務を希望すると回答した女性の割合（41.9%）が高くなっている。



配偶者は年収調整している（していた）と回答した人に、年収調整のメリットがなくなった場合、配偶者が現状より長時間勤務をしてほしいと回答した男性の割合（42.1%）が高くなっている。

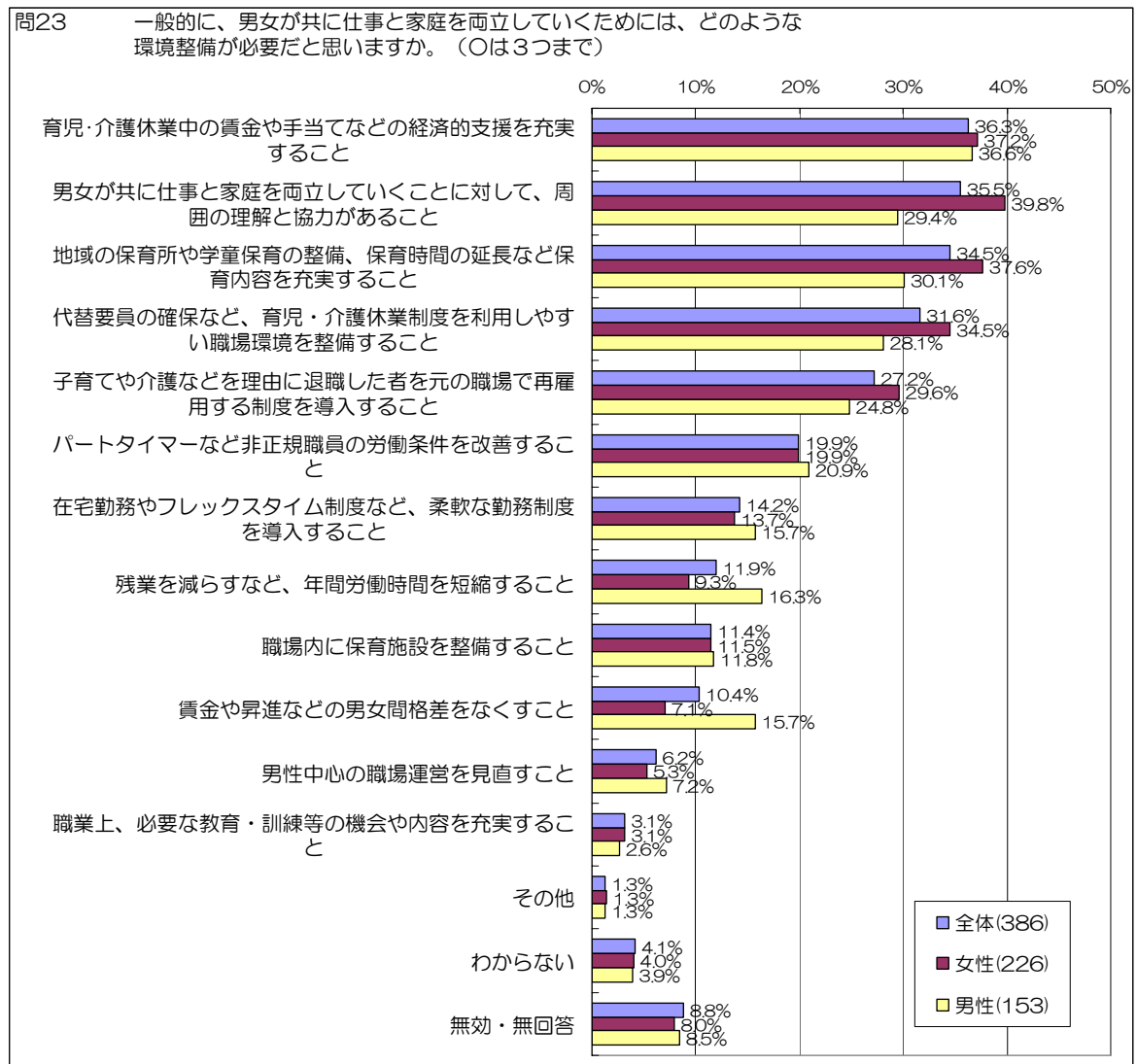
(9) 女性の収入に対する考え方



男性に、妻には家計をしっかり支える収入を得てほしいかについて聞いたところ、全体では、『自分よりやや少ない程度の収入を得てほしい』(30.3%)と回答している割合が最も高く、次いで、『年収100万円以下の補助的な収入を得てほしい』(21.7%)と回答している割合が高くなっている。

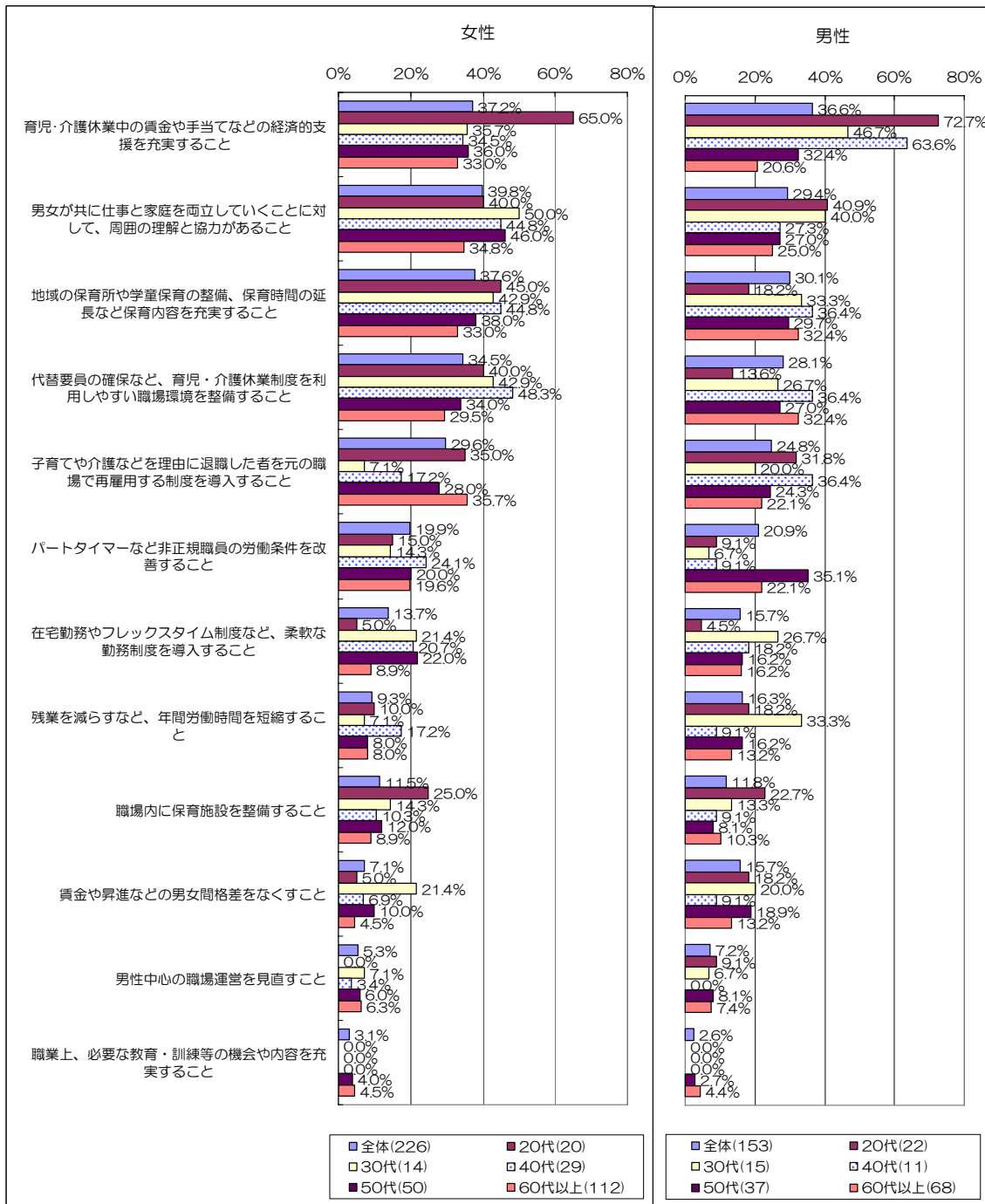
9. 仕事と家庭生活の両立

仕事と家庭生活の両立のために必要な環境整備



男女ともに、『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』（女性 37.2%、男性 36.6%）、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』（女性 39.8%、男性 29.4%）、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』（女性 37.6%、男性 30.1%）と回答した割合が高くなっている。

中でも、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』と回答した女性の割合は 39.8%であり、男性の回答割合 29.4%を 10.4 ポイント上回っている。

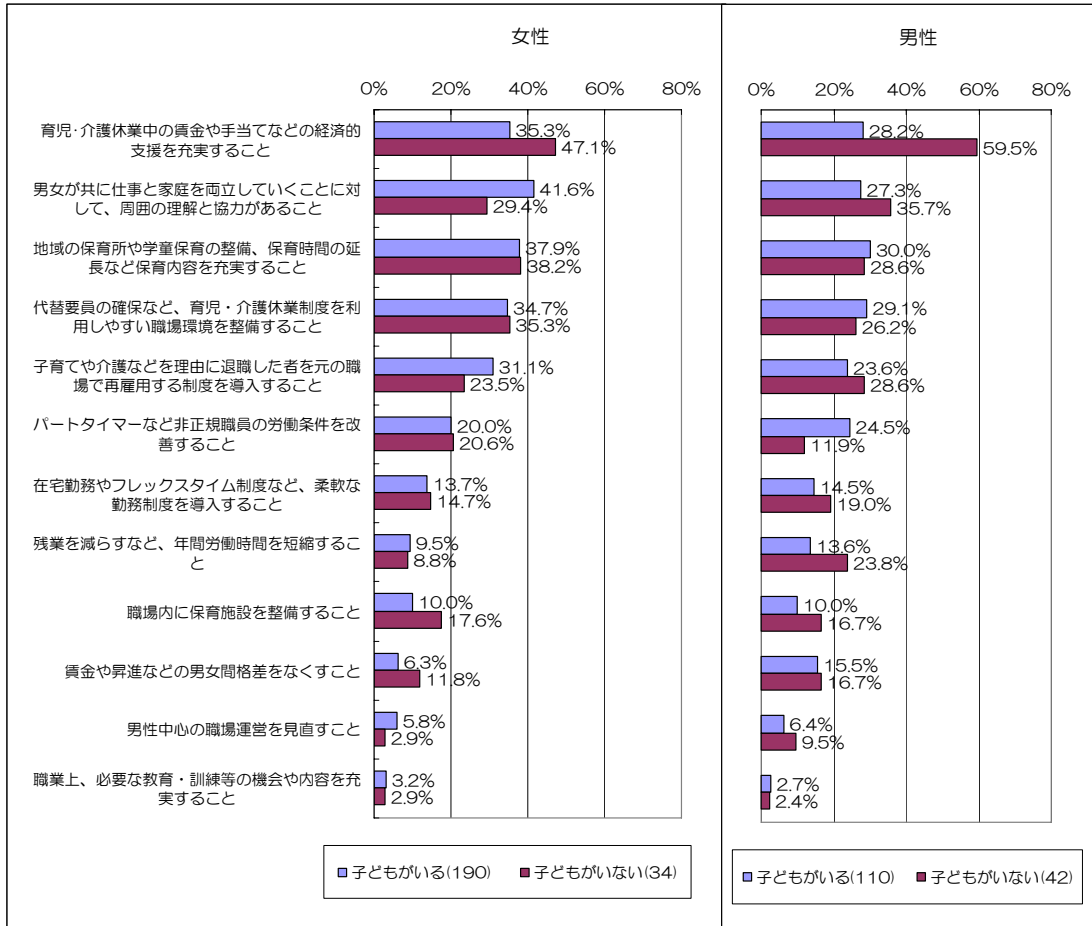


年代別では、男女とも 20 代で『育児・介護休業中の賃金や手当てなどの経済的支援を充実すること』（女性 65.0%、男性 72.7%）と回答している割合が高く、40 代では『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』（女性 48.3%、男性 36.4%）と回答している割合が高くなっている。

女性では、30 代（50.0%）、40 代（44.8%）、50 代（46.0%）で『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』と回答している割合が高くなっている。

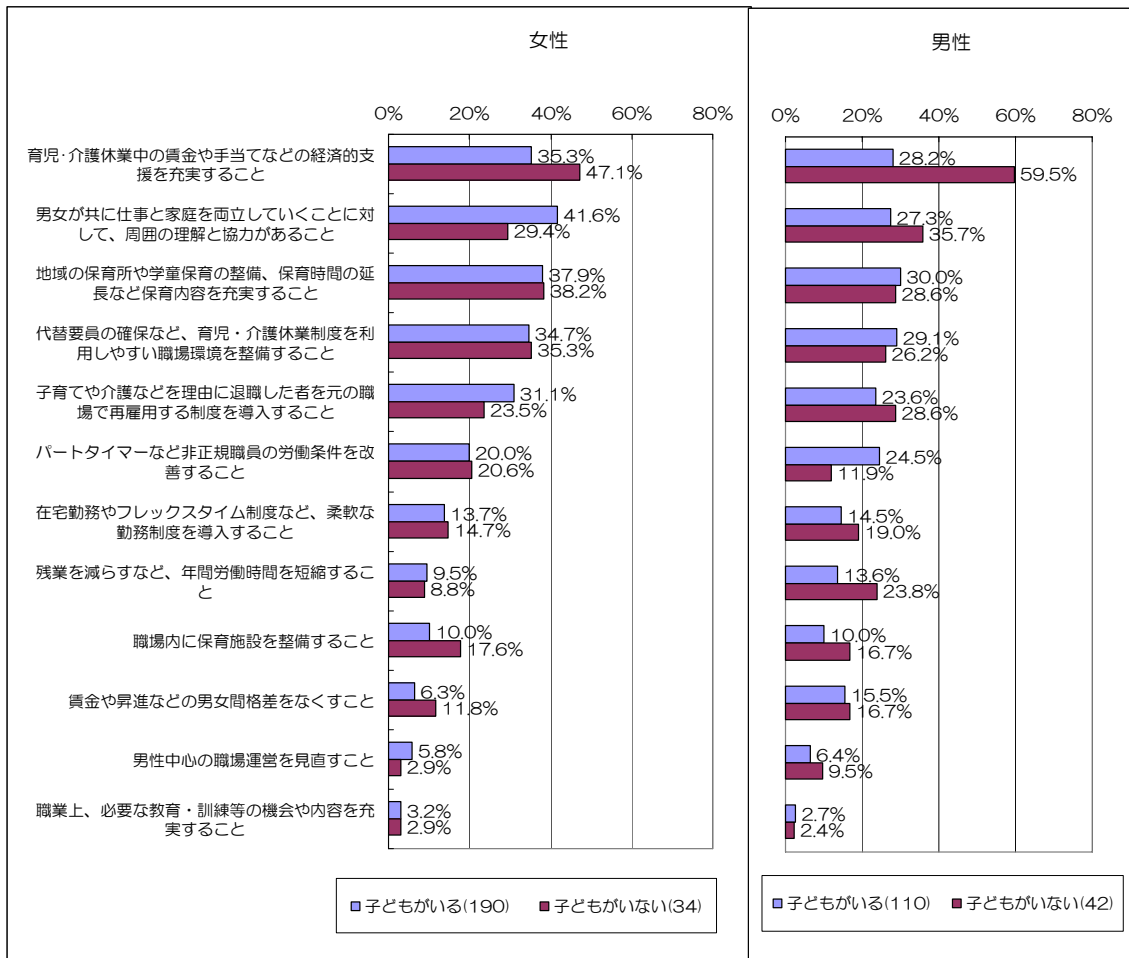
男性では、50 代では『パートタイマーなど非正規職員の労働条件を改善するこ

と』(35.1%)、30代では『残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること』(33.3%)と回答している割合が高くなっている。



子どもの有無別では、『育児・介護休業中の賃金や手当てなどの経済的支援を充実すること』では子どもがいる人(女性 35.3%、男性 28.2%)よりも子どもがいない人(女性 47.1%、男性 59.5%)のほうが回答している割合が高く、子どもの有無で差がみられる。

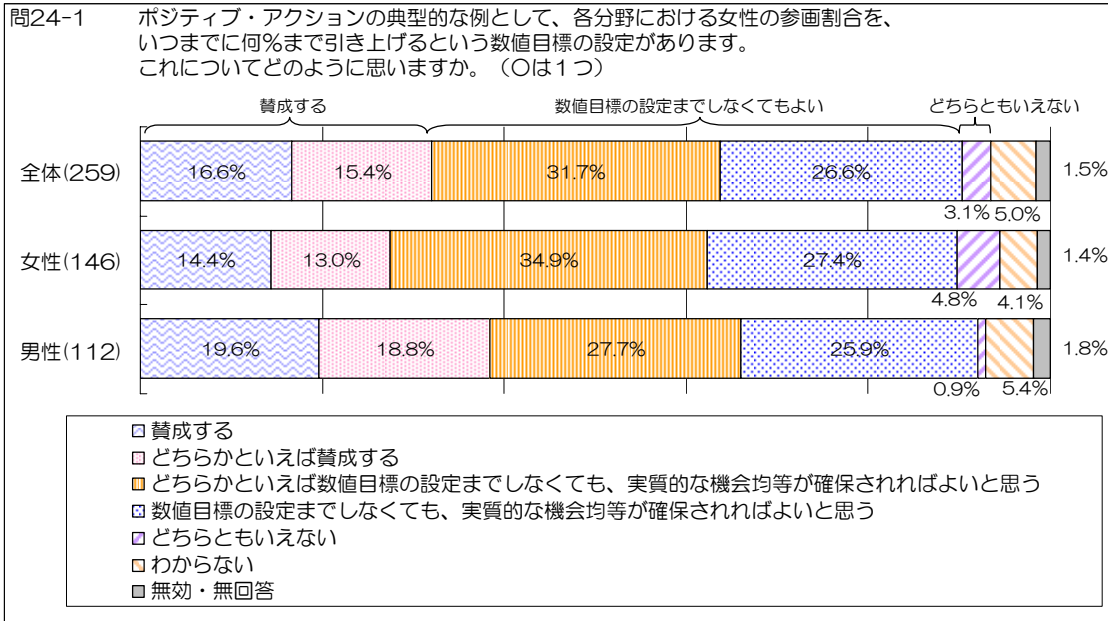
『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』では、女性では、子どもがいる人(41.6%)のほうが、子どもがいない人(29.4%)よりも回答している割合が高くなっているが、男性ではその回答割合が逆転し(子どもがいる人 27.3%、子どもがいない人 35.7%)、男女間及び子どもの有無で差がみられる。



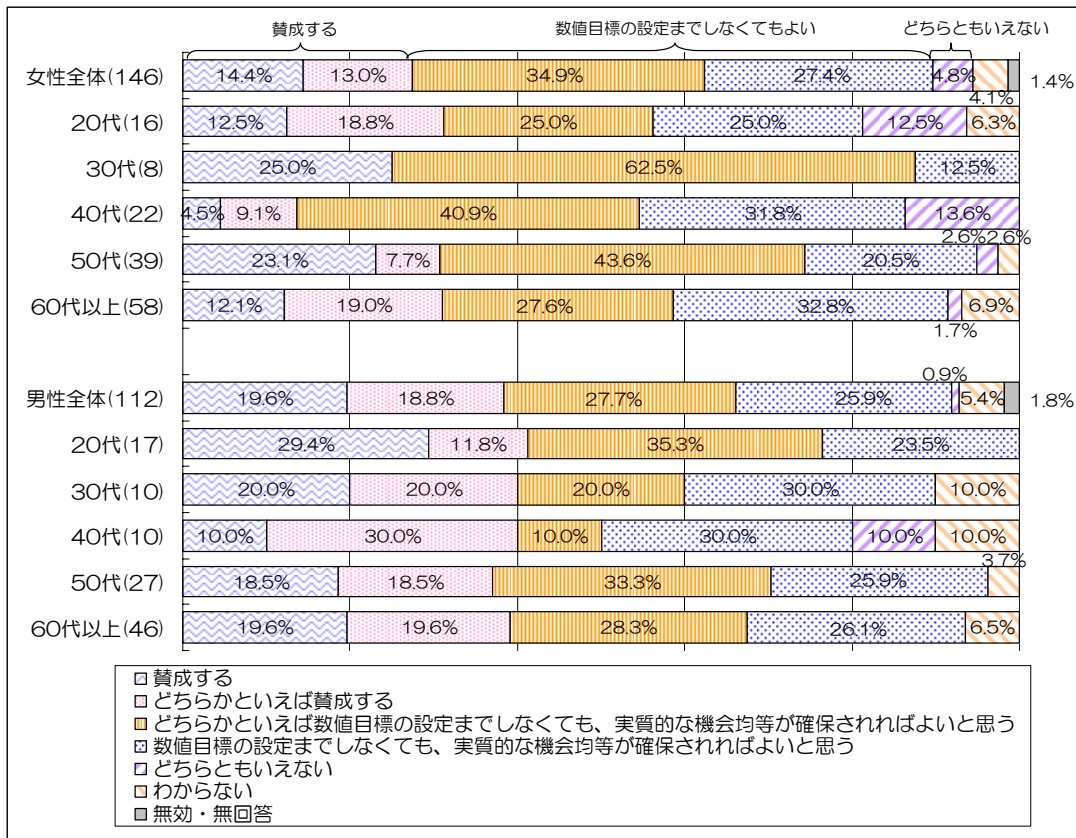
共働きをしている人は、女性では『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』（42.7%）及び『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』（42.7%）の回答割合が高く、男性では『パートタイマーなど非正規職員の労働条件を改善すること』（33.3%）が最も高く、次いで『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』（30.3%）となっている。

一方、共働きしていない人は、女性では『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』（41.8%）が最も高く、次いで『育児・介護休業中の賃金や手当てなどの経済的支援を充実すること』（35.8%）の回答割合が高く、男性では同率で『育児・介護休業中の賃金や手当てなどの経済的支援を充実すること』（33.3%）、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』（33.3%）の回答割合が高くなっている。

(2) 数値目標の設定についての考え方



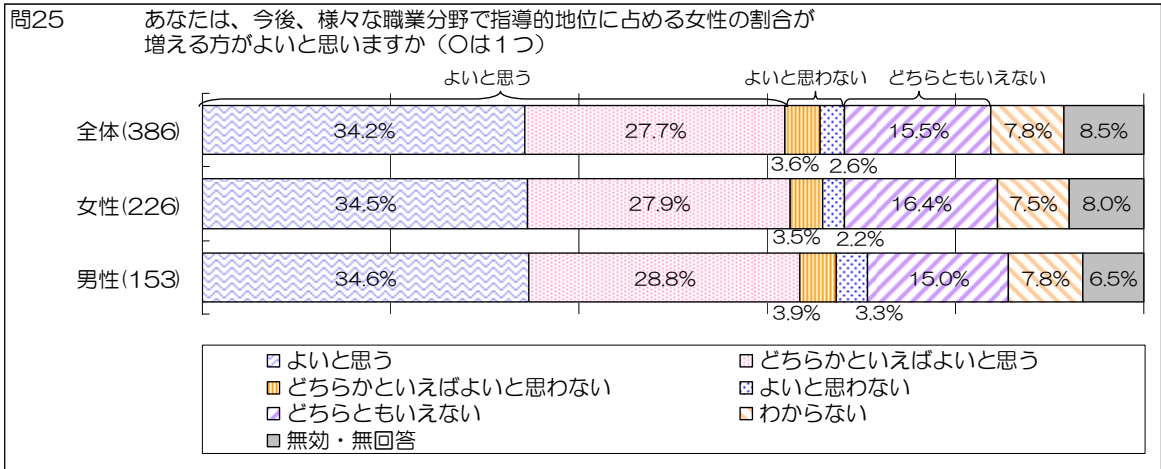
ポジティブ・アクションの取組みについて『賛成する』と回答した人に、ポジティブ・アクションの数値目標の設定について聞いたところ、数値目標の設定に『賛成する』(女性 27.4%、男性 38.4%) の回答割合よりも、『数値目標の設定までしなくてもよい』(女性 62.3%、男性 53.6%) の回答割合のほうが高くなっている。



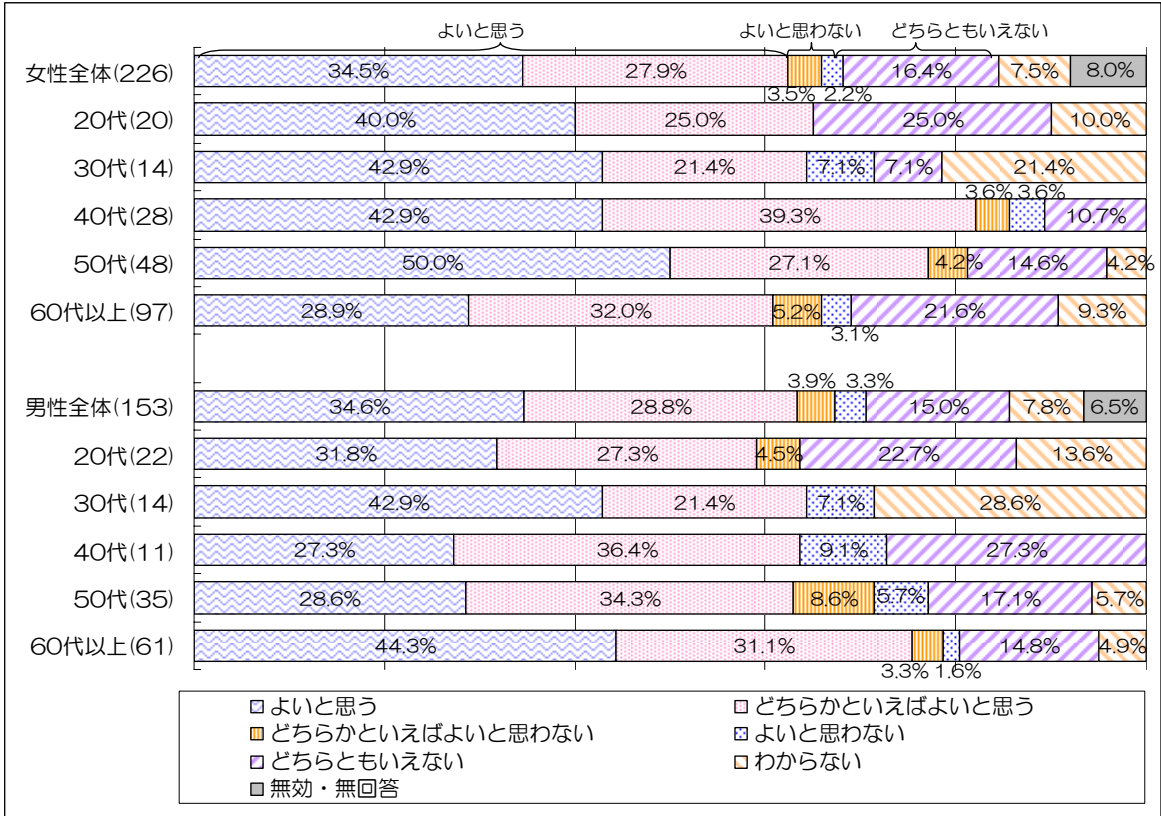
年代別に見れば、女性では各年代を通じて『どちらかといえば数値目標の設定ま
でしなくても、実質的な機会均等が確保されればよいと思う』と回答している割合
が高く、中でも30代(62.5%)で最も高くなっている。

男性では各年代を通じて『賛成する』と回答している割合が高く、20代(41.2%)
で最も高くなっている。

(3) 様々な職業分野への女性の参画について



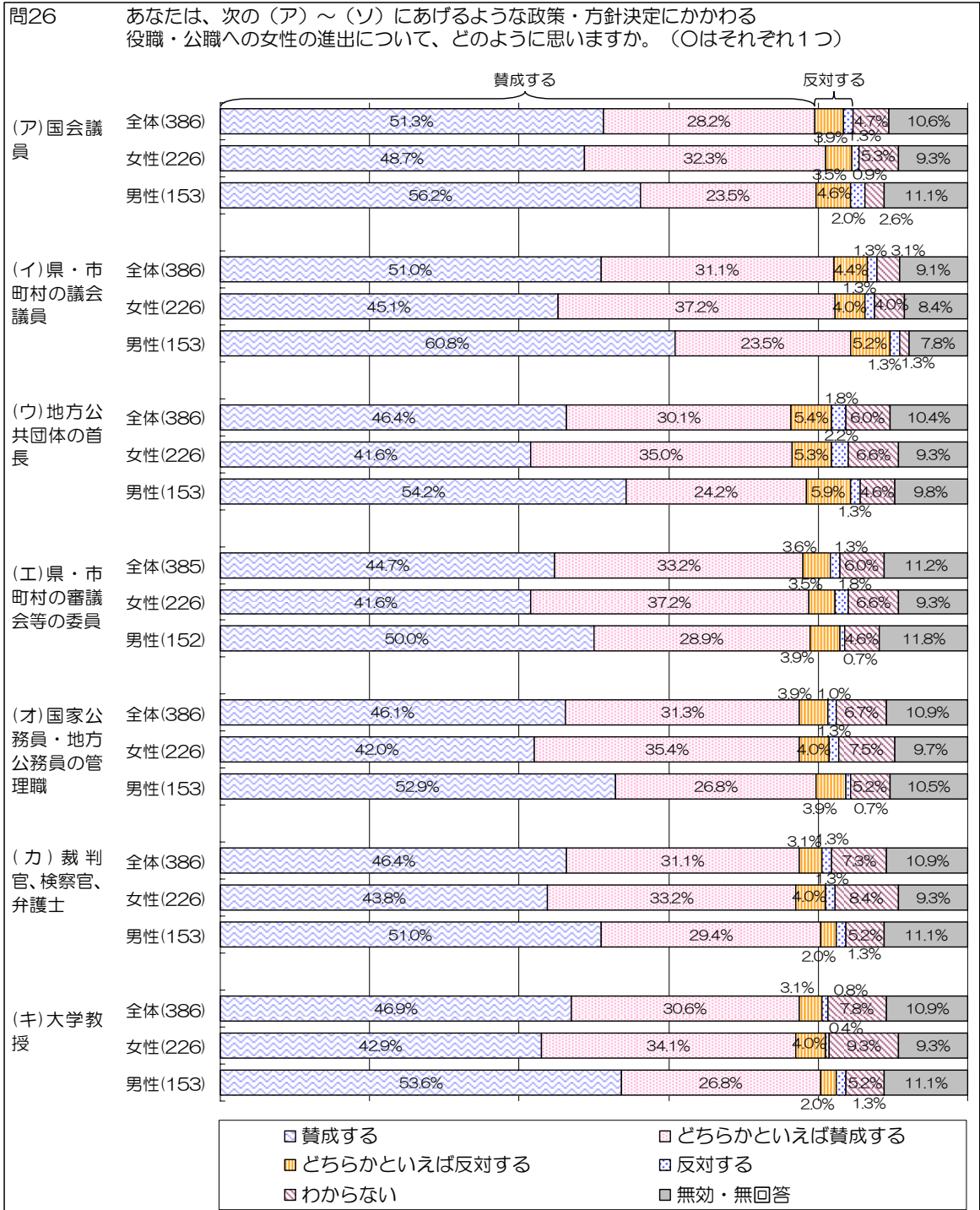
様々な職業分野での指導的地位への女性の参画については、男女とも『よいと思う』と回答している割合（女性 62.4%、男性 63.4%）であり、肯定的な意見が多くなっている。

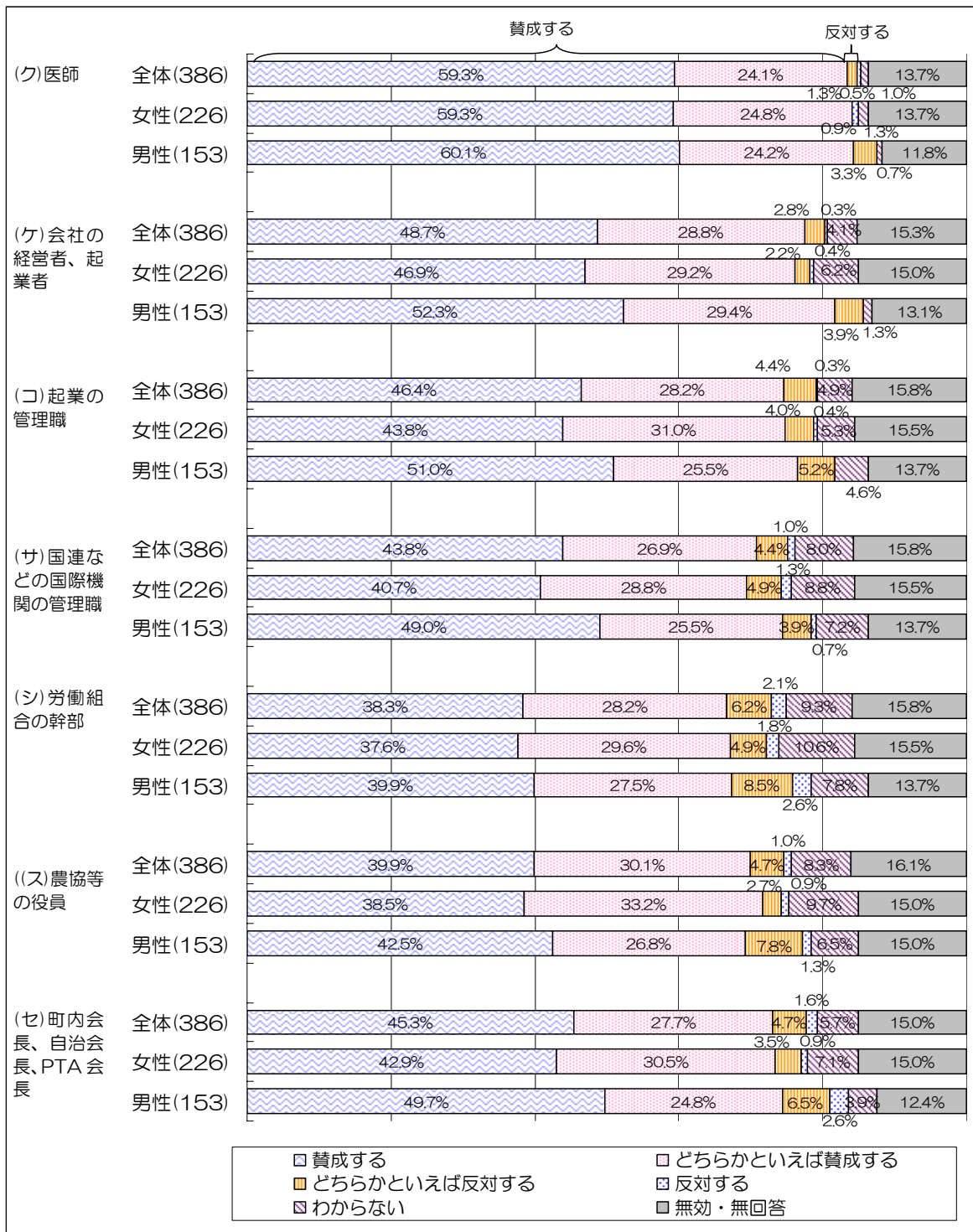


年代別では、男女とも各年代を通じて『よいと思う』と回答している割合が高く、中でも女性の 40 代（82.2%）、男性の 60 代以上（75.4%）が最も高くなっている。逆に、女性の 60 代以上（60.9%）、男性の 20 代（59.1%）が最も低くなっている。

1.1. 社会活動などへの参画

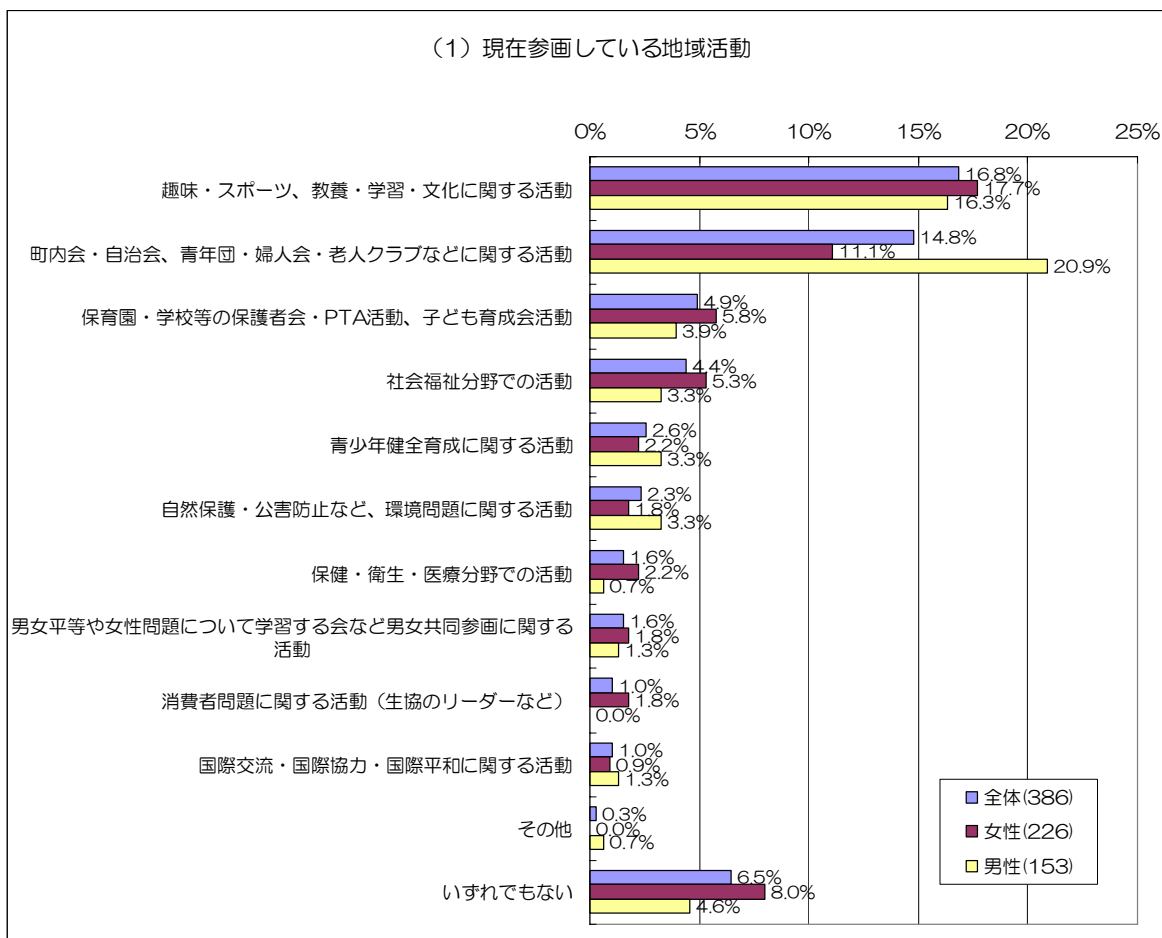
(1) 政策・方針決定にかかわる役職・公職への女性の進出についての考え方





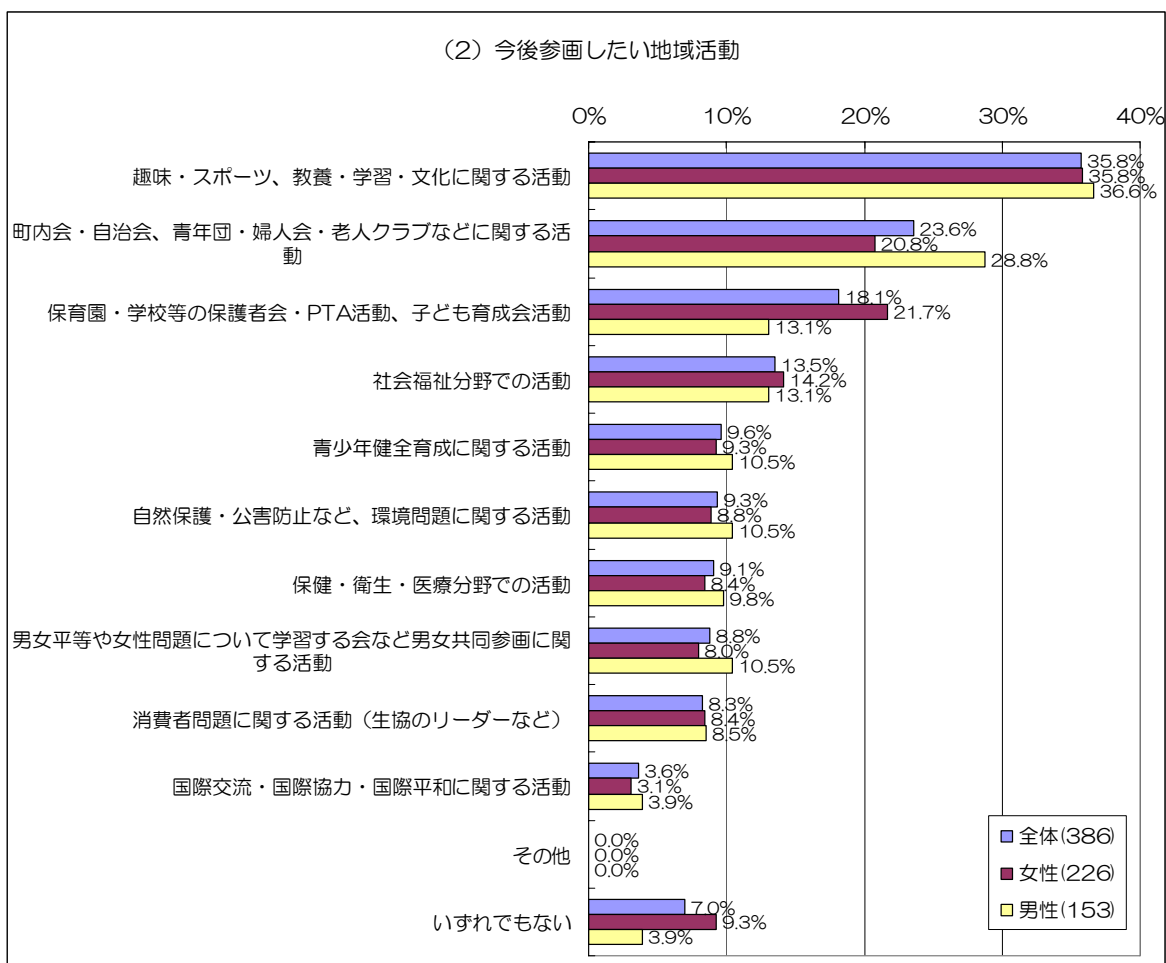
『国会議員』や『県・市町村の具会議員』などの14の役職・公職への女性の進出について聞いたところ、男女ともに、すべての役職・公職で約80%の人が『賛成する』と回答している。

(2) 地域活動への参画状況、参画意向



地域活動の中で、現在参画している取組みについては、男女とも『趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動』(女性 17.7%、男性 16.3%)、『町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブなどに関する活動』(女性 11.1%、男性 20.9%)がと回答している割合が高くなっている。

また、『保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動』は、全体で 4.9%の回答割合であるが、男性(3.9%)よりも女性(5.8%)のほうが回答している割合が高くなっている。



地域活動の中で、今後参画したい取組みについては、男女とも『趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動』（女性 35.8%、男性 36.6%）と回答している割合が高くなっている。

また、『保育園・学校等の保護者会・PTA 活動、子ども育成会活動』（女性 21.7%、男性 13.1%）に関しては、女性が 8.6 ポイント高く、男女に差がみられる。

12. 自由記述

- 優秀な女性の県外流出が多いように思います。
- 女性の参画割合を数値的に増やすことにこだわらず（能力のある）力のある女性を男性と同じ条件で登用することが大切だと思う。
- 男女共同参画はよいとは思いますが、学び教養を身につけなくてはならない
- 忙しい職場に勤務している方は大変だと思います（一般の会社員）。公共に働いている方の割合自由でのんびり。これはやはり各市町村一緒ですが、自分たちの子供にこのつけが回るので職場は自分の家の大きくなったものと考えて働いてほしいです
- 話し合うことは大事と思う
- 「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること」大事なことだと思います。
- 男女雇用機会均等法の改正が1999年4月1日に成立して、「女性が外で働くこと」が普通になってきた。また、男性看護師、男性の保育士、女性の新幹線の運転士と男女の職域が広がってきた。国連のジェンダー政策から「男女共同参画」の時代へと変わってきている。「職場・家庭・地域における男女共同参画の実現」大変うれしい目標です。女性の社会進出が進む中、「男だから、女だからではなく、男女が状況に応じて協力し合うこと、お互いの意識改革が進む社会になるようお願いします。
- 地方の習慣や伝統は大切にしたいと思う気持ちもありますが、祭礼などは典型的な男女役割分担でジレンマを感じます。都市部に暮らしたことがありますが、様々な場面で地方は女性の力が眠っていると思います。
- 積極的に能力の向上を図ること（知識・技術など）
- 社会に進出する女性が増える一方で家庭に入る男性も増えると思います。そういった家庭に入る人（主夫や主婦：社会的弱者？）への保障は整っているのでしょうか？また女性は、一般的に男性よりも様々な面で待遇が悪いというような印象をこのアンケートによって受けるが、待遇はそんなに悪くないと思います。（レディースデイしかり、女性専用車両しかり）

- ・「女性が進出しなければならない」ではなく、「女性が自分で選択できる」ことがあるとすると、それも問題。
 - ・女性がしたほうがいい、男性がしたほうがいい職業があると思う。女性がすべきではない、男性がすべきではない職業をそれぞれに押し付けるようなことがあってもだめ。
 - ・「男性が家庭に入るという選択肢が社会的に認められていないように思える。

- 男女の役割分担について、家庭にしる、社会にしる、様々あると思いますが、これまでのように固定的に考えるのではなく、それぞれ特長を生かして行うべきと考えます。また、女性進出を促すということで目標設定して何がなんでも割合を増やせばよいというものではないと思います。ここの能力の問題と考え、それを阻む障害の中に女であることがあれば取り除くということだと思います。

- 子どもを育てることを母親ばかりに責任を持たせない。夫や社会がもっと協力しなくてはならない。男女共同参画で特に（学校を出ただけの女ではなく）女が子育てをした人が責任者・指導者でなくてはだめ。

- 男女に精神的・肉体的に大きな差があるのでお互いの長所・短所を認め合いながらの社会での共同生活は非常に難しいと思いますが、少しずつ理想に近づいているようだ。

- 男女平等の原点ということでしょうが体の構造から考えても男女は確実に異なっているということで、能力にしても異なる点が多い。太古の昔から男と女それぞれの役割とか分担を持ってその形を保ち続けてきたはずで、突出したものはそれはそれでいいと思うが、声たてて叫ぶことはない。大事なことは人格を認め合うということ、人権を重視することです。

- 男性と女性は同じ人間であると共に確実に違う部分を持っており、お互いの違いをよく認識し、尊重することが必要であり、昨今のジェンダーフリーは行き過ぎである。

- 女性が男性の仕事をしなればいけない、と職場（バイト先で）言われました。私はそうではなく男性が得意な仕事もあれば、女性が得意な仕事があることを理解し、女性が仕事を認めるようになればよいと思います。

- 市総合計画・後期基本計画において、本市民意識調査は意義あるものと考えます。男女共同参画社会づくりに必要な参画計画は最も重要と思います。このために現在の行政審議会等は改め、選任等において男女のバランス・同一人が複数期在任することのないよう（一部を除くローテーションの検討）広く公平に人材を活用してこそ真に各審議会等の目的が達成されると思います。
- こういったアンケートを行っていること自体が悲しいことではないでしょうか？男も女も関係ないし、日本人は決め付けや偏見が多い。男だからとか女だからとか等決まっているのはおかしい。女の立場が弱いのも納得いかない。なぜ男ばかりが世間で偉いのだろう。
- 地方では男女共同参画社会など何十年かかっても無理だと思う。口では平等といながらも目はまったくそうは思っていない人がほとんど。
- 男女共同参画とは当たり前のこと。意見は特にありません。
- 女性の社会性という面から見た教育は必要ではないか。また、最近の女子高生等を見たとき、社会参画させるもよいが公共性等に対する認識が不足しているようにも見え、今後の社会の安定性保持に危惧を覚える。
- このようなアンケートをしていることはまだ男女差別がある証拠だと思う。
- 今、様々な子供や親とか家庭内の事件が多発しております。私自身は子育てが終わっておりますが本当にどうしてなんだろうと常に思っております。お金も大切ですが母親が働くことによって子供にとって心に満たされない部分があってあんな痛ましい事件が起きてしまうのだろうか？と思っています。食生活も原因の一つとか言われておりますが、やはり家庭が一番大事だと思っております。働くことも大事ですが、もっと大切なものを忘れられているのではないかと思っています。
- 戦後自由主義が騒がれ、自由とは不自由なものであると、本当の責任のある自由を学ばずの社会ができてしまったような気がします。男女共同参画は男性、女性が深く教養を深め人格の向上を図ってお互いの立場を理解して欲しいと思います。相手を尊重し会える社会に向かってゆきたく思います。
- 65歳を過ぎて農業をしているため、男も女もこの場合は同等になると思いますが、職場では共同参画といっても昔からの男と女の役割をしっかりと踏まえたうえでの働き方があると思います。

- 男女共同参画社会とは、大変難しい社会だと思います。昔のような社会生活ですと男は男、女は女としての義務があり、自営業にしろ、サラリーマンにしろ、夫婦共々助け合い、老人、子ども、両親とが一家族での生活でした。老人の知恵もいただき、子供たちも素直に育ちました。現代は介護施設、保育所などもあり、女性も社会に出て働きやすくなりましたが、家庭の仕事、子供の教育等、なかなか困難だと思います。しっかりとした子供の教育（道徳）等は大変必要なことだと思いますが、男女共同参画社会づくりについて反対だとは言いきれませんが、能力があり、実行できる方は自信を持って実行したらいかがでしょうか。安全で暮らしよい世の中をつくるためには男女共同参画社会づくりがよいかどうかはわかりません。
- 現在私の勤める会社（夷隅郡市内）または関連会社において男女格差はありませんが体力的な関係で事務職に限定されます。既婚の女性は家事等を理由に管理職を辞退しています。女性がすべてにおいて平等的社会参加は無理だと思える。社会的風習にて女性が家事をするという流れを変えない限り何の進歩もしないと思える。また、女性自身が前に進んでいこうという意識が薄いのでは？
- 今現在、子育てをされていて思うのですが、子供がいるとどうしても女性（母親）は外に働きに行くというのは結構難しいです。働きたくても出れないのが現状です。理由は、十分に整った保育施設がないことや子供がいても働きやすい職場がないことです。子供を産むのが母親だからって女ばかり不利になる点が多すぎます。それに育児にはものすごくお金がかかるのでたくさん子供が欲しくても実際は限られてしまうのが現状です。社会的にも、もっともっと手助けしていただきたく思います。
- 子持ちの人でも働ける場所を作って欲しい。子供を産むリスクが大きい。
- ポジティブアクション、期待していいものなのかどうかは何とも言えないというところが本音。
- ①男女で向き不向きの仕事があるので無理して均等にしないこと。②高い技術を持った女性でも仕事によっては産前産後の長期の休みを取れない仕事もある。（例）コンピュータソフトウェア開発等は一人で担当し、メンテナンスを含めて代替はかなり困難（元の仕事に復帰すること）
- 適したポジションがよいと思います。性別に関係なく。

- 時代の変化と共に、社会的変化も必要だと思います。すべてが平等ではない。(男と女の体の構造が違うので)でも、社会的地位については個々のやる気、頑張りだと思うので平等に評価されるべきだと思います。次世代が住みやすくなる様この意見が反映されればと思います。
- 勝浦市議会で女性議員が一人もいないことは残念なことである。
- 女性の社会進出については大いに賛成する。これを実現するためには社会全体として受け入れる体制を確立する必要があると考えます。また、女性の側からしても「女性だから・・・」と避けることもすべきではないと思う。
- 女性の地位向上を得るには、家事、子育てが大きな負担になり、結婚には消極的となりがちです。安心して働けるよう地域ごとに公共の施設や設備の設置を望みたい。最近、非常勤職員やパートタイマーですが、立派に職場の責任者として活躍している女性が多くよい傾向だと思います。心よりエールを送り応援する一人です。
- 男子・女子で差があるのは身体的な理由等から仕方のないこと。無理に差を埋めることは考えてしまうが、区別ではなく差別なら平等にしたほうが良いと思った。
- 日本の国が高度成長で物がありふれて、その反面国民がみな、金持ちになったものと勘違いし自由と平等という言葉の意味を違え、そもそも男と女は精神的、肉体的、構造的にも違うが、人間という面では平等にしなければならぬ。
 この国の社会において金を出せば何でも手に入る反面、あまりにも租税公課、保険、電気、ガス、水道、携帯電話、学費、その他様々なものにお金がかかりすぎて現在の男性（特に若い）では妻を養ってゆけないのでは当然、共働きにならざるを得ないので、女性にとっては家庭の中で負担がかかり、子供はつukらない、嫁には行かない女性が増えるのではないか。
 高齢化についても同じようなことがいえると思う。戦前生まれの人が引退し、戦中生まれの人は色々な分野に携わっているものの余りにも物事を知らなさ過ぎであり、憶測で物事を判断したり、年金や社会福祉を当てにしたり、また子供に対する家庭教育、一般常識は疎かであり、もちろん歴史文化や伝統文化はまるで無知といえるでしょう。
 国民一人ひとりが、ゆとりある考え方をすれば責任を担うべき社会はみんなのできるでしょう。
 このように男たちに任せておけないでしょうが、女性は内助の功で日本の社会を影で応援すべきではないのでしょうか。

- 今後の社会を担う女性たちも実力のある方は女性特有の知識や能力を活かして是非活躍して欲しいと思います。
- コンパを計画してください。独身なので出会いの場がなかなかありません。
- より民主主義、昔からの風習、しきたり、をなくすべ事はなくす。

調 査 票

男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査

平成 19 年4月27日
勝浦市役所企画課

「男女共同参画社会」とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」のことです。

【ご記入に当たってのお願い】

- (1) 回答は、必ずあて名の方ご自身をご記入ください。
- (2) お答えは、問1から順に、あなたのお考えにあてはまる番号に○印を付けてください。「その他」にあてはまる場合は、()内に具体的な内容をご記入ください。
- (3) お答えは、(○は一つ)とか(○はいくつでも)などの○の数を指定させていただいていますので、その範囲でご記入ください。
- (4) 一部の方だけにお答えいただく質問もあります。
- (5) ご記入は、黒もしくは青の鉛筆、ペン、ボールペンでお願いします。
- (6) ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、**5月31日(木)**までにご投函ください。

■ 男女平等に関する考え方についておたずねします。

※すべての方に

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次の(ア)～(キ)のそれぞれについてあなたの考えに最も近いものを選んでください。(○はそれぞれに1つ)

	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	どちらともいえない
(ア) 社会全体で						
(イ) 家庭の中で						
(ウ) 職場の中で						
(エ) 学校教育の場で						
(オ) 政治の場で						
(カ) 法律や制度のうえで						
(キ) 社会通念・慣習で						

※すべての方に

問2 今後、あなたが、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何でしょうか。(○は1つ)

1. 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
2. 性に基づく様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
5. 行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
6. その他()
7. わからない

※すべての方に

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. そう思わない
3. どちらともいえない

■ 家庭についておたずねします。

※すべての方に

問4 あなたは現在、結婚していますか。(○は1つ)

1. 結婚している(未婚だがパートナーと暮らしている方を含む)

2. 離別・死別

3. 未婚

(問4-1～3へ)

(問5へ)

※問4で「1. 結婚している」とお答えの方に

問4-1 あなた方ご夫婦は、共働きをしていますか。(自営業・パート・内職含む)(○は1つ)

1. 共働きをしている
2. 共働きをしていない

※問4で「1. 結婚している」とお答えの方に

問4-2 あなたのご家庭では、次の(ア)～(キ)にあげるような日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。(○はそれぞれに1つ)

	主に夫が行っている	主に妻が行っている	夫婦とも同じくらい行っている	主にその他の人が行っている	子どもや高齢者はいない
(ア) 食事の支度・あとかたづけ					/
(イ) 掃除・洗濯					
(ウ) 食料品・日用品等の買い物					
(エ) 役所等への用事・書類の作成					
(オ) 乳児・幼児の世話(現在、または過去に)					
(カ) 子どもの学校行事等への参加					
(キ) 高齢者の世話(介護)					

※問4で「1. 結婚している」とお答えの方に

問4-3 では、あなたは理想として、次の(ア)～(キ)にあげるような日常的な仕事はどのように分担するのがよいと思いますか。(○はそれぞれに1つ)

	主に夫が行う	主に妻が行う	夫婦とも同じくらい行う	主にその他の人が行う	子どもや高齢者はいない
(ア) 食事の支度・あとかたづけ					/
(イ) 掃除・洗濯					
(ウ) 食料品・日用品等の買い物					
(エ) 役所等への用事・書類の作成					
(オ) 乳児・幼児の世話					
(カ) 子どもの学校行事等への参加					
(キ) 高齢者の世話(介護)					

※すべての方に

問5 あなたは、次の(ア)～(サ)にあるような考えをどう思いますか。(○はそれぞれに1つ)

【結婚について】	そう思う	思う いえばそう	どちらかと 思わない	どちらかと いえばそう	そう思わ ない	どちらと もいえない
(ア) 女性も男性も結婚した方がよい						
(イ) 結婚する、しないは、個人の自由であるから、どちらでもよい						
(ウ) 結婚は個人の自由を束縛するものだから、一生結婚しない方がよい						
(エ) 結婚と性的関係は別である						
(オ) 結婚したら子どもを持つ方がよい						
(カ) 子どもを産み育てるのに、戸籍の上で結婚しているかどうかは関係ない						
(キ) 夫婦が別姓を名乗るのを認めた方がよい						

【離婚について】	そう思う	思う いえばそう	どちらかと 思わない	どちらかと いえばそう	そう思わ ない	どちらと もいえない
(ク) 結婚をした以上、離婚すべきではない						
(ケ) 子どもがいる場合は離婚すべきではない						
(コ) がまんして結婚生活を続けるよりも離婚した方がよい						
(サ) 離婚は自由である						

■ 少子・高齢化についておたずねします。

※すべての方に

問6 あなたは、出生率が低下している原因は何だと思えますか。(○は3つまで)

1. 子育てに経費がかかりすぎる
2. 子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み(雇用条件・保育等)が整っていない
3. 女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した
4. 子どもは少なく産んで、十分手をかけて育てたいという人が増えた
5. 子どもよりも仕事や余暇等を充実したいと考える人が増えた
6. 結婚しない人が増えた
7. 出産・子育てに対する男性(夫)の理解・協力が足りず、女性(妻)の精神的・肉体的負担が大きい
8. 住宅事情がわるい
9. 楽をしたい、子育てが面倒という人が増えた
10. その他(具体的に: _____)

※すべての方に

問7 あなたは、ご自分の老後について、不安に思うことが次の中であれば、あげてください。(○は3つまで)

1. 働きたくても仕事がないこと
2. 配偶者(パートナー)に先立たれること
3. 子どもが世話をしてくれるかどうかわからないこと
4. 適当な話し相手がいないこと
5. 適当な趣味がないこと
6. 介護してくれる人がいるかどうかわからないこと
7. 生活費のこと
8. 健康のこと
9. 住居のこと
10. その他(具体的に: _____)
11. 特に不安はない
12. 考えたことはない

※すべての方に

問8 あなたが、高齢になって、もし介護が必要となったときはどうされますか。現状のことも含めてお答えください。(○は1つ)

1. 配偶者(パートナー)に世話をしてもらう
2. 子どもや子どもの家族に世話をしてもらう
3. その他の親族に世話をしてもらう
4. 友人・知人に世話をしてもらう
5. ホームヘルパー(家事援助者)に世話をしてもらう
6. 老人ホーム(介護つき)に入る
7. 病院に入院する
8. その他(具体的に: _____)

■ 教育についておたずねします。

※すべての方に

問9 あなたは、子どもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。(○はそれぞれに1つ)

	そう思う	思う	どちらかといえはそう	どちらかと思わない	いえはそう	どちらかといえはない	そう思わない	どちらともいえない	どちらとも
(ア) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい									
(イ) 同じことをしても、男子だけ(女子だけ)が注意されることも必要である									
(ウ) 性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につける必要がある									
(エ) 男女共学で、女子しか(男子しか)受けられない授業の科目があってもよい									
(オ) 性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい									

■ 人権についておたずねします。

※すべての方に

問10 あなたは、女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことについてでしょうか。(○はいくつでも)

1. 売春・買春・援助交際
2. レイプ(強姦)などの女性への性暴力
3. 痴漢等の女性へのわいせつな行為
4. ストーカーなどの女性へのつきまとい行為
5. 夫婦生活における一方的セックスの強要
6. 家庭内での夫から妻への暴力
7. 職場等におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)
8. 女性の容姿を競うミス・コンテスト
9. 女性のヌード写真を掲載した雑誌等
10. 女性の体の一部などを内容と無関係に使用した広告
11. ポルノ映画・アダルトビデオ
12. その他(具体的に:)
13. 特に感じない
14. わからない

■ 男女共同参画に関する用語についておたずねします。

※すべての方に

問 1 1 次にあげる言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。(○はいくつでも)

1. 男女共同参画社会基本法
2. 男女雇用機会均等法
3. 女子差別撤廃条約
4. 北京行動綱領
5. ポジティブ・アクション(積極的改善措置)
6. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康・権利)
7. ジェンダー(社会的文化的につくられた性別)
8. 見たり聞いたりしたものはない
9. わからない

■ 職業についておたずねします。

※すべての方に

問 1 2 あなたの職業は次の中でどれにあたりますか。下の選択肢の中から選び、番号を記入してください。(番号は1つ)

※問 4 で「1. 結婚している」とお答えの方に

問 4 で「2. 離別・死別」か「3. 未婚」とお答えの方は問 1 3 へ

問 1 2 - 1 あなたの配偶者の職業は次のなかでどれにあたりますか。下の選択肢の中から選び、番号を記入してください。(番号は1つ)

自営業主	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農林漁業(農業、林業、畜産業、漁業などの自営主) 2. 商工サービス業(商店、飲食店、理髪店、修理業など) 3. 自由業(弁護士、開業医、芸術家など)
家族従業者	<ol style="list-style-type: none"> 4. 農林漁業(農業、林業、畜産業、漁業などの自営主) 5. 商工サービス業(商店、飲食店、理髪店、修理業など) 6. 自由業(弁護士、開業医、芸術家など)
勤務者	<ol style="list-style-type: none"> 7. 管理職(民間会社・団体・官公庁の課長級以上、大学の講師以上、学校の教頭以上) 8. 専門・技術職(技術研究員、勤務医師、看護師、教員、保育士、美容師など) 9. 事務職(一般事務員、営業員など) 10. 労務職(一般工員、建築作業員、運転手など) 11. パート、アルバイト、内職など
無職	<ol style="list-style-type: none"> 12. 専業主婦・専業主夫 13. 学生 14. その他無職(年金、金利生活者など) 15. その他(上記1～14まで該当しない方については具体的に:)

※配偶者の職業が無職の方（問12-1で「12」～「15」とお答えの方）に

問12-2 あなたの配偶者は、次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. すぐにでも働きたいと考えている | 3. 現在働いていないし、将来も働くつもりはない |
| 2. 将来は働きたいと考えている | 4. わからない |

※有職者の方（問12で「1」～「11」とお答えの方）に

無職の方（問12で「12」～「15」とお答えの方）は問15へ

問13 あなたの職場では、仕事の内容や待遇の面で、性別による差別はあると思いますか。（○は1つ）

1. 男性の方が優遇されている	→ (問13-1へ)
2. どちらかといえば男性の方が優遇されている	
3. 差別はない	
4. どちらかといえば女性の方が優遇されている	
5. 女性の方が優遇されている	
6. わからない	
7. あてはまらない	

※問13で「1」か「2」または「4」か「5」とお答えの方に

問13-1 それは、具体的にどのようなことですか。（○はいくつでも）

1. 賃金	7. 有給休暇や育児休業、介護休業の取得のしやすさ
2. 昇進・昇格	8. 結婚、出産退職などの慣行
3. 幹部職員への登用	9. その他(具体的に:)
4. 能力評価	10. わからない
5. 仕事の内容	
6. 教育・訓練の機会や内容	

※有職者の方（問12で「1」～「11」とお答えの方）に

問14 あなたの職場では、有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。（○はそれぞれに1つ）

	取りやすい	やすい い え ば 取 り	どちらか と い え ば 取 り	ど ち ら か と い え ば 取 り	取りにくい	い え な い	ど ち ら か と も	利用 でき る 制 度 が な い	わ か ら な い
(ア) 有給休暇									
(イ) 育児休業									
(ウ) 介護休業									

(→ 問17へ)

※無職の方（問12で「12」～「15」とお答えの方）に

問15 あなたが働いていないのはどうしてですか。（○は1つ）

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. 経済的に働く必要がないから | 7. 年齢面の制約のため |
| 2. 家事との両立が困難だから | 8. 健康面の制約のため |
| 3. 子育てとの両立が困難だから | 9. 配偶者（パートナー）等家族が望まないから |
| 4. 介護との両立が困難だから | 10. 家事や子育て、介護に専念したいから |
| 5. 適当な勤務条件（時間、場所等）の仕事がないから | 11. 定年退職したから |
| 6. 希望する仕事があったから | 12. その他（具体的に： _____） |
| | 13. 特に理由はない |

※無職の方（問12で「12」～「15」とお答えの方）に

問16 あなたは、将来働きたいとお考えですか。（○は1つ）

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. すぐにも働きたい
2. 将来は働きたい | 3. 働くつもりはない
4. わからない |
|---------------------------|-------------------------|

（問16-1～2へ）

- （
- ・ 男性の方で妻が有職者の方、または今後働きたいと考えている方は問19へ
 - ・ 上記以外の方は問20へ
- ）

※今後働きたいとお考えの方（問16で「1」か「2」とお答えの方）に

問16-1 どのような形で働きたいですか（○は1つ）

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 常勤（フルタイム） | 4. 自ら事業経営 |
| 2. パートタイム、アルバイト、
嘱託その他 | 5. 家事の手伝い |
| 3. 在宅勤務 | 6. その他（具体的に： _____） |

※今後働きたいとお考えの方（問16で「1」か「2」とお答えの方）に

問16-2 仕事をはじめるにあたって、どのようなものが重要だと思いますか。（○はいくつでも）

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1. 資格や免許の取得 | 8. 子育て支援体制（保育施設の充実や保育時間の延長など） |
| 2. 技能や専門知識の習得 | 9. 介護支援体制（介護施設やホームヘルパーの充実など） |
| 3. 資金 | 10. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度 |
| 4. 就業に関する情報 | 11. その他（具体的に： _____） |
| 5. 働くための様々な相談
に一元的に応じてくれる窓口 | 12. 特に何もない |
| 6. 採用の年齢制限の撤廃
または緩和 | |
| 7. 配偶者（パートナー）等家族
や周囲の理解協力 | |

※有職者の方（問12で「1」～「11」とお答えの方）と今後働きたいとお考えの方（問16で「1」か「2」とお答えの方）に

問17 働いている理由、または働きたい理由は何ですか。（○はいくつでも）

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 生計を維持するため | 9. 時間を有効利用するため |
| 2. 家計を補助するため | 10. 専門知識や経験を活かすため |
| 3. 住宅ローンなど借金の返済のため | 11. 仕事をするのが好きだから |
| 4. 教育資金を得るため | 12. 働くのは当然だから |
| 5. 老後の資金など将来に備えて貯蓄するため | 13. 視野を広げたり、友人を得るため |
| 6. 小遣い稼ぎのため | 14. 社会から取り残されそうだから |
| 7. いきがいを得るため | 15. 特に理由はない |
| 8. 社会に貢献するため | 16. その他(具体的に:) |
| | 17. わからない |

※女性の方で、有職者の方（問12で「1」～「11」とお答えの方）と今後働きたいとお考えの方（問16で「1」か「2」とお答えの方）に

問18 女性の管理職への昇任に関する意識についておうかがいします。

あなたは機会があれば、管理職になりたいですか。（○は1つ）

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. なりたい | 4. どちらでもよい |
| 2. なりたくない | 5. その他(具体的に:) |
| 3. 既に管理職である | 6. 考えたことがない |

※男性の方で、配偶者が有職者の方（問12-1で「1」～「11」とお答えの方）と、配偶者が今後働きたいとお考えの方（問12-2で「1」か「2」とお答えの方）に

問19 あなたは、妻に管理職になってほしいですか。（○は1つ）

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. なってほしい | 4. どちらでもよい |
| 2. なってほしくない | 5. その他(具体的に:) |
| 3. 既に管理職である | 6. 考えたことがない |

※問4で「1. 結婚している」とお答えの方に

問4で「2. 離別・死別」か「3. 未婚」とお答えの男性の方は問22へ、女性の方は問23へ

問21 現在の税制や社会保険制度では、配偶者特別控除など、年収が一定額を超えないように調整することによるメリットがあります。そこで、年収調整についておうかがいします。あなた、またはあなたの配偶者は、年収が一定額を超えないように調整しています(いました)か。(○は1つ)

1. 自分は年収調整をしている(していた)	→ (問21-1へ)
2. 配偶者は年収調整をしている(していた)	→ (問21-2へ)
3. どちらも年収調整をしていない(していなかった)	→ (男性の方は問22へ、 女性の方は問23へ)

※問21で「1. 自分は年収調整をしている(していた)」とお答えの方に

問21-1 税制や社会保険制度の見直しにより、年収調整のメリットがなくなった場合、あなたは、現状より長時間勤務する考えはありますか。(○は1つ)

1. はい	2. いいえ	3. わからない
-------	--------	----------

※問21で「2. 配偶者は年収調整をしている(していた)」とお答えの方に

問21-2 税制や社会保険制度の見直しにより、年収調整のメリットがなくなった場合、あなたは、配偶者に現状より長時間勤務してほしいですか。(○は1つ)

1. はい	2. いいえ	3. わからない
-------	--------	----------

※男性の方に

問22 あなたは、妻に家計をしっかりと支える収入を得てほしいと思いますか。(未婚の方は、結婚したと仮定してお答えください)(○は1つ)

1. 自分以上に収入を得てほしい
2. 自分よりやや少ない程度の収入を得てほしい
3. 年収100万円以下の補助的な収入を得てほしい
4. 妻には全く収入を得てほしくない
5. わからない

※すべての方に

問23 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること
2. 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること
3. 地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること
4. 職場内に保育施設を整備すること
5. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
6. 残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること
7. 子育てや介護などを理由に退職した者をもとの職場で再雇用する制度を導入すること
8. 男性中心の職場運営を見直すこと
9. 賃金や昇進などの男女間格差をなくすこと
10. パートタイマーなど非正規職員の労働条件を改善すること
11. 職業上、必要な教育・訓練等の機会や内容を充実すること
12. 男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること
13. その他(具体的に:)
14. わからない

■ 社会活動等への参画についておたずねします。

※すべての方に

問24 たとえば企業・行政等の管理職や審議会委員など、女性があまり進出していない分野で、女性の登用を計画的に進めていくことなどをポジティブ・アクション(積極的改善措置)といいます。これは、様々な分野における活動に参画する機会の男女間の格差を改善するために、必要な範囲内で、男女のいずれか一方に対し、その機会を積極的に提供することです。このような取り組みを行うことについてどのように思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1. 賛成する | → (問24-1) |
| 2. どちらかといえば賛成する | |
| 3. どちらかといえば反対する | |
| 4. 反対する | |
| 5. どちらともいえない | → (問25) |
| 6. わからない | |

※問24で「1」か「2」とお答えの方に

問24-1 ポジティブ・アクションの典型的な例として、各分野における女性の参画割合を、いつまでに何%まで引き上げるという数値目標の設定があります。これについてどのように思いますか。(○は1つ)

1. 賛成する
2. どちらかといえば賛成する
3. どちらかといえば数値目標の設定までしなくても、実質的な機会均等が確保されれば良いと思う
4. 数値目標の設定までしなくても、実質的な機会均等が確保されれば良いと思う
5. どちらともいえない
6. わからない

※すべての方に

問25 あなたは、今後、様々な職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増える方がよいと思いますか(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. よいと思う | 4. よいとは思わない |
| 2. どちらかといえばよいと思う | 5. どちらともいえない |
| 3. どちらかといえばよいとは思わない | 6. わからない |

※すべての方に

問26 あなたは、次の(ア)～(ソ)にあげるような政策・方針決定にかかわる役職・公職への女性の進出について、どのように思いますか。(○はそれぞれ1つ)

	賛成する	どちらかといえば賛成	どちらかともいえない	反対する	わからない
(ア) 国会議員					
(イ) 県・市町村の議会議員					
(ウ) 地方公共団体の首長 (都道府県知事、市町村長)					
(エ) 県・市町村の審議会等の委員					
(オ) 国家公務員・地方公務員の管理職					
(カ) 裁判官、検察官、弁護士					
(キ) 大学教授					

(ク) 医師					
(ケ) 会社などの経営者、企業家					
(コ) 企業の管理職					
(サ) 国連などの国際機関の管理職					
(シ) 労働組合の幹部					
(ス) 農協等の役員					
(セ) 町内会長、自治会長、PTA 会長					
(ソ) その他(具体的に:)					

※すべての方に

問27 次にあげる地域活動の中で、あなたが「(1)現在、企画から実行までの一連の取組み(参画)をしているもの」と「(2)今後参画してみたい地域活動、または引き続き参画したい地域活動はどれですか。(○はいくつでも)

	(1)現在参画している活動	(2)今後参画したい活動
(ア) 趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動		
(イ) 町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブなどに関する活動		
(ウ) 保育園・学校等の保護者会・PTA 活動、子ども育成会活動		
(エ) 青少年健全育成に関する活動		
(オ) 男女平等や女性問題について学習する会など男女共同参画に関する活動		
(カ) 消費者問題に関する活動(生協のリーダーなど)		
(キ) 社会福祉分野での活動		
(ク) 保健・衛生・医療分野での活動		
(ケ) 自然保護・公害防止など、環境問題に関する活動		
(コ) 国際交流・国際協力・国際平和に関する活動		
(サ) その他(具体的に:)		
(ス) いずれでもない		

